

埼玉県立近代美術館年報

平成26年度



ANNUAL REPORT 2014—THE MUSEUM OF MODERN ART, SAITAMA

■目次

埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント 及び戦略目標	3	入館者数一覧	70
施設	4	名簿	
美術館誌	5	埼玉県立近代美術館協議会委員	71
企画展		埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員	71
ピカソの陶芸	6	埼玉県立近代美術館利用審査会委員	71
戦後日本住宅伝説	13	埼玉県立近代美術館職員	71
MOMASコレクション	19		
MOMASコレクション[Ⅰ]	19		
MOMASコレクション[Ⅱ]	22		
サンデー・トーク	25		
休館中の展示活動			
埼玉県立近代美術館コレクション展 in 深谷	26		
たまもの in 川越	28		
埼玉県立近代美術館のポスター・デザイン展	31		
収集事業	33		
新収蔵作品一覧	34		
美術資料貸出等一覧	40		
教育・普及事業			
美術館講座			
近・現代建築探検ツアー	43		
子どものためのプログラム			
MOMASの扉	44		
夏休みの特別プログラム	45		
ミュージアム・コラボレーション	46		
企画展ワークシートの作成	47		
学校との連携	48		
博物館実習	52		
美術館ボランティア			
美術館サポーター	53		
教育普及サポート・スタッフ	53		
MOMAS彫刻ボランティア	54		
広聴・広報・刊行物	56		
図書資料の収集と公開	59		
椅子の美術館	59		
ハイビジョン・コーナー	59		
トピックス			
[1]第2回座れる段ボールの椅子グランプリ	60		
[2]大規模改修工事(第2期)の報告	62		
[3]心揺さぶるアート事業	63		
[4]あなたと どこでも アート/小さな家プロジェクト	64		
埼玉県立近代美術館フレンド	68		
貸館事業	69		

■埼玉県立近代美術館 ミッション・ステートメント及び戦略目標

埼玉県立近代美術館は世界の今を生きる全ての人のために存在します。

- 1 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験を提供します。
 - ① 身近な視点から世界の今をみつめ、国境や言語を超えて共有される美術の素晴らしさを紹介します。
 - ② 出会い・発見・感動をキーワードに、新たな視点に基づく展示や美術の楽しさを体感できるプログラムを提供します。
 - ③ 継続的な収集活動を通して特色あるコレクションを形成し後世に伝えます。また館内外での効果的な活用を通じてその魅力を紹介し付加価値を高めていきます。
 - ④ すべての美術館活動の基盤となる調査研究活動を重視します。

- 2 人々が集い、参加し、交流するための基地となります。
 - ① 魅力あるレストランやショップなど上質な空間とゆとりの時間を提供し、高齢者・障害者を含め誰もが利用しやすい環境を持った、居心地のよい美術館を目指します。
 - ② 美術に関する情報センターの役割を果たします。
 - ③ 美術を愛する人々の交流や自主的活動を支援します。

- 3 未来を創る子どもたちの感性と創造力を育みます。
 - ① 子どもたちとともに生き生きとした感性と創造力の素晴らしさを再発見していきます。
 - ② 学校現場との連携を深め、学校による利用の促進を図ります。

- 4 地域や県民とともに進化する美術館を目指します。
 - ① 県民のニーズや時代の変化に対応して進化する美術館を目指します。美術館の情報を公開し改善に努めます。職員の意識改革を継続して行います。
 - ② 美術館の持つあらゆる資源(人・作品・施設等)を有機的・効果的に活用し、新たな顧客層を開拓するとともに、美術館を支援してくださる方々の輪を広げます。
 - ③ 北浦和公園の活用も含め、美術館がまちのにぎわいの創出や地域の活性化に寄与するように努めます。

■施設

敷地面積	35,177㎡
建築面積	2,238㎡
延床面積	8,577㎡
展示壁長	1,440m
建築高さ	17.8m
構造	地上3階、地下1階、鉄筋コンクリート造、 一部鉄骨鉄筋コンクリート造
工期	昭和55年3月28日～昭和57年2月27日
設計	株式会社黒川紀章建築都市設計事務所
開館	昭和57年11月3日

黒川紀章設計の初の美術館である当館の建築上の特色を挙げると、建物全体がグリッド(格子)の立方体により構成されており、入口へのアプローチとして正面のエントランス・ポーチにグレーゾーン(内部と外部との中間領域)と呼ばれる鳥籠状の構造体が鳥のくちばしのように突き出ている。その四角い形の固さを破るように、ファサード(建物正面)には波状の曲面ガラスがはめこまれている。

各階に分かれた展示室の一体感を確保するため、建物中央に4層を貫く吹き抜けのセンター・ホールが設けられた。ここは天井から自然光を採り入れるとともに、中空にさまざまな展示物を吊り下げることが可能で、極めて特異な空間としてコンサートなどのイベントにも使われる。

2階の企画展示室は、前述の波状ガラスによるファサードの一部から、ギャラリーの中に直接外光が入ってくる。これは、密閉して一定不変の人工光線による状態にするという美術館構造の常識を打破する試みである。ここからは北浦和公園の美しい緑を目にすることができ、密閉されることで失われがちな美術館の中での人間性を回復するという意味でも注目される。

開館後の1985-86年には、田中米吉の作品《ドッキング》が外壁など建築と共生するように設置された。

■美術館誌

平成26(2014)年

- 4月 2日 「MOMASコレクション[I]」を開催(～6月8日)。
- 4月 5日 企画展「ピカソの陶芸 地中海にはぐくまれて」を開催(～5月18日)。レセプションにミゲル・アンヘル・ナバロ駐日スペイン大使、上田知事が出席
- 4月 6日 「見沼100年構想の会」による緑のボランティアが北浦和公園を整備(以降毎月第2日曜日)。
- 4月20日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 4月25日 SMF(Saitama Muse Forum)を加え、「第1回あなたと どこでも アート 実行委員会」を開催。文化庁 平成26年度 地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業助成により事業を実施(～3月31日)。
- 5月15日 「ファミリー鑑賞会」を常設展示室で開催。
- 5月27日 「第64回県展 埼玉県美術展覧会」を開催(～6月18日)。
- 5月31日 ポリスコンサートを北浦和公園で開催。
- 6月13日 「第1回埼玉県立近代美術館フレンド理事会」を開催。
- 6月14日 「MOMASコレクション[II]」を開催(～8月31日)。
- 6月28日 北浦和公園にて「獣医さん、事件ですよ」ロケ。
- 7月 5日 企画展「戦後日本住宅伝説 挑発する家・内省する家」を開催(～8月31日)。レセプションに出品者などが出席。
- 7月15日 「第1回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 7月25日 Facebookページを開設し、双方向型の情報発信を開始。
- 7月25日 北浦和公園にて「仮面ライダードライブ」ロケ。
- 8月21日 「第1回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 8月22日 「第1回心揺さぶるアート事業実行委員会」を開催。文化庁 平成26年度戦略的芸術文化創造推進事業委託により障害者による優れたアートについての調査を実施(～3月31日)。
- 8月23日 「座れる段ボールの椅子グランプリ」表彰式及び鑑賞会を開催。
- 9月 1日 第2期大規模改修工事のため休館(～4月10日)。
- 10月 4日 公民館などの他施設と共催した「MOMASの扉」を開催(以降1月24日まで計9回)。
- 10月 7日 移動展「埼玉県立近代美術館コレクション展

in 深谷 ふかく、やさしく一名画と出会う秋ー」を深谷市民文化会館で開催 (～10月26日)。

- 10月17日 「ミュージアム・キャラバン」を蕨市立西小学校で開催。講師として収蔵作家高田洋一氏を派遣。
- 11月17日 「ミュージアム・キャラバン」をさいたま市立日進北小学校で開催。講師として収蔵作家高田洋一氏を派遣。
- 11月19日 北浦和公園にて「仮面ライダードライブ」ロケ。
- 12月22日 北浦和公園環境改善工事(～3月23日)。
- 12月23日 移動展「埼玉県立近代美術館のポスター・デザイン展」を東部地域振興ふれあい拠点施設「ふれあいキューブ」で開催(～1月8日)。

平成27(2015)年

- 1月24日 移動展「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで一埼玉県立近代美術館の逸品大集合！」を川越市立美術館で開催(～3月15日)。
- 1月26日 「埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会」による審査(～2月3日)。
- 1月30日 北浦和公園音楽噴水改修工事(～3月25日)。
- 2月 6日 「第2回埼玉県立近代美術館利用審査会」を開催。
- 2月20日 「第2回埼玉県立近代美術館協議会」を開催。
- 3月13日 「第2回あなたと どこでも アート実行委員会」を開催。
- 3月20日 「第2回心揺さぶるアート事業実行委員会」を開催。
- 3月27日 北浦和公園に遊具1基設置。
- 3月31日 第2期大規模改修工事完了。

■企画展

■ピカソの陶芸 地中海にはぐくまれて Pablo Picasso Ceramic Works

- 会期：2014年4月5日(土)～5月18日(日)
- 主催：埼玉県立近代美術館
- 後援：スペイン大使館、セルバンテス文化センター東京
- 協賛：株式会社LEOC
- 協力：JR東日本大宮支社、FM NACK5
- 企画協力：株式会社新東通信
- 特別協力：株式会社ヨックモック
- 観覧料：一般1,000円(800円)、大高生800円(640円)
- 入場者数：9,352人
- 広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4/デザイン：山下雅士(sleepwalk)
- 担当学芸員：平野 到、前山裕司、吉岡知子



ホームページ、バナー

■開催趣旨

《ゲルニカ》をはじめ数々の傑作を描き、20世紀の芸術に大きな足跡を残した画家、パブロ・ピカソ（1881—1973）。第二次大戦中はナチス・ドイツ占領下のパリで制作を続けたが、終戦後、南仏の町ヴァロリスを訪れ、製陶業を営むマドゥラ工房と懇意になり、陶芸を本格的に始める。ピカソはすでに60歳代半ばであったが、故国スペインを彷彿とさせる、南仏の大きな地中海の風土のもとで、数千点に及ぶ陶芸作品を生み出した。丸い皿は顔に、水差しはふくろうに、壺は女性に見立てられ、奔放なイメージへと変貌していくピカソの陶芸は、子ども

のような遊び心にあふれ、創造の根源的な喜びを生き生きと伝えてくれる。

日本スペイン交流400周年事業として開催されたこの展覧会は、ピカソの監修によりマドゥラ工房で制作されたエディションの作品（原作陶器をもとに複数作られた作品）を展示した。また、冷戦下におけるピカソの平和運動との関わりなどにもふれながら、陶芸と同時代に手掛けた版画、ポスター、関連資料も紹介した。

■カタログ

規格：20.0×26.0cm、80頁

デザイン：山下雅士(sleepwalk)

編集：埼玉県立近代美術館

発行：株式会社新東通信

内容：主要な出品作品の図版／【テキスト】平野到「陶芸をめぐる戦後のピカソ」／【図版リストと作品解説】平野 到、前山裕司、吉岡知子／【年譜】吉岡知子編／【主な参考文献】

価格：1,600円

■関連事業

- ・上映会「ミステリアス・ピカソ 天才の秘密」/4月29日(火・祝日) 11:00～、15:00～の2回上映/2階講堂/料金：無料/監督・脚本・編集：アンリ＝ジョルジュ・クルーゾー（1956年、フランス、上映時間80分）/DVDによる上映/参加者：計171名
- ・ミュージアム・コンサート「スペイン～輝き、翳る、響き」/5月18日(日) 15:00～（演奏時間約60分）/センターホール（地階）/料金：無料/出演：関根彰良（トケ[ギター]）、大橋範子（カンテ[歌]）、井田真紀（バイレ[踊り]）/参加者：156名
- ・学芸員によるギャラリー・トーク/4月12日(土)、4月19日(土) 平野 到/参加者：計99名

■広報記録

<新聞>

- ・砂生敏一「5日から企画展 ピカソ陶芸に焦点」『埼玉新聞』2014年4月3日
- ・奥山はるな「県立近代美術館・改修こけら落とし ピカソの陶芸展」『毎日新聞』2014年4月8日
- ・佐藤達哉「ピカソ陶芸堪能 近代美術館130点を展示」『埼玉新聞』2014年4月9日
- ・谷岡聖史「ピカソの陶芸130点ずらり 県立近代美術館で企画展」『東京新聞』2014年4月20日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「ピカソの陶芸」『パピルス4月号』2014年4月1日
- ・「5月18日まで展覧会「ピカソの陶芸」」『ショッパー』2014年4月17日
- ・清水穰「複製芸術としての陶芸 「ピカソの陶芸」展」『美術手帖7月号』2014年6月17日
- ・告知：『たまログ4月号』2014年4月1日号／『Acoreおのみや4・5月号』2014年4月8日／号『まいにちスペイン語5月号』2014年4月18日号／『武州路5月号』2014年4月20日号／『ぱど川越』2014年4月25日号／『足利漫我人5・6月号』2014年5月1日号

<テレビ、ラジオ>

- ・FM浦和「ピカソの陶芸」2014年4月9日
- ・JCN関東「デイリーニュース」2014年4月22日

■担当後記

◆この展覧会は、株式会社ヨックモックのピカソの陶芸コレクションを紹介する案から出発した。ピカソのエディションの作品を中心とした同コレクションは充実した点数を揃えており、世界的にみても貴重なものである。今回は、その中から130点の代表的な陶芸作品をお借りした。また、ピカソの陶芸制作が1940年代後半から始まっている点を踏まえ、当館が所蔵する1944年の絵画《静物》や終戦後の社会との関係等も紹介しながら、ピカソの戦後の姿を捉えることを大きなねらいとした。

◆展示構成として、①ようこそ陶芸の世界へ、②新たな出会い、③源流へ、④戯れるイメージ、⑤自由と平和を求めて、という5つの章を設けた。陶芸作品の紹介を軸に据えながらも、インスピレーションを与えた女性との関係(②章)、自らの出自である地中海文化との繋がり(③章)、イメージの変容をもとにした表現(④章)、政治的な立場や平和運動との関係(⑤章)という視点を設け、戦後のピカソを多角的に読み解く構成にした。

◆20世紀初頭にキュビズムの手法を生み出した画家として知られるピカソであるが、最近では晩年(戦後)の制作についての研究が進んでいる。なかでも陶芸の作品は、晩年のピカソを探るうえでひとつの鍵となる。形を作り、絵付けをする陶芸は絵画と彫刻に通じる側面があり、型をつくれれば版画のように複製もできる。絵画、彫刻、版画といったジャンルを融合したような陶芸の制作に、ピカソが晩年に強い興味を抱いたのは、ごく自然であったといえるであろう。従って、ピカソの陶芸の作品を見ていくと、反対に、絵画、彫刻、版画の問題も浮かび上がってくる場合も少なくない。実際に、陶板作品にはリノカット作品の版を用いて制作されて

いるものがある。陶芸という分野を超えて、ピカソが生涯にわたり興味を抱いていた造形的な手法を読み取ることができるのも、本展の興味深い点であった。



オープニング・レセプションの様子



会場風景

■企画展「ピカソの陶芸 地中海にはぐくまれて」出品リスト

*リストは出品作品を各章ごとに、陶芸作品、その他の作品に分け、制作年順に掲載している。展示の順番とは異なる。

*作品データは次の通り。和文作品名／欧文作品名／制作年／寸法(mm)

*原則として、データは所蔵先から提供されたものに従っている。

*陶芸作品以外は、末尾に技法を記した。

*陶芸作品は、すべて株式会社ヨックモックの所蔵。それ以外の作品の所蔵先については、末尾に記した。

*ピカソのエディションの陶芸作品は、①「原作陶器の母型（雌型）を用いて、陶工の手で、型を抜き、絵付けを施したもの」と、②「原作陶器をもとに、型抜きの方法ではなく、陶工の手で、成形し、絵付けを施したもの」に、概ね大別できる。①については、出品リスト番号に*を付した。

*参考資料として展示しているものは、リストの最後に、概ね展示の順番に記した。

No.	作品名	Title	制作年	寸法(mm)ほか
I ようこそ陶芸の世界へ				
1	《笛を吹く人》	Diapos player	1947年	390×316×45
2	《色とりどりの鳥》	Polychrome bird	1947年	320×390×45
3	《「黒い顔」の食器セット》	“Black face” service	1948年	417×417×41
4	《「黒い顔」の食器セット》	“Black face” service	1948年	238×238×22
5	《斑点のある黒い顔》	Speckled black face	1948年	390×323×42
6	《ふくろう》	Wood-owl	1948年	314×385×46
7*	《山羊の横顔》	Goat's head in profile	1952年	311×509×47
8*	《山羊の横顔》	Goat's head in profile	1952年	315×512×50
9*	《山羊の横顔》	Goat's head in profile	1952年	408×403×53
10*	《スプーンのある静物》	Still life with spoon	1952年	339×329×51
11	《大きな鳥 闘牛》	Large corrida bird	1953年	430×385×553
12	《風景》	Landscape	1953年	417×414×43
13	《彫り込まれた黒い顔》	Black engraved face	1953年	200×197×360
14*	《枝の上のバッタ》	Grasshopper on a branch	1955年	180×180×64
15*	《楕円形の顔》	Face in an oval	1955年	330×395×42
16	《ふくろう(光沢仕上げ)》	Bright owl	1955年	384×310×45
17	《女性の顔》	Woman's face	1955年	325×395×50
18	《男性の顔》	Man's face	1955年	391×318×46
19*	《花束を活けた花瓶》	Vase with bunch	1956年	250×247×26
20*	《ヴァロリス》	Vallauris	1956年	423×423×40
21*	《格子のある顔》	Face with grid	1956年	420×420×45
22*	《線で描かれた幾何学的な顔》	Geometric face with lines	1956年	410×410×55
23*	《仮面をつけた顔》	Head with mask	1956年	302×305×42
24	《顔》	Head	1956年	298×317×18
25*	《縞柄の大きな壺》	Big candy-striped vase	1956年	375×375×450
26*	《格子じまの大きな壺》	Big plaid vase	1956年	430×437×380
27	《羽を広げたふくろう》	Owl with spread wings	1957年	434×436×68
28	《4つの顔のあるアステカの壺》	Aztec vase with four faces	1957年	510×260×260
29*	《顔》	Face	1960年	423×423×41
30*	《ランプの下のグラス》	Glass under lamp	1964年	250×250×133
31*	《キュビスムの顔》	Cubist face	1968年	220×219×23
32*	《山羊ひげのある顔》	Face with goatee	1968年	315×315×25
33	《笑い目の顔》	Laughing-eyed face	1969年	343×265×225

No.	作品名	Title	制作年	寸法(mm)ほか
34	《黒い鼻の顔》	Face with black nose	1969年	332×275×225
35	シュザンヌ&ジョルジュ・ラミエ『ピカソの陶芸』 Suzanne and Georges Ramié, <i>Céramiques de Picasso</i>		1948年	385×285×115 書籍(出版:アルベール・スキラ) 埼玉県立近代美術館蔵
36	ポスター 《ピカソ陶芸展(フランス思想会館)》 Poster for Poteries de Picasso, maison de la pensée française		1948年	610×400 リトグラフ・紙 公益財団法人 池田20世紀美術館蔵
37	ポスター 《ピカソ陶芸展(フランス思想会館)》 Poster for Picasso, exposition de céramiques, maison de la pensée française		1958年	650×480 リトグラフ・紙 公益財団法人 池田20世紀美術館蔵
38	ポスター 《ピカソ陶芸展、マドゥラ陶器工房のエディション作品(セレ市立近代美術館)》 Poster for Picasso, céramiques et pâtes blanches, empreintes originales, éditions Madoura, musée municipal d'art moderne, Cérét		1958年	660×510 リノカット・紙 公益財団法人 池田20世紀美術館蔵
II 新たな出会い				
39	《花の女性》	Flower women	1948年	322×213×342
40	《アヒルの形をした花器》	Duck flower-holder	1951年	442×200×412
41	《3本脚の器》	Tripod	1951年	280×268×740
42*	《シルヴェット》	Sylvette	1955年	173×173×62
43*	《シルヴェット》	Sylvette	1955年	180×180×66
44*	《ジャクリヌの横顔》	Jacqueline's profile	1956年	397×395×47
45*	《ジャクリヌの横顔》	Jacqueline's profile	1956年	420×420×47
46*	《イーゼルの前のジャクリヌ》	Jacqueline at the easel	1956年	425×425×40
47*	《イーゼルの前のジャクリヌ》	Jacqueline at the easel	1956年	422×422×35
48*	《ジャクリヌの横顔》	Jacqueline's profile	1956年	186×186×29
49	《ジャクリヌの横顔》	Jacqueline's profile	1962年	361×361×31
50*	《飾りのついた帽子をかぶる女性の顔》	Woman's big head with decked hat	1964年	620×510×24
51*	《ふわふわした髪の女性》	Fluffy-haired woman	1964年	460×380×70
52*	《花飾りのついた帽子をかぶる女性》	Woman with flowery hat	1964年	460×380×70
53*	《女性の胸像(小)》	Little bust of woman	1964年	420×340×50
54	《首飾りをつけたジャクリヌの肖像》	Portrait of Jacqueline with necklace, resting on her elbow	1959年	750×620 リノカット・紙 高崎市美術館蔵
55	《肘をつく女》	Woman resting on her elbow	1959年	640×530 リノカット・紙 公益財団法人 池田20世紀美術館蔵
III 源流へ				
56	《「魚」の食器セット》	"Fish" service	1947年	400×400×50
57	《「魚」の食器セット》	"Fish" service	1947年	236×236×40
58	《「魚」の食器セット》	"Fish" service	1947年	270×405×310
59	《牧羊の顔》	Faun's head	1947年	392×319×45
60	《4匹の色とりどりの魚》	Four polychrome fishes	1947年	360×295×50
61	《3匹のいわし》	Three sardines	1948年	306×371×47
62	《牧羊の顔》	Faun's head	1948年	380×320×45
63	《「プロヴァンスのフルーツ」の食器セット》	"Fruits from Provence" service	1948年	217×213×35
64	《「プロヴァンスのフルーツ」の食器セット》	"Fruits from Provence" service	1948年	134×134×75
65	《「プロヴァンスのフルーツ」の食器セット》	"Fruits from Provence" service	1948年	216×212×35
66	《ケンタウロス》	Centaur	1950年	390×390×40
67*	《槍を持つもの》	The pike	1950年	395×395×40
68	《魚》	Fishes	1950年	297×297×249
69*	《踊る人 大壺(白)》	Large vase with dancers (white engobe)	1950年	325×330×705
70*	《踊る人 大壺(黒)》	Large vase with dancers (black engobe)	1950年	332×323×722
71*	《ヴェールをかけた女性 大壺》	Big vase with veiled women	1950年	302×321×675

No.	作品名	Title	制作年	寸法(mm)ほか
72*	《笛を吹く人》	Flute player	1951年	249×246×37
73*	《手と魚》	Hands with fish	1953年	314×316×59
74*	《ピカドールと牡牛》	Picador and bull	1953年	236×235×26
75*	《闘牛の情景》	Tauromachy scene	1954年	179×177×64
76*	《闘牛の情景》	Tauromachy scene	1954年	168×170×59
77*	《人物と顔》	Figures and heads	1954年	250×259×567
78*	《牧神の顔》	Faun's face	1955年	179×178×63
79*	《牧神の顔》	Faun's head	1955年	260×255×25
80*	《ウニ》	Sea-urchin	1955年	178×178×67
81*	《ウニ》	Sea-urchin	1955年	180×180×68
82*	《鳥と魚》	Birds and fishes	1955年	492×482×500
83*	《苦悩する牧神の顔》	Tormented faun's face	1956年	424×422×41
84*	《ケンタウロス》	Centaur	1956年	422×423×39
85*	《笛を吹く人 牧神》	Diaulos player and faun	1956年	320×320×42
86	《3匹の魚 グレーの地》	Three fishes on grey ground	1957年	415×415×60
87	《円形闘技場》	Arena	1958年	307×307×215
88*	《闘牛の情景》	Tauromachy scene	1959年	420×420×40
89*	《闘牛： 入場》	Paseo	1959年	413×411×32
90*	《闘牛： ケープ(闘牛士が操るマント)で牡牛をかかわす》	Pase de capa	1959年	413×413×34
91*	《闘牛： ピカドール(馬に乗って槍で刺す役)》	Picador	1959年	417×414×29
92*	《闘牛： バンデリジェーロ(鉞を刺す役)》	Banderilleros	1959年	410× 411×31
93*	《闘牛： ムレータ(棒に巻いた赤い布)で牡牛をかかわす》	Pase de muleta	1959年	411×412×26
94*	《闘牛： 角で闘牛士を突き上げる》	Cogida	1959年	411×413×32
95*	《闘牛： とどめの一突き》	Estocada	1959年	413×413×30
96*	《闘牛： 死んだ牡牛を引きずって行く》	Arrastro	1959年	413×413×31
97	『ヴェルヴ』誌、1948年、19-20号	Verve, no.19-20, 1948	1948年	360×270×115 雑誌(出版：テリアード) 個人蔵
98	《闘牛》	La Tauromaquia	1957年/ 1959年刊	350×494ほか 26点組(表紙を除く) アクアテント・紙 高崎市美術館蔵
<p>第1図《野原の牡牛たち》 Toros en el campo/第2図《闘牛場へ》 A los toros/第3図《闘牛士たちの入場》 Paseo de cuadrillas/第4図《ドン・タンクレドによる呼び込み》 Suerte llamada de Don Tancredo/第5図《囲いから放たれた牡牛》 El toro sale del toril/第6図《ケープ(闘牛士が操るマント)を手にし牡牛に向かう》 Citando al toro con la capa/第7図《ヴェロニカの技(ケープでかわす技)》 Toreando a la verónica/第8図《長槍による跳躍》 Salto con la garrocha/第9図《おとなしい牡牛の退場》 Los cabestros retiran al toro manso/第10図《槍の技》 Suerte de varas/第11図《牡牛に犬をけしかける》 Echan perros al toro/第12図《ピカドール(馬に乗って槍で刺す役)による強い一撃》 El picador obligando al toro con su pica/第13図《バンデリジェーロ(牛に突き刺す鉞)へ牡牛をさそう》 Citando a banderillas/第14図《一対のバンデリジェーロを突き刺す》 Clavando un par de banderillas/第15図《椅子に座りバンデリジェーロへ牡牛をさそう》 Citando al toro a banderillas sentado en una silla/第16図《牡牛の死を捧げるマタドール(牛にとどめを刺す闘牛士)》 El matador brinda la muerte del toro/第17図《ムレータ(棒に巻いた赤い布)の技》 Suerte de muleta/第18図《角で突く牡牛》 La cogida/第19図《死へと追いやる》 Citando a matar/第20図《とどめの一突き》 La estocada/第21図《とどめをさす闘牛士、牡牛の死を予感する》 Después de la estocada, el torero señala la muerte del toro/第22図《牡牛の死》 Muerte del toro/第23図《牡牛を引きずり出す》 El arrastre/第24図《観衆の肩にのり退場する闘牛士》 El torero sale en hombros de los aficionados/第25図《槍をもって牡牛に向かう》 Citando al toro con el rejón/第26図《牡牛を槍で突く》 Alanceando a un toro</p>				
IV 戯れるイメージ				
99	《小さなふくろう》	Little wood-owl	1949年	125×150×120
100*	《4つの横顔》	Four enlaced profiles	1949年	263×262×22
101*	《4つの横顔》	Four enlaced profiles	1949年	266×266×23
102	《大きな鳥 黒い顔》	Large bird, black face	1951年	580×420×450
103	《ふくろうの女性》	Wood-owl woman	1951年	285×225×155
104	《2本の持手のある器》	Vase with two high handles	1952年	380×250×180

No.	作品名	Title	制作年	寸法(mm)ほか
105	《女性の顔のふくろう》	Woman-faced wood-owl	1952年	218×154×283
106	《ふくろう》	Owl	1952年	245×245×540
107	《大きな鳥 ピカソ》	Large bird, Picasso	1953年	465×400×550
108	《女性の顔》	Woman's face	1953年	350×330×200
109	《ひげのある男性》	Bearded man	1953年	295×185×334
110	《ひげのある男性の妻》	Bearded man's wife	1953年	363×260×200
111	《2本の持手のある器》	Vase with two high handles	1953年	270×180×385
112	《ふくろう》	Owl	1953年	257×185×318
113	《花をつけた女性の顔》	Woman's head crowned with flowers	1954年	175×155×230
114	《泉》	The source	1954年	253×170×300
115	《牡牛》	Bull	1955年	242×205×309
116*	《胸》	The breast	1955年	178×178×65
117*	《胸》	The breast	1955年	175×175×61
118	《女性》	Woman	1955年	135×105×310
119	《女性》	Woman	1955年	138×105×323
120	《女性のランプ》	Woman lamp	1955年	190×135×360
121	《女性のランプ》	Woman lamp	1955年	350×180×140
122	《4つの顔の壺》	Four faces	1959年	184×129×229
123	《緑の鳥の大壺》	Large green bird vase	1960年	560×460×415
124*	《草上の昼食》	Luncheon on the grass	1964年	510×618×30
125	《小さな頭、左向き》	Little head, left profile	1965年	105×290
126	《大きな頭、右向き》	Large head, right profile	1965年	105 ×285
127	《サッカー選手》	Footballer	1965年	250×115×118
128	《ふくろう》	Wood-owl	1968年	300×230×160
129	《二人の裸婦》	Two nude women	1945-46年	261×336ほか 18点組 リトグラフ・紙 福島県立美術館蔵
V 自由と平和を求めて				
130	《鳩(つや消し仕上げ)》	Mat dove	1948年	320×389×45
131	《屋根窓の鳩》	Dove at the dormer	1949年	320×389×45
132	《麦わらの上の鳩》	Dove on straw bed	1949年	310×375×45
133	《鳩(光沢仕上げ)》	Bright dove	1953年	315×139×45
134*	《4人の踊る人》	Four dancers	1956年	253×250×28
135*	《4人の踊る人》	Four dancers	1956年	244×247×23
136*	《4人の踊る人》	Four dancers	1956年	245×245×26
137*	《生きる喜び》	Joy of living	1956年	414×412×38
138	《踊り》	Dancing	1957年	315×390×45
139	《鳩》	Dove subject	1959年	216×103×151
140	《静物》	Still life	1944年	657×921 油彩・カンヴァス 埼玉県立近代美術館蔵
141	スカーフ 《平和のための世界青年学生祭典(東ベルリン)》 Scarf for the world festival of youth and students for peace, Berlin		1951年	790×805 シルクスクリーン・リネン 個人蔵
142	新聞挿絵『リュマニテ(日曜版)』紙・1953年12月27日号掲載 from <i>L'Humanite Dimanche</i> , 27 December 1953		1953年	A2判 新聞 個人蔵
143	ポスター 《アムニスティア》のための版画 Print for the poster of amnistia		1959年	708×515 リトグラフ・紙 公益財団法人 池田20世紀美術館蔵

No.	作品名 Title	制作年	寸法(mm)ほか
144	新聞挿絵《ユーリイ・ガガリンの肖像》—『リュマニテ』紙・1961年4月18日号 掲載 Portrait of Yuri Gagarin from <i>L'Humanité</i> , 18 April 1961	1961年	130×147 新聞 個人蔵
145	ポスター《平和運動国民会議(イシー=レ=ムリノー)》 Poster for national congress of the peace movement, Issy-les-Moulineaux	1961-62年	1000×645 リトグラフ・紙 公益財団法人 池田20世紀美術館蔵
146	ポスター《全面軍縮と平和のための世界会議(モスクワ)》 Poster for world congress for general disarmament and peace, Moscow	1962年	1000×660 リトグラフ・紙 公益財団法人 池田20世紀美術館蔵

<参考資料展示>

■フランソワーズ・ジロー/カールトン・レイク『ピカソとの生活』(Françoise Gilot and Carlton Lake, *Life with Picasso*)、1964年、書籍(出版:マグロウヒル) 個人蔵 ■『ヴェルヴ』(*Verve*)誌、1951年、25-26号、雑誌(出版:テリアード)、埼玉県立近代美術館蔵 ■写真パネル:1955年、ジャクリース・ロックと闘牛場にて ■ジョン・リチャードソン『ピカソ 地中海時代 1945-1962』(John Richardson, *Picasso. The Mediterranean Years 1945-1962*)、2010年、書籍(出版:ガゴシアン・ギャラリー)、個人蔵 ■ブラッサイ『語るピカソ』(Brassaï, *Conversations avec Picasso*)、1964年、書籍(出版:ガリマール)、個人蔵 ■『アトリエ』、1949年2月号(265号)、雑誌(出版:アルス)、埼玉県立近代美術館蔵 ■『みづゑ』、1954年8月号(588号)、雑誌(出版:美術出版社)、埼玉県立近代美術館蔵 ■『みづゑ』、1949年9月号(526号)、雑誌(出版:美術出版社)、埼玉県立近代美術館蔵 ■『みづゑ』、1951年5月号(548号)、雑誌(出版:美術出版社)、埼玉県立近代美術館蔵 ■『みづゑ』、1951年10月号(554号)、雑誌(出版:美術出版社)、埼玉県立近代美術館蔵 ■『藝術新潮』、1951年1月号、雑誌(出版:新潮社)、埼玉県立近代美術館蔵 ■『藝術新潮』、1951年5月号、雑誌(出版:新潮社)、埼玉県立近代美術館蔵 ■『ピカソ 陶器・石版画展覧会』、1951年、展覧会図録(主催:文藝春秋新社、会場:上野松坂屋)、島田安彦コレクション蔵 ■『ピカソ展』、1951年、展覧会図録(主催:読売新聞社、会場:東京・日本橋高島屋、その後大阪に巡回)、島田安彦コレクション蔵/埼玉県立近代美術館蔵 ■『ピカソ』、1951年、作品集(出版:読売新聞社)、島田安彦コレクション蔵

■戦後日本住宅伝説 挑発する家・内省する家 Legendary Houses in Postwar Japan - Provocative / Introspective

■会期：2014年7月5日(土)～8月31日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

■監修：五十嵐太郎

■助成：芸術文化振興基金

■協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン・日本興亜損保、日本テレビ放送網

■協力：JR東日本大宮支社、FM NACK5

■観覧料：一般1,100円(880円)、大高生880円(710円)

()は団体20名以上の料金

■入場者数：19,322人

■広報印刷物：ポスターB2、ちらしA4/デザイン：大溝裕 (GLANZ)

■担当学芸員：伊豆井秀一、前山裕司、平野到



B2ポスター

■開催趣旨

現代彫刻と見紛うような建築があらわれるようになり、その違いを問われた建築家は「内部があること」と応えた。日常生活の展開される「住宅」はその内部に問題が収斂されていくと考えてよいだろう。

建築の最も基本的な「住宅」に焦点をあてたこの展覧会、すべて戦前生まれの16人の建築家によるもので、彼等の思考が結晶となったものである。

戦後の生活スタイル、工法や建築素材も変化していくなか、住宅をどうとらえて表現していくか、都市化の進むなか、伝統の参照、モダンスタイルの追求など、変化していく都市の状況のもと、戦後の建築家のこころみはさまざまだった。一方で国の政策とも密接な関係のある住宅政策は似たような「住宅」を生み出しもしていた。こうした状況に対して「住宅は芸術である」(1962)とし、篠原一男は住宅の重要性を宣言する。国家的イベントである大阪万博がおわり、70年代に入ると建築家の眼差しは強く内部に向けられ、従来の「住宅」の考えを覆すような動きも見られた。この展覧会は、人間の私的な居場所である「住宅」に個々の建築家が、芸術性を視野に内なる眼差しを注ぎ、どう取り組み解答を引き出したか、挑発し、あるいは内省する戦後住宅の流れを、今や伝説ともなった70年代までの作品によって建築家のコンセプトとともに探らうとするものである。

■カタログ

規格：29.5×22.0cm、168頁

デザイン制作：大溝裕 (GLANZ)

編集：埼玉県立近代美術館・広島市現代美術館・松本市美術館・八王子市夢美術館

発行：新建築社

内容：【エッセイ】建昌哲(当館館長)「住宅の神話」/五十嵐太郎(本展監修者・東北大学教授)「建築家にとって住宅とは何だったのか」/伊豆井秀一(当館学芸員)「戦後住宅への一視点一白の意味」
【出品作品 図版・解説】【資料編 資料再録】
【戦後日本住宅年表】【展覧会模型制作者一覧】
【謝辞】【監修】五十嵐太郎【展覧会担当 図録編集】埼玉県立近代美術館(伊豆井秀一、前山裕司、平野到)、広島市現代美術館(神谷幸枝、小島ひろみ)、松本市美術館(大西哲理)、八王子市夢美術館(浅沼壘)、STUDIO POH(星裕之)

価格：2,000円



会場入口風景



展示会場

■関連事業

- ・対談 ①：「戦後日本住宅について」7月21日(日) 五十嵐太郎(本展監修者東北・大学教授)×建昌哲(当館館長)／②：「世代を超えて」8月17日(日) 原広司(本展出品者)×西沢立衛(建築家)／参加者：①110名、②102名
- ・建築ツアー 7月16日(水)見学建築「新宿ホワイトハウス」・「塔の家」講師：磯達男(建築ジャーナリスト)／参加者：19名
- ・担当学芸員によるギャラリー・トーク／7月26日(土) 前山裕司、8月16日(土) 伊豆井秀一／参加者：計80名。

■広報記録

<新聞>

- ・新井護「「伝説」の住宅紹介 近代美術館で企画展」『埼玉新聞』2014年7月9日
- ・佐藤達哉「建築家16人の思想を知る 50～70年代の住宅紹介」『埼玉新聞』2014年7月18日
- ・「著名建築家の住宅作品展 模型などで紹介」『読売新聞』2014年7月19日
- ・アライ＝ヒロユキ「個人を活かす居住空間とは 戦後日本住宅伝説展」『赤旗新聞』2014年7月23日

- ・永田晶子「世界的評価の原点 戦後日本住宅伝説」『毎日新聞夕刊』2014年7月30日
 - ・高野清見「戦後日本住宅 特殊な歩み 「狭小」で個性競った建築家」『読売新聞』2014年7月31日
 - ・窪田直子「制約逆手に創意満ちる 「戦後日本住宅伝説」展」『日経新聞』2014年8月6日
 - ・伊豆井秀一「ステンドグラスの眼がウィンク 戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家〇上」『読売新聞』2014年8月12日
 - ・前山裕司「70年代 都市生活の未来像 戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家〇中」『読売新聞』2014年8月13日
 - ・伊豆井秀一「闇と静寂が支配する空間 戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家〇下」『読売新聞』2014年8月15日
 - ・大西若人「戦後日本住宅伝説 挑発する家・内省する家(図録紹介)」『朝日新聞』2014年8月17日
 - ・古谷利裕「生活と表現 ズレを内包」『東京新聞夕刊』2014年8月22日
- <雑誌、ミニコミ誌等>
- ・「戦後日本住宅伝説～挑発する家・内省する家 展」『o-cube』2014年6月1日
 - ・「建築家たちの、戦後の住空間でのさまざまな試みを体感」『GOLD』2014年7月号
 - ・「建築家16人の試みに迫る 戦後日本住宅伝説」『埼玉よみうり』2014年6月20日
 - ・青野尚子「闘い、思索にふける日本の戦後住宅。」『VOGUE』2014年8月号
 - ・「今や伝説となった70年代までの16の建築」『月刊ギャラリー』2014年7月号
 - ・「戦後住宅史の黄金期を振り返る 五十嵐太郎」『週刊文春』2014年7月16日
 - ・「1950～70年代、住まいを革新した、16人の建築家の試みに迫る」『住まいの設計』2014年9月号
 - ・常田カヲル「戦後の建築家の思考と実践に触れ、「住」をじっくり考える」『散歩の達人』2014年8月号
 - ・伊豆井秀一「戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家」『美連協ニュース』8月号
 - ・告知：『美術手帖』2014年7月号／『J:COMチャンネル』2014年6月25日／『J:COMクーポン』2014年6月25日／『新美術新聞』2014年7月1日／『コンフォルト』2014年8月号／『CasaBRUTUS』2014年8月号／『埼玉往来』2014年7月15日／『Acoreおおみや』7・8月号／『新建築住宅特集』2014年7月19日／『Men'sJOKER』2014年9月号／『ショッパー』2014年8月21日

<テレビ、ラジオ>

- ・NHK「日曜美術館アートシーン」2014年7月27日
- ・NHKFM「首都圏ニュース」2014年8月9日
- ・テレビ埼玉「テレ玉ニュース」2014年8月19日

<ウェブ>

- ・青野尚子「戦後日本住宅伝説」展『PenOnline』2014年7月5日
- ・長谷川香苗「埼玉県立近代美術館「戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家」展」『jiku』2014年7月11日
- ・宮沢洋「名作を原寸で体感、埼玉で「戦後日本住～伝説」展」『ケンプラッツ』2014年7月11日
- ・南泰裕「思考の結晶としての住宅」『artscape』2014年7月15日
- ・川畑博哉「埼玉県立近代美術館で「戦後日本住宅伝説」展が開催中」『AllAboutイエコト』2014年7月24日
- ・「戦後日本住宅伝説～挑発する家・内省する家」SAITAMA『casabrutus.com』2014年7月28日
- ・竹中朗「『戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家』@埼玉県立近代美術館」『art&SCIENCE』2014年7月31日
- ・青野尚子「Art Exhibition・Legendary Houses in Postwar Japan」『PARKING MAGAZINE』2014年8月4日
- ・加藤孝司「『戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家』、開催中」『エキサイトイズム』2014年8月12日
- ・「『戦後日本住宅伝説』～埼玉県立近代美術館企画展を訪れて」『HOME'S PRESS』2014年8月22日

■担当後記

- ◆通常、建築展は写真、模型、図面で構成される。以前当館で開催した「都市を創る建築への挑戦」の構成を参考に15、6人の建築家を選出し、一作家一住宅の区割り想定。美術展として出来るだけ視覚的に楽しめるものを念頭に計画した。まず写真を5枚、出来るだけ大きくパネル仕立てとする。模型は1/50で外観、1/30で内観の2パターンを国内の建築系の大学研究室に作成を依頼。図面は原則原図を展示するものとし、立面、平面、矩計図を含め5枚くらいを展示。これに、個々の建築を撮影した映像を大型のモニターで流すことで計画。見積もりを概算したところ、建築写真の著作権は展示、図録、さらに広報にも発生し高額になるため、一時は特定の写真家に撮影依頼をする案も出された。いずれにせよ、建築展には経費がかかる。1館では開催不能なので当初から共催館を探すことからスタートした。
- ◆さまざまな要素を含みつつ現代の住宅は展開しているが、メディア受けを狙い、外観に意を用いたファッション的傾向が強い現況に対し、「批判的な意図をこめたつ

もりで、住む」ということの意義を踏まえ、深く内部に眼を向けてもらおうと意図した。決して戦後住宅の名作選にしたわけではない。戦後を経、大阪万博を境に70年代には建築家の眼差しが内部に強くそそがれ、彼等の思考の結晶として新しい住宅建築が次々に生まれた。この展覧会の区切りを70年台にした理由もそこにある。展示作家はすべて戦前生まれであるが、取り上げた住宅のひとつひとつが、大きな問題をふくんでおり、伝説ともなった理由も具に理解された。

- ◆具体的に住宅内部を理解してもらうために、各建築5、6分くらいを目途に映像をモニターで流した。展覧会用に制作したもののなかには売って欲しいという要望もあったくらいである。16の建築は、美術界ではまだしも、建築界ではよく知られた建築だが、建築関係者が多く来館し、じっくりと時間をかけ観覧していた。2度目の来館だという人も多く、建築ファンだけでなく専門家に対しても意義ある展観であったということになるだろう。
- ◆展示については構成を含め、出品作家や撮影した写真家からも素晴らしいとお褒めの言葉を頂いたが、各作家1点、大きく写真を引き伸ばしたタピスリーは内部空間や建築の実物を想起させるのに効果的だったようである。一方で巡回会場により、天井高の異なるところからタピスリーの長さが大きなネックとなった。今後の課題である。
- ◆実際の空間を想起させるための装置として「塔の家」の平面図を実物大に引き伸ばしたパネルを援用したが、観客が狭い空間の居間のパネルの上に立って発する歓声や愉快そうな表情が印象的だった。
- ◆会場内のタピスリーを写真撮影可にした効果は大きく、ネットでの宣伝効果に大きく与った。
- ◆大学や建築関係の学生が授業を兼ねて教授や教師とともに多く訪れるなど、多数の観客があり、販売予定図録は完売。増刷数もなくなり、巡回会場先で購入していただくこととなって希望者に迷惑をおかけした。



磯崎新×建帛哲館長 対談収録風景

■企画展「戦後日本住宅伝説―挑発する家・内省する家」出品リスト

*リストは、出品建築家/出品作品ごとに、写真、図面、模型、映像、その他に分けて掲載している。

◆丹下健三 Kenzo TANGE (1913-2005) / 住居 House 1953

写真 大型出力写真「縁側」[撮影：平山忠治]、写真パネル4点[撮影：平山忠治]

図面 青図2点[平面図/配置図]

模型 スケール1/30 [制作：芝浦工業大学 堀越英嗣研究室/2013年/香川県庁蔵]

映像 上映時間：3分15秒/写真提供：神谷宏治/映像制作：中川陽介

その他 丹下健三《イージーチェア》/デザイン1957年/天童木工製作

◆増沢 洵 Makoto MASUZAWA (1925-1990) / コアのあるH氏の住まい Residence for Mr.H. Planned by Center Core System 1953

写真 大型出力写真「居間より庭を見る」[撮影：新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影：新建築社写真部]

図面 原図5点[配置図及平面図/矩計詳細図/屋内展開図/立面図/平面詳細図]

模型 スケール1/50 [制作：奥村潤/2000年/増沢建築設計事務所蔵]

映像 上映時間：11分15秒/映像制作：BSフジ

◆清家 清 Kiyoshi SEIKE (1918-2005) / 私の家 Seike House I 1954

写真 大型出力写真「居間」[撮影：新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影：新建築社写真部]

図面 図面パネル4点[平面スケッチ(検討案)2点/平面図/平面図・立面図・基礎伏図・小屋伏図]

模型 スケール1/30および1/50 [制作：東京工業大学 山崎鯛介研究室/2014年]

映像 上映時間：3分6秒/映像制作：テレコムスタッフ

◆東 孝光 Takamitsu AZUMA (1933-) / 塔の家 Tower House 1966

写真 大型出力写真「竣工当時の外観」[撮影：村井修]、写真パネル4点[撮影：村井修]

図面 図面パネル4点[アクソノメトリック/断面矩計 詳細図/平面図-1/平面図-2]、2階平面図原寸大出力

模型 スケール1/30および1/50 [制作：東北大学 五十嵐太郎研究室/2014年]

映像 上映時間：11分9秒/映像制作：BSフジ

その他 実寸大2階平面図および台所模型

◆黒川紀章 Kisho KUROKAWA (1934-2007) / 中銀カプセルタワービル Nakagin Capsule Tower Building 1972

写真 大型出力写真「カプセル内部、開口部方向を見る」[撮影：新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影：新建築社写真部/提供：DAAS 3点]

図面 図面パネル4点[アクソノメトリック・ドローイング/上:1階平面図兼立面図 下左:外観パース 下右:カプセル接続部のディテール/上:基準階平面図 下:断面図/上:カプセル平面図 下:水回り詳細図]

模型 スケール1/30(ビル)および1/50(カプセル) [制作：琉球大学 入江徹研究室/2014年]

映像 「カプセルモデル」=上映時間：4分13秒/映像制作：中川陽介、「カプセルマンション」=上映時間：25分10秒/企画・映像制作：大成建設

◆菊竹清訓 Kiyonori KIKUTAKE (1928-2011) / スカイハウス Sky House 1958

写真 大型出力写真「改修後の写真。2階部分は現在ではゲストルームとして使われている」[撮影：新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影：川澄明男2点、二川幸夫1点、新建築社写真部1点]

図面 図面パネル4点[一般図/立面図詳細図/子供ムーブネットスチールフレーム詳細図/断面図・1階平面図・スケッチ・改修の変遷]

模型 スケール1/30および1/50 [制作：東北大学 五十嵐太郎研究室/2014年]

映像 上映時間：11分47秒/映像制作：BSフジ

◆磯崎 新 Arata ISOZAKI (1931-) / 新宿ホワイトハウス Shinjuku White House 1957

写真 大型出力写真「3間立方吹抜けのアトリエ」[撮影：新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影：新建築社写真部]

図面 青図1点[南面図・東面図・平面図・案内図・配置図・矩計図]

模型 スケール1/30および1/50 [制作：松田達彦/2014年]、参考図版5点「第2回ネオ・ダダ展 (1960年7月1日-10日)、新宿ホワイトハウス (吉村益言アトリエ)」[撮影：石松健男]

映像 「磯崎 新、新宿ホワイトハウスを語る」聞き手：建昌 哲/上映時間：16分/撮影・映像制作：鈴木大輔/編集：古谷和臣

◆篠原一男 Kazuo SHINOHARA (1925-2006) / 白の家 House in White 1966

写真 大型出力写真「入口より広間を見る。中央の扉は寝室への入口」[撮影: 新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影: 新建築社写真部]

図面 図面パネル3点[2階平面図 1階平面図/矩計図/平面詳細図]

模型 スケール1/30および1/50[制作: 東京理科大学工学部第二部 坂牛卓研究室/2014年]

映像 上映時間: 3分43秒/映像制作: 新建築社

◆坂本一成 Kazunari SAKAMOTO (1943-) / 水無瀬の町家 Machiya in Minase 1970

写真 大型出力写真「外観」[撮影: 新建築社写真部/提供: DAAS]、写真パネル4点[撮影: 藤塚光政1点、新建築社写真部3点/提供: DAAS 1点]

図面 設計図集1冊

模型 スケール1/30および1/50[制作: 東京理科大学理工学部 岩岡竜夫研究室/2014年]

映像 上映時間: 3分50秒/映像制作: 新建築社

◆原 広司 Hiroshi HARA (1936-) / 原邸 Hara House 1974

写真 大型出力写真「南側バルコニーを見る」[撮影: 新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影: 新建築社写真部]

図面 原図4点[平面図/断面詳細図/東立面図・南立面図/屋根トップライト詳細図]

模型 スケール1/30および1/50[制作: 国士舘大学 南康裕研究室/2014年]

映像 上映時間: 7分19秒/映像制作: 建築メディア研究所

◆宮脇 檀 Mayumi MIYAWAKI (1936-1998) / 松川ボックス Matsukawa Box 1971/78

写真 大型出力写真「居間(II期)、階段方向を見る」[撮影: 新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影: 新建築社写真部]

図面 原図4点[平面詳細図(I期)/矩計図(I期)/平面図・配置図(I期)/配置図平面図・断面図(II期)]、青図[外観透視図(II期)]

模型 スケール1/30および1/50[制作: 日本大学理工学部 山中新太郎研究室、2014年]

◆石山修武 Osamu ISHIYAMA (1944-) / 幻庵 Gen-an 1975

写真 大型出力写真「南側(玄関)より内部を見る」[撮影: 新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影: 新建築社写真部/提供: DAAS 1点]

図面 原図4点[南側妻壁(正面入口)詳細図/平面図/オーバーブリッジ・階段詳細図/アプローチ階段スケッチ]、図面パネル[分解図]

模型 スケール1/30[制作: 早稲田大学理工学部 石山修武研究室/1995年/ダムダン空間工作所蔵]、スケール1/50[制作: 昭和女子大学 杉浦久子研究室、2014年]

映像 上映時間: 9分/映像制作: 中川陽介

◆安藤忠雄 Tadao ANDO (1941-) / 住吉の長屋 Row House, Sumiyoshi 1976

写真 大型出力写真「西側外観」[撮影: 新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影: 新建築社写真部/提供: DAAS 2点]

図面 原図6点[平面詳細図/平面図/南立面図/西・東立面図/断面詳細図E-E'/断面詳細図K-K' L-L' M-M']

模型 スケール1/10[制作: 安藤忠雄建築研究所、2014年、安藤忠雄建築研究所蔵]、スケール1/50[制作: 大同大学 武藤隆研究室、2014年]

映像 上映時間: 2分37秒/映像制作: 安藤忠雄建築研究所

◆毛綱毅曠 Kikoo MOZUNA (1941-2001) / 反住器 Anti-dwelling Box 1972

写真 大型出力写真「地下1階機械室より見上げる」[撮影: 藤塚光政]、写真パネル4点[撮影: 藤塚光政]

図面 図面パネル2点[屋根伏図 2階平面図 1階平面図 地下1階平面図/A-A断面図 B-B断面図/提供: 高橋祐希]

模型 スケール1/30および1/50[制作: 北海道大学 小澤丈夫研究室、2014年]

映像 上映時間: 3分5秒/映像制作: 中川陽介

◆白井晟一 Seichi SHIRAI (1905-1983) / 虚白庵 Kohaku-an 1970

写真 大型出力写真「客室、仕事室。薄暗い空間の中にブラジリアンローズウッドの壁が浮かび上がる」[撮影: 新建築社写真部]、写真パネル4点[撮影: 新建築社写真部]

図面 原図5点[平面図/天井伏図/展開図1/展開図2/展開図3]

映像 上映時間: 4分3秒/映像制作: 宇野求(東京理科大学教授)

その他 白井晟一書《日光》/白井晟一研究所蔵

◆伊東豊雄 Toyo ITO (1941-) / 中野本町の家 White U 1976

写 真 大型出力写真「広間」[撮影：大橋富夫]、写真パネル4点[撮影：大橋富夫]

図 面 図面パネル4点[平面図/立面図/断面図/詳細図]

模 型 スケール1/30および1/50[制作：昭和女子大学 杉浦久子研究室、2014年]

映 像 上映時間：3分11秒/映像制作：新建築社

その他 チャールズ・レニー・マッキントッシュ《ヒルハウス1/ヒルハウスのベッドルームのためのハイバック・チェア》/デザイン1903年/個人蔵

■ MOMAS コレクション

MOMAS コレクション(埼玉県立近代美術館収蔵品展)では、当館のコレクションの中核をなす埼玉ゆかりの美術家と彼らに影響を与えた国内外の優れた作品を、さまざまな角度から紹介している。

年間を4つの会期に分け、各回さらにいくつかのコーナーを設けて、ジャンルやテーマ、作家の小特集、名品選など、さまざまな切り口で多様な作品を紹介できるよう構成している。さらに所蔵作品に加えてテーマに相応しい寄託・借用作品も随時展示して企画性を高めている。

また新たな特集展示枠として、「アーティスト・プロジェクト」(平成15年度～)、「キュレーターの視点」、「ミューズ・フォーラム」、「リサーチ・プログラム」(以上3本は平成16年度～)、「美術館物語」(平成17年度～)をスタートさせ、従来の常設展の枠にとらわれない斬新で企画性に富んだ展示を心がけている。

このような姿勢を明確に提示するため、平成19年度よりこれまでの「常設展」に替わり「MOMAS コレクション」という名称を用いることとした。

平成26年度も年度後半が大規模改修工事による休館期間となっていたため、8月31日までの5か月間のみの開館となった。第1期では企画性の高い展示「木との対話、新たに」を実施し、展覧会レビューが雑誌に掲載されている。第2期では、画家によるほかの画家の批評に注目した「画家のまなざし—モーリス・ドニと見るフランス近代絵画」、新たに寄託された大型作品を中心に構成された「読むように見ること—荒川修作の絵画」、新寄贈の資料をぜひいたく公開した「リサーチ・プログラム：小村雪岱をめぐって」など、研究性・企画性に富んだ充実した展示となった。

なお第1期会期中の5月15日には、子育て中のお母さんお父さんを応援するベビーカー鑑賞会を開催した。

■ MOMAS コレクション[I]

■会期：2014年4月2日(水)～6月8日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR東日本大宮支社

■入場者数：8,512人

■広報印刷物：ポスター B1・B2/デザイン：マキコージ

■担当学芸員：渋谷 拓、大浦 周、中村 誠、梅津 元



B1・B2ポスター

■常設展示室

《夢と光にまどろむ》

春のうららかな陽ざしや暮れゆく一日の残照、心地よい眠りを描いた作品をコレクションから選び紹介した。

作者名	作品名	制作年
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
マルク・シャガール	二つの花束	1925
ジュール・パスキン	眠る裸女	1928
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
ポール・デルヴォー	森	1948
森田恒友	午睡する看護婦	1907
森田恒友	山村早春	1917
武内鶴之助	アラシの夕	1912
奥瀬英三	残照	1965
浅見嘉正	新緑の三峰部落	1974
川村親光	四月の土手	1985
田中保	聖ベネゼット橋	制作年不詳

《木との対話、新たに》

中原佑介の企画による「art today '79 木との対話」出品作家を中心に、木を素材に用いた現代美術を紹介した。

作者名	作品名	制作年
斎藤義重	ブラック・ボックス 4	1991
斎藤義重	反対称「交叉」 ※寄託作品（榎本光治氏蔵）	1976
最上壽之	パッ ドラネコミャオー	1979
菅木志雄	界測	1990
菅木志雄	四囲分集	1994
小清水漸	作業台一硯一	1980
彦坂尚嘉	P. W. P. 81（野菜畑） ※特別出品（榎本光治氏蔵）	1985

■担当後記

◆本コーナーのテーマである「木との対話」は、1979年に西武美術館で開催された展覧会「art today '79 木との対話」を参照した。同展を企画した美術批評家の中原佑介（1931-2011）は、明晰な論理性をもつ批評で戦後美術を牽引したほか、第10回日本国際美術展「人間と物質」（1970）などを手掛けたことで知られる。「木との対話」展は、木を素材に制作している3人の現代美術家（小清水漸、彦坂尚嘉、最上壽之）を中原が選び、それぞれの特徴的な木の造形を紹介したもので、表現よりも作品の素材自体に目を向けた先駆的な試みだった。

◆今回の展示では中原の問題提起をふまえ、素材が木である必然性があり、それが作品のかたちや構造と直に結びついている表現へのアプローチを試みた。「木との対話」展出品作家である小清水漸、最上壽之、彦坂尚嘉に加え、木の板を素材とした先駆的な制作を行った斎藤義重、最小限の加工で素材を芸術表現として成立させる「もの派」の手法を現在でも深化させ続けている菅木志雄の作品をあわせて紹介した。

◆出来あがった展示を見ると、作品の少なさから文脈の欠落が目立ち、展示企図をわかりやすく伝えることができなかった点は否めない。近年の寄贈・寄託により展示を実施できる材料がそろったと考えていたが、企画性の高い展示を望ましい水準で実現するためには、やはり作品購入を軸としたヴィジョンある収蔵の蓄積が不可欠であることを改めて痛感した。

◆展示後、今回のために個人所蔵家より借用した彦坂尚嘉《P. W. P. 81（野菜畑）》を寄託作品としてお預かりすることとなった。今後の展示に活用させていただく

とともに、作家・作品研究も鋭意進めていきたい。

（大浦 周）

《四季の彩り—日本画の名作を中心に》

横山大観、下村観山をはじめとする日本画のコレクションから、四季の美しさを主題とする作品を紹介した。

作者名	作品名	制作年
前期（4月2日～5月11日）		
横山大観	春雨 秋雨	1923
横山大観	漁村曙	1940
下村観山	牧童	1911頃
川合玉堂	山村春色	1913
吉川霊華	羅浮僊女	1928
北沢楽天	ぼんおどり	制作年不詳
森田恒友	初夏の図	1926
森田恒友	緑野	1927
土田麦僊	甜瓜図	1931
奥村土牛	鴛鴦	1935
小茂田青樹	麦踏	1919
小茂田青樹	晩秋	制作年不詳
堂本印象	春酒沽	1921-1923頃
加藤勝重	緑丘（入間の茶どころ）	1974
大野百樹	赤石岳	1988
伊藤彬	秋思	1982

後期（5月13日～6月8日）

横山大観	武蔵野の秋	1926頃
横山大観	臘夜	1924頃
菱田春草	湖上釣舟	1900
松林桂月	春宵花影	1955
木島桜谷	秋山群禽図	制作年不詳
森田恒友	山野万緑	1929-1930頃
小茂田青樹	春の夜	1930
速水御舟	夏の丹波路	1915
伊東深水	宵	1933
田中案山子	雪旦	1955
佐藤太清	竹窗細雨	1951
加藤勝重	皎	1984
郷倉和子	明	1987
内藤五琅	煙雨	2005

《幾何の叙情—泉茂》

新収蔵の1980年代の油彩画を中心に、デモクラート美術家協会に参加した1950年代の作品を交えて紹介した。

作者名	作品名	制作年
泉茂	作品名不詳	1953
泉茂	嘆き	1953
泉茂	リンゴ物語	1954
泉茂	ひるね	1957
泉茂	夜の蛾	1957
泉茂	折る円	1981頃
泉茂	折る三角	1981頃
泉茂	折る四角	1981頃
泉茂	スクエアダンス	1987

■ 1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
白髪一雄	蕨	1990
白髪一雄	溪	1990
白髪一雄	芥	1990
白髪一雄	布	1990
白髪一雄	蘊	1990
白髪一雄	繁	1990
白髪一雄	駿	1990
島州一	フィンガー・プリント	1984
島州一	フィンガー・プリント	1984
最上壽之	彫刻《パッ ドラネコミャオー》 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻《パッ ドラネコミャオー》 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻《パッ ドラネコミャオー》 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻《パッ ドラネコミャオー》 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻《パッ ドラネコミャオー》 等のためのドローイング	1979
最上壽之	彫刻《パッ ドラネコミャオー》 等のためのドローイング	1979
菅木志雄	作品	1985
アルマン	ランチ I	1977
リチャード・セラ	My Curves are not Mad	1987

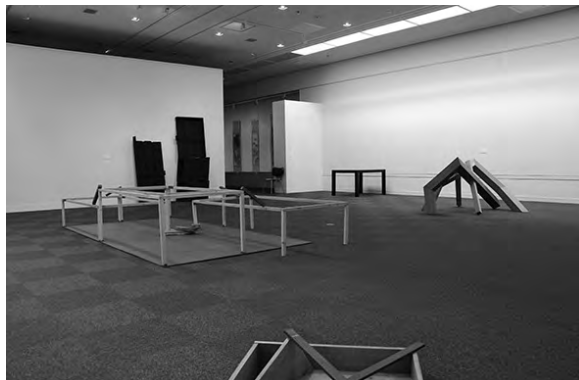
■ 広報記録

<新聞>

告知：『毎日新聞』2014年5月20日／『毎日新聞』2014年5月27日／『毎日新聞』2014年6月3日

<ラジオ>

- ・NHKFM「MOMASコレクション」2014年4月16日
- ・FM浦和「MOMASコレクション」2014年4月23日
- ・FM浦和「MOMASコレクション」2014年5月27日



「木との対話、新たに」の展示風景



「幾何の叙情—泉茂」の展示風景

■ MOMAS コレクション[Ⅱ]

■会期：2014年6月14日(土)～8月31日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館

■協力：JR東日本大宮支社

■入場者数：16,163人

■広報印刷物：ポスター B1・B2/デザイン：マキコージ

■担当学芸員：渋谷拓、大浦周、大越久子



B1・B2ポスター

■常設展示室

《画家のまなざし—モーリス・ドニと見るフランス近代絵画》
美術論にも健筆をふるったモーリス・ドニによる著作とあわせて、フランス近代の名品を紹介した。

作者名	作品名	制作年
ウジェーヌ・ドラクロワ	聖ステパノの遺骸を抱え起こす弟子たち ※登録美術品 (丸沼芸術の森蔵)	1860
ウジェーヌ・ブーダン	ノルマンディーの風景 ※寄託作品 (丸沼芸術の森蔵)	1854-1857
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
クロード・モネ	ルエルの眺め ※登録美術品 (丸沼芸術の森蔵)	1858
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-1889
オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-1919
モーリス・ドニ	トレストリニエルの岩場	1920
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925頃
パブロ・ピカソ	静物	1944
モーリス・ユトリロ	旗で飾られたモンマルトルのサクレクール寺院	1919

作者名	作品名	制作年
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン=ビエールの頭像	1884-1886頃
アリスティド・マイヨール	イル・ド・フランス	1925
アリスティド・マイヨール	イル・ド・フランス	1911頃
ジャン・バティスト・カミーユ・コロー	イタリアの想い出	1863
ジャン・バティスト・カミーユ・コロー	砂丘にて—ハーグの森の想い出	1869
ポール・ゴーギャン	死霊は見ている (マナオ・トゥババウ)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	川岸の女たち (アウティ・テ・パベ)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	感謝 (マルル)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	悪魔は語る (マフナ・ノ・ヴァルア・イノ)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	大いなる夜 (テ・ポ)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	宇宙創造	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	かぐわしい、かぐわしい (ノア・ノア)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	かぐわしき大地 (ナヴェ・ナヴェ・フェスア)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	神々の日 (マハナ・アトゥア)	1894-95 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	微笑 (風刺紙『微笑』第4号の扉絵)	1899 (刷りは1921)
アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック	『ラ・ルビュ・ブランシュ』誌 ポスター	1895

■担当後記

◆当館では、ナビ派の画家として知られるモーリス・ドニの作品として、《トリストリニエルの岩場》と《シャグマユリの聖母子》の2点を所蔵している。ドニは優れた文章の書き手でもあり、のちの抽象絵画を予言するかのよう絵画を「…本質的にはある秩序のもとに集められた色彩で覆われた平たい表面」として定義したことはよく知られている。当館の資料閲覧室には、上記の定義が発表された批評を納めた評論集や、公刊されている画家の書簡集などの二次資料が収められているが、今回はこれらを「他の画家へのまなざし」の観点から読み解き、展示に活用した。

◆当館の西洋近代美術のコレクションには、ドニが生きた時代に活躍した画家・彫刻家の作品が多く含まれており、それらの芸術家の多くについてドニはさまざまな評価を残している。ドニはゴーギャンを当然高く評価する一方で、印象主義は網膜的に過ぎ、初期のキュビズムはいいが分析的になると評価せず、ロートレックとはウマがあわない、といった具合である。ドニはとりわけ彫刻家アリスティド・マイヨールの古典主義を高く評価し、「単純さ」「高貴さ」など、美術史の始祖ヴィンケルマンの語彙を用いて特徴づけている。ドニという画家の視線を借りて、同時代の芸術家たちの作品を検証することで、美術史の俯瞰的で一般的な知識を相対化したり、芸術家同士の人間関係にさらに肉

薄したりできたように思われる。

- ◆あわせて、ドニの別荘があり、当館の2点の収蔵作品が描かれた土地であるペロス＝ギレックの風景が用いられた、20世紀はじめのポストカードやツーリスト・ガイドなども展示して、ドニ自身の作品がより深く理解されるような展示に努めた。(渋谷 拓)

《読むように見ること―荒川修作の絵画》

新たに寄託された作品を中心に、特別出品作品も交えて、荒川修作の絵画世界を紹介します。

作者名	作品名	制作年
荒川修作	限界 No. 1	1962
	※寄託作品 (Madeline Gins / Courtesy of ABRF, Inc., Gallery ART UNLIMITED)	
荒川修作	彫刻する No. 2	1962
	※寄託作品 (Madeline Gins / Courtesy of ABRF, Inc., Gallery ART UNLIMITED)	
荒川修作	無題性	1963
	※寄託作品 (Madeline Gins / Courtesy of ABRF, Inc., Gallery ART UNLIMITED)	
荒川修作	間の破片をとおして	1977-78
	※特別出品 (Madeline Gins / Courtesy of ABRF, Inc., Gallery ART UNLIMITED)	
荒川修作	Or / pinned / and / Vibrating	1977-78
	※特別出品 (Madeline Gins / Courtesy of ABRF, Inc., Gallery ART UNLIMITED)	
荒川修作	Voice Drinker / The Artificial Given	1978-79
荒川修作	新生児の姿 No. 1	1986-87
	※寄託作品 (Madeline Gins / Courtesy of ABRF, Inc., Gallery ART UNLIMITED)	

■担当後記

- ◆1950年代後半の反芸術・反体制の空気の中で作家としての活動を開始した荒川修作(1936～2010)は、読売アンデパンダンへの出品や篠原有司男らと結成した「ネオ・ダダイズム・オルガナイザーズ」での活動、棺桶を思わせるオブジェ作品の制作を経て1961年に渡米、矢印や言葉を用いた独自のダイアグラム絵画や、詩人マドリン・ギンズ(1941～2014)との共作『意味のメカニズム』(1971)などの思考実験的な作品を次々に発表し、現代美術の世界に大きなインパクトを与えてきた。今回の展示では、渡米後間もない時期の作品から80年代までの絵画7点によって、荒川の芸術実験の一端を紹介した。
- ◆60年代初頭に荒川が制作した作品は、光を放つような乳白色のカンヴァースに最小限の基礎的な線と輪郭、文字、極度に抑制された色彩で構成されている。絵画を極限の要素にまで解体することで「見る行為」の根源を問うこれらの作品に対し、『意味のメカニズム』を経た70年代以降は、回転運動を想起させるチューブや円錐、方向性を示唆する矢印、色面のグラデーションな

どの諸要素が多層的な構造を形づくるようになる。

- ◆当館の荒川作品の収蔵は70年代後半に制作された《Voice Drinker / The Artificial Given》1点のみで、さまざまな記号や図形からなる複雑な画面は、ときに難解な印象を与えてきたように感じる。今回、小規模な特集展示ではあるものの20年余の展開を系統的に紹介できたことで、人間の視覚や知覚のあり方に対する根源的な問題をテーマにした荒川の作品世界を多少なりとも繙くことができたと思う。
- ◆今回の展示は、株式会社ABRFから荒川修作の絵画4点を当館に御寄託いただいたことを契機に実現した。株式会社ABRFならびにギャラリーアートアンリミテッドの皆様には、特別出品作品の御貸与をはじめ、惜しみない御協力を賜った。この場を借りて心からお礼申し上げます。(大浦 周)

《リサーチ・プログラム―小村雪岱をめぐる》

近年評価が高まる小村雪岱について、新収蔵の資料や寄託・借用作品も含め、その領域横断的な活動を紹介した。

作者名	作品名	制作年
小村雪岱	六曲屏風	1915頃
	※寄託作品(個人蔵)	
小村雪岱	青柳	1924頃
小村雪岱	落葉	1924頃
小村雪岱	雪の朝	1924頃
小村雪岱	武者絵貼り交ぜ屏風	1926頃
小村雪岱	春告鳥	1932頃
	※寄託作品(個人蔵)	
小村雪岱	こおろぎ	1933頃
小村雪岱	美人立姿	1934頃
小村雪岱	見立寒山拾得	
小村雪岱	菊	
小村雪岱	巴御前	
	※寄託作品(個人蔵)	
小村雪岱	兎図	
	※寄託作品(個人蔵)	
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画(刺青)	1935
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画(お傳と浪之助)	1935
小村雪岱	涼味(うちわ絵下絵)	1940
	※寄託作品(個人蔵)	
小村雪岱	雪兔模様着物	1933頃
小村雪岱	蚊帳釣草に桔梗図着物	1933頃
小村雪岱	柳に梅花図帯	1935頃
小村雪岱	紅梅図帯	1935頃
装幀・小村雪岱	日本橋	1914
	※特別出品(田中屋コレクション蔵)	
装幀・小村雪岱	日本橋	1914
	※特別出品(田中屋コレクション蔵)	

作者名	作品名	制作年
装幀・小村雪岱	日本橋 ※特別出品 (田中屋コレクション蔵)	1914
装幀・小村雪岱	鏡花選集 ※特別出品 (田中屋コレクション蔵)	1915
装幀・小村雪岱	畫とお話の本第5冊 源氏と平家 ※特別出品 (川崎市立美術館、田中屋コレクション蔵)	1925
装幀・小村雪岱	富山房	1932
装幀・小村雪岱	繪入草紙 おせん	1934
挿絵・小村雪岱ほか	名作挿画全集 第一巻	1935
装幀・小村雪岱	邦枝完二代代表作全集第十巻 歌麿をめぐる女達	1936
装幀・小村雪岱	邦枝完二代代表作全集第八巻 浮名三味線 色娘 (おせん)	1936
装幀・小村雪岱	邦枝完二代代表作全集第一巻 お傳地獄	1936
装幀・小村雪岱	邦枝完二代代表作全集第二巻 お傳情史 (お傳地獄続編)	1936
装幀・小村雪岱	邦枝完二代代表作全集第四巻 江戸役者	1937
装幀・小村雪岱	邦枝完二代代表作全集第九巻 浮名三味線 (続編) 樋口一葉 紅涙女傳	1937
小村雪岱	「幽霊と怪談の座談会」挿画 ※寄託作品 (岩城コレクション蔵)	1928
小村雪岱	邦枝完二「夏姿團十郎 (第4回)」挿絵 ※寄託作品 (岩城コレクション蔵)	1933
小村雪岱	邦枝完二「浅右衛門兄弟」挿絵 ※寄託作品 (岩城コレクション蔵)	1936
小村雪岱	邦枝完二「お傳情史」挿絵 ※寄託作品 (岩城コレクション蔵)	1936
小村雪岱	邦枝完二「お傳情史」挿絵 ※寄託作品 (岩城コレクション蔵)	1936
表紙・小村雪岱	両国川開大花火番組 ※特別出品 (島田安彦コレクション蔵)	1936
小村雪岱	『雨談集』の校正摺り ※特別出品 (個人蔵)	1919
小村雪岱	小村雪岱・堀尾成章から泉鏡花への書簡 ※特別出品 (個人蔵)	1929 (推定)
意匠・小村雪岱	山本特製海苔報條	1931
小村雪岱	『おせん』宣伝ポスター	1934
意匠・小村雪岱	春陽堂製文具の校正摺り ※特別出品 (個人蔵)	大正期半ば
小村雪岱	おせん	1941頃(没後の制作)
小村雪岱	おせん	1941頃(没後の制作)
小村雪岱	おせん	1941頃(没後の制作)
小村雪岱	河岸	1942頃(没後の制作)
小村雪岱	小村雪岱顕彰碑拓本	1942
小村雪岱	「おせん」挿絵校合摺	没後の制作

■担当後記

◆小村雪岱は、大正から昭和の戦前にかけて、装幀、新聞や雑誌の挿絵、歌舞伎や新派の舞台美術など、多彩な分野で活躍した美術家である。生涯に手がけた作品は、装幀が300冊余、挿絵と舞台美術がそれぞれ200作余におよぶ人気であった。作家や脚本家が言葉で示し

た世界観へと読者や観客を誘い、また余韻を残すような見せ場を巧みに演出する才に抜きん出ていることから、文筆家や役者たちの厚い信頼を集めた。埼玉県川越市の生まれであることから、当館では雪岱を重要な美術家のひとりと位置づけ、折に触れて展示してきた。企画展「小村雪岱とその時代一粋でモダンで繊細で」(2009年)は、それまでの調査・研究の成果を集大成したものだったが、その後、貴重な作品の寄贈や寄託のお申し出、新たな資料情報が寄せられるきっかけにもなった。今回の「リサーチ・プログラム」では、そうした作品や資料もまじえながら、児童文学者の楠山正雄、小説家の泉鏡花や邦枝完二など、ゆかりの深い人々との交流を軸にして雪岱の仕事を紹介した。

◆雪岱のご遺族からは、邦枝完二の装丁本や遺品など貴重な品々を頂戴した。楠山正雄は、子ども向けの本に雪岱の格調高い挿絵を載せた人で、「武者絵貼り交ぜ屏風」の旧蔵者である。そのご子息が「寄贈したい」と作品を届けてくださった。雪岱に装丁家の道を拓いた泉鏡花の遺品からは、鏡花好みの兎を描いた雪岱の軸、雪岱が鏡花にあてた手紙、装丁本の校正刷りなどを、関係者のご厚意で拝借することができた。また1階ギャラリーでは、これまで埋もれていた泉鏡花の新聞連載小説「山海評判記」の全篇を、要約文と雪岱の挿絵で構成したバナーによって紹介した。提供してくださったのは泉鏡花記念館である。そのほかにも雪岱を愛する多くの方々のご厚意によってこの展示が実現した。心よりお礼を申し上げる。

◆8月3日(日)には、関連事業として、「白鷺」—小村雪岱の美術考証を観る」と題した映画上映会を開催した。「白鷺」(1941年/東宝/監督・島津保次郎)は、泉鏡花の小説を原作とした悲恋物語。最晩年の小村雪岱が風俗、セットなどの美術考証を手がけたモノクロームの映像は、雪岱の挿絵の世界を彷彿させた。

◆会期中にはちょうど、『小村雪岱—物語る意匠』(東京美術)や『初稿 山海評判記』(国書刊行会)が相次いで刊行され、展示との相乗効果でファンを喜ばせた。

(大越久子)

■1階ギャラリー

作者名	作品名	制作年
関根伸夫	位相—大地 1	1986
関根伸夫	映像版・位相—大地	1968/2005
関根伸夫	“日本万国博覧会・三井グループ館における《位相—大地》 出典：Bruno Suter & Peter Knapp, 500 pictures of the Osaka Expo”	1970

「リサーチ・プログラム：小村雪岱をめぐって」関連展示

作者名	作品名	制作年
小村雪岱	山海評判記 (複製資料／協力：泉鏡花記念館)	1929

■広報記録

<新聞>

- ・「『MOMASコレクションII』展」『埼玉新聞』2014年6月25日
- ・告知：『毎日新聞』2014年6月10日／『毎日新聞』2014年6月24日／『埼玉新聞』2014年6月25日／『毎日新聞』2014年7月1日

<雑誌、ミニコミ誌>

- ・「夏も見どころがいっぱい！埼玉県立近代美術館のMOMASコレクション」『ぴあ遊んで学ぼう！夏'14』2014年5月20日

<テレビ、ラジオ>

- ・FM浦和「MOMASコレクション第2期」2014年6月18日

<県>

- ・「MOMASコレクション[II]を開催中—モーリス・ドニなどのフランス近代絵画、荒川修作、小村雪岱の作品を展示—」『彩の国ニュース』2014年6月30日

■サンデー・トーク

毎月1回、日曜日の15時から常設展示室で開催しているプログラム。学芸員が開催中の「MOMASコレクション」から1点を選び、作者と作品についてのエピソードを交えながら30分程度のトークを行うもの。平成26年度は、以下のように計5回実施した。参加者：計111名。

- 4月13日 小清水漸《作業台一硯一》
担当学芸員：大浦周／参加者：26名。
- 5月11日 泉茂《折る円》
担当学芸員：梅津元／参加者：18名。
- 6月22日 モーリス・ドニ《トレストリニエルの岩場》
担当学芸員：渋谷拓／参加者：18名。
- 7月20日 荒川修作《無題性》
担当学芸員：大浦周／参加者：27名。
- 8月17日 小村雪岱《武者絵貼交屏風》
担当学芸員：大越久子／参加者：22名。



「読むように見ること—荒川修作の絵画」展示風景



「リサーチ・プログラム—小村雪岱をめぐって」展示風景

休館中の展示活動

■移動展「ふかく、やさしく 一名画と出会う秋— 埼玉県立近代美術館コレクション展 in 深谷」

■会期：2014年10月7日(火)～10月26日(日)

■主催：埼玉県立近代美術館、深谷市

■共催：公益財団法人深谷市地域振興財団

■会場：深谷市民文化会館 展示室

■観覧料：無料

■入場者数：3,376人

■広報印刷物：ポスター B2、チラシA4

■担当学芸員：大浦 周、中村 誠



B2ポスター

■企画展示室

《日本と西洋の近代美術》

作者名	作品名	制作年
アンドレ・ドラン	浴女	1925年
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925年頃
キスリング	赤いテーブルの上の果実	1944年
武内鶴之助	アラシの夕	1912年
田中保	キュビズムの裸婦	1915年頃
斎藤与里	椿	1916年
斎藤豊作	雨後の夕	1919年
佐伯祐三	門と広告	1925年
岸田劉生	路傍初夏	1920年
牧野虎雄	晚き夏	1927年

作者名	作品名	制作年
古賀春江	コンポジション	1930年頃
森田恒友	花瓶	1930～31年頃
倉田白羊	山居の秋	1936年
高田誠	秋の静物	1940年
熊谷守一	裸	1943年
寺内萬治郎	裸婦	1954年
菅野圭介	丘陵秋	1957年
里見明正	聖骸布	1974年
相原求一朗	残雪のある丘	1981年
塗師祥一郎	白原	2005年
跡見泰	キンセンカ	制作年不詳
島野重之	静物（秋果）	制作年不詳
オーギュスト・ロダン	ウスタッシュ・ド・サン=ピエールの頭像	1884～86年頃
エミール=アントワヌ=ブルデル	チリーの女	1921年
シャルル・デスピオ	ピアンキーニ嬢	1929年
佐藤忠良	帽子	1981年

《深谷ゆかりの美術家たち》

作者名	作品名	制作年
江森天壽	裾野の秋	制作年不詳
江森天壽	桃	制作年不詳
江森天壽	花の想	1906年
古川弘	写真機のある静物	1943年
古川弘	はるじをん咲く利根河原	1974年
山口敏男	草むら	制作年不詳
山口敏男	赤松	制作年不詳
山口敏男	秋の山	制作年不詳
山口敏男	雪景色がみえる室内	制作年不詳

■担当後記

◆本移動展は、大規模改修工事による休館期間中のコレクション公開の機会として、深谷市、公益財団法人深谷市地域振興財団と協力して実施された。平成25年度に続いての移動展開催となったが、県北部での開催としては18年ぶり、また深谷市での開催は今回がはじめてであり、ふだん気軽に美術館を訪れることの難しい県北地域で収蔵品を展示公開する機会として、当館にとっても非常に有意義な事業であった。

◆展示の構成は、油彩・彫刻を中心に美術作品の魅力をわかりやすく伝えるため、人物や風景などの親しみやすい主題の作品を選んだ。アンドレ・ドランやジョルジュ・ルオー、ロダンなど当館の西洋美術コレクションの主要作品から、岸田劉生、古賀春江ら近代洋画を代表する画家の作品、埼玉ゆかりの画家である斎藤与

里、田中保らの作品まで、コレクションの多様性と豊かさをアピールする構成とした。また、江森天壽や山口敏男など深谷ゆかりの画家を特集する展示も実施した。このコーナーへの来場者の関心は非常に高く、郷土出身の画家たちに対する新たな関心を喚起できた点でも大きな成果を得られたと思う。加えて、来場した画家の親族から情報提供を受けるなど、当館の収蔵作家研究という観点からも少なからぬ成果が得られた。

- ◆期間中は深谷市内の小学生を招待し、対話による鑑賞プログラムを実施した。9校の5・6年生児童896名の参加があり、本物の美術作品にはじめてふれる児童も多くいるなど、短い時間ながら美術へ関心をもつきっかけを提供できたと思う。(大浦 周)

■広報記録

<新聞>

- ・江利川義雄「西洋と日本の作品を紹介 深谷で近代美術館展」『埼玉新聞』2014年10月11日
- ・「近代美術館の名画 深谷で26日まで展示 県北で18年ぶり」『読売新聞』2014年10月21日

<雑誌、ミニコミ誌等>

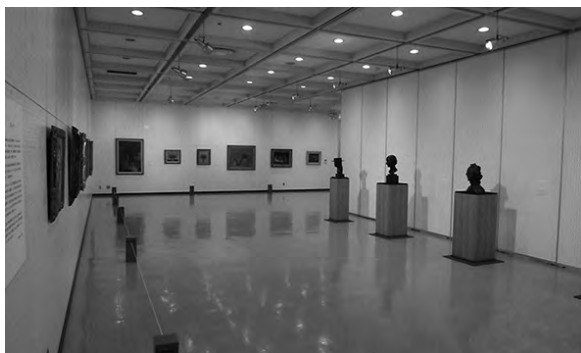
- ・「埼玉県立近代美術館コレクション展in深谷 ふかく、やさしく一名画と出会う秋一」『あぶろく vol. 23』2014年9月20日

<ラジオ>

- ・FM浦和「埼玉県立近代美術館コレクション展in深谷」2014年10月8日
- ・FM浦和「埼玉県立近代美術館コレクション展in深谷」2014年10月22日



会場風景



展示風景

■移動展「たまもの in 川越／モネから草間彌生まで 埼玉県立近代美術館の逸品大集合！」

■会期：2015年1月24日(土)～2015年3月15日(日)

■主催：川越市立美術館、埼玉県立近代美術館

■会場：川越市立美術館 地下1階 企画展示室

■観覧料：大人500円(400円)、大高生250円(200円)

■入場者数：7,962人

■広報印刷物：ポスター B2、チラシA4

■担当学芸員：梅津 元



ポスター B2

■企画展示室

《^{いま}現在へと続く現代美術》

作者名	作品名	制作年
瑛九	青の中の黄色い丸	1957-58
瑛九	雲	1959
白髪一雄	青波	1979
元永定正	聖火	1964
元永定正	いつついろ	1973
元永定正	みつつのかたちはしろいせん	1984
浜口陽三	9つの貝殻	1909
長谷川潔	二つのアネモネ	1934
瑛九	オペラグラス	1953
瑛九	風が吹きはじめる	1957
池田満寿夫	ぼくのもの・おまえのもの I	1963
駒井哲郎	東の間の幻影	1951

作者名	作品名	制作年
中林忠良	転位'83-1地-VIII	1983
鬚嘸	秘密	1954
草間彌生	集積	1951
草間彌生	Flower	1954
草間彌生	青蛇の目をもつ花瓶	1975
草間彌生	魂たちが安息する穴	1975
草間彌生	A. Q. INFINITY NETS	1960
草間彌生	スーツケース	1966
草間彌生	脚立	1966
草間彌生	私の犬のリンリン	2009
草間彌生	ドッツ・オブセッション、水玉で幸福いっぱい	2009
草間彌生	宇宙へ行くときのハンドバッグ	2009
須田剋太	私の曼荼羅 a	1951
堂本尚郎	月蝕	1978
李禹煥	線より	1980
関根伸夫	位相一大地 I	1986
関根伸夫	映像版・位相一大地	1968-2005
斉藤義重	ブラック・ボックス4	1991
建畠覚造	Waving Figure18	1985
山本容子	Papa's and Mama's (JUNE BRAND '75)	1975
山本容子	「After Eyes」のシリーズ: Rakuyu	1983
立石大河亜 (タイガー立石)	Cubic Worlds	1973
金昌烈	水滴 J. T. 83002	1983
上田薫	ジェリーにスプーンC	1990
森村泰昌	だぶらかし (ポートレートD)	1988
秋岡美帆	ゆれるかげ	1991
荒川修作	Voice Drinker / The Artificial Given	1978-79
中西夏之	arc・green- I	1980
木村直道	シンバルを叩く男 (バックミラー楽団)	1923
木村直道	龍	1965-71
木村直道	誇り高き者	1965-67

《近代の名品たち》

作者名	作品名	制作年
斎藤豊作	フランス風景 II	1910
斎藤与里	朝	1915
森田恒友	会津風景	1916
田中保	裸婦	1924
寺内萬治郎	裸婦	1954
古賀春江	コンポジション	1930
熊谷守一	ケシ	1956
熊谷守一	夏の月	1961
熊谷守一	百日草	1960
倉田白羊	山ふとこ	1933

作者名	作品名	制作年
岸田劉生	路傍初夏	1920
佐伯祐三	門と広告	1925
ジョルジュ・ルオー	横向きのピエロ	1925
レオナルド・フジタ	横たわる裸婦と猫	1931
キスリング	リタ・ヴァン・リアの肖像	1927
カミュー・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	1884
モーリス・ユトリロ	獄で飾られたモンマルトルのサクレ＝クール寺院	1919
モーリス・ドニ	シャグマユリの聖母子	1925
パブロ・ピカソ	静物	1944
ポール・デルヴォー	森	1948
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	1888-89
ピエール＝オーギュスト・ルノワール	三人の浴女	1917-19
マルク・シャガール	二つの花束	1925

《モノクロームから現代へ》

作者名	作品名	制作年
細江英公	おとこと女#15	1960
細江英公	おとこと女#24	1960
野田哲也	日記；1973年10月2日	1973
野田哲也	日記；1980年7月11日、成田へ	1980
ヘンリー・ムーア	作家の手 I	1979
ヘンリー・ムーア	作家の手IV	1979
倉田弟次郎	石膏レリーフ	1890
倉田弟次郎	農家作業	1891
ジム・ダイン	植物、扇風機になる I	1974
ジム・ダイン	植物、扇風機になる II	1974
ジム・ダイン	植物、扇風機になる III	1974
ジム・ダイン	植物、扇風機になる IV	1974
ジム・ダイン	植物、扇風機になる V	1974
ジャン・アルプ	バラを食べるもの	1963
ポール・ゴーギャン	かぐわしき大地 (ナヴェ・ナヴェ・フェスア)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	川岸の女たち (アウティ・テ・パベ)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	感謝 (マルル)	1893-94 (刷りは1921)
ポール・ゴーギャン	大いなる夜 (テ・ポ)	1893-94 (刷りは1921)
アンリ・ド・トゥルーズ＝ロートレック	『ラ・ルビュ・ブランシュ』誌ポスター	1895
パウル・クレー	古代風の二重肖像	1933
ロイ・リキテンスタイン	積みわら 7	1969
ルフィーノ・タマヨ	黒い背景の人物	1976
クリスティアン・シャート	シャードグラフィー“モマのなかのモマ”	1918 (プリントは1976)
クリスティアン・シャート	シャードグラフィー“ネガボス”	1962 (プリントは1976)
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラム	1922 (プリントは1929)
ラスロ・モホリ＝ナジ	フォトグラム、セルフポートレート	1922-26 (プリントは1973)
マン・レイ	レイヨグラフ	1926 (プリントは1963)
マン・レイ	レイヨグラフ	1921-28 (プリントは1963)

作者名	作品名	制作年
瑛九	希望	1951
瑛九	リズム	1951
杉浦邦恵	Eel (posi)	1996
杉浦邦恵	Hoppings' 96F (posi3)	1996
マルセル・デュシャン	ロト・レリーフ	1935 (1965年のエディション)
マルセル・デュシャン	映像資料 ロト・レリーフ	
ヘスス・ラファエル・ソト	黒のT	1990
アルマン	レンチ I	1977
ジョージ・シーガル	赤いシャツを着た三つの人体	1975

■主な関連事業

・連続講演会

- ①「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで」／講師：建島哲(当館館長)／2015年2月7日
- ②「印象派入門～印象派を知る、見る、楽しむ～」／講師：賀川恭子(ブリヂストン美術館学芸員)／2015年2月22日
- ③「たまものトピックス 瑛九から関根伸夫まで」／講師：梅津元(当館主任学芸員)

各回とも無料、定員80名／参加者：①76名②65名③42名

・埼玉県立近代美術館の美術館サポーターによる案内

- ①2015年2月1日／②2月14日／③3月7日(手話付き)／各回とも無料(要観覧券)、申し込み不要／参加者：①40名②28名③25名

■担当後記

◆本移動展は、改修工事による休館期間中のコレクション公開のため、川越市立美術館との共催事業として実施された。当館のコレクションを代表する近代絵画から、埼玉にゆかりのある日本の近現代の美術家の作品、版画・写真、そして現代美術まで、贅沢な内容となった。

◆出品作品の選定と展示プランの作成は、川越市立美術館の担当者の案をもとに、当館の担当者も協力して行った。準備が始まる頃、当館で開催されていた「たまものー埼玉県立近代美術館大コレクション展」を参照し、作品選定を多めにすることと、壁面を埋め尽くすようなアクセントとなる展示の実現を視野に入れて準備が進められた。その結果、日本の近代絵画と、モノクロームの版画・写真のコーナーで、壁面を埋め尽くすような展示が実現した。

◆会期中は、当館館長、当館担当者も講演会を行うなど、充実した関連事業が開催され、展覧会と展示作品をよ

りよく理解してもらおうようにつとめた。展覧会は非常に好評で入場者も多く、今後も、当館と川越市立美術館の協力を深めていく必要を感じた。また、当館のコレクションを客観的な立場から見直す良い機会にもなった。
(梅津 元)

■広報記録

<新聞>

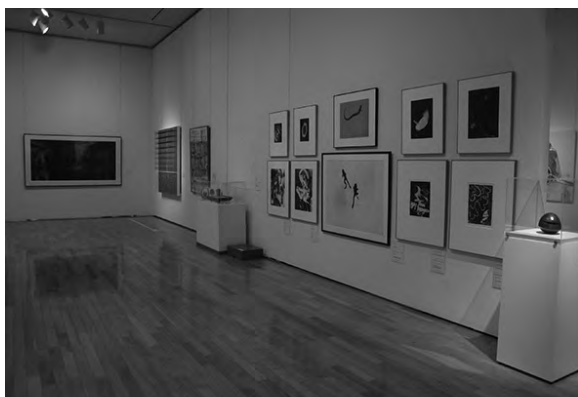
- ・「近代美術館所蔵 内外の名品を紹介」『東京新聞』2015年1月27日
- ・告知：『毎日新聞』2015年1月16日／『朝日新聞』2015年1月21日-3月11日毎水曜／『東京新聞』2015年1月22日／『毎日新聞』2015年1月23日／『産経新聞』2015年1月23日／『埼玉よみうりボイス』2015年1月24日／『東京新聞』2015年1月27日／『毎日新聞』2015年1月27日／『毎日新聞』2015年2月3日／『朝日新聞』2015年2月4日／『毎日新聞』2015年2月10日／『東京新聞』2015年2月12日／『埼玉新聞』2015年2月14日／『毎日新聞』2015年2月17日／『朝日新聞』2015年2月18日／『毎日新聞』2015年2月24日／『朝日新聞』2015年2月25日／『毎日新聞』2015年3月3日／『朝日新聞』2015年3月4日／『東京新聞』2015年3月5日／『朝日新聞』2015年3月10日／『毎日新聞』2015年3月10日／『朝日新聞』2015年3月12日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで一埼玉県立近代美術館の逸品大集合！」『Acoreおおみや』2015年1月7日
- ・告知：『ぱど』川越エリア2015年2月6日

<テレビ、ラジオ>

- ・FM浦和「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで2015年」1月7日
- ・FM浦和「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで」2015年1月21日
- ・FM NACK5『モーニングスクエア』2015年1月23日
- ・FM浦和「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで」2015年2月4日
- ・FM浦和「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで」2015年2月18日
- ・NHKFM『日刊！さいたま〜ず』2015年2月25日
- ・FM浦和「たまもの in 川越 モネから草間彌生まで」2015年3月4日
- ・テレビ埼玉「たまもの in 川越」2015年3月5日
- ・J:COM『アートナビ』2015年3月6日



会場風景

■移動展「埼玉県立近代美術館のポスター・デザイン展」

■会期：2014年12月23日(火・祝)～2015年1月8日(木)

■主催：埼玉ふれあい拠点運営共同事業体、埼玉県立近代美術館

■会場：東部地域振興ふれあい拠点施設「ふれあいキューブ」1F 多目的ホール

■観覧料：無料

■入場者数：1,440人

■担当学芸員：五味良子

■出品リスト

《ポスター》

デザイン	展覧会名	制作年	サイズ
田中一光	開館予告	1982	B1
福田繁雄	木のかたちとエスプリ	1983	B2
朴栖甫	現代・紙の造形 <日本と韓国>展	1983	B2
葛西薫	現代のセルフポートレート (2種類)	1985	B2
葛西薫	現代の「白と黒」	1986	B1
サイトウマコト	現代のアイコンーかみ と ひと と もの と とき の なかにー	1987	B2
原画：林静一/ レイアウト：辻修平	花の表現	1988	B2
葛西薫	動きの表現	1988	B1
葛西薫	地・間・余白 今日の表現から	1989	B2
遠藤享	日本画・雨と余情	1990	B2
井上嗣也	大きな井上有一展	1991	B2
矢萩喜徳郎	風刺の毒	1992	B1
水谷孝次	開館10周年記念展アダムとイヴ	1992	B1
水谷孝次	1970年・南仏ーパリ シュポール/シュルファス展	1993	B2
芦澤泰偉	ニッポンの風刺	1993	B2
水谷孝次	やわらかく重く 現代日本美術の場と空間	1995	B2
秋山伸	1970年ー物質と知覚 もの派と根源を問う作家たち	1995	B2
水谷孝次	ユルゲン・クラウケ展 幻影の戯れ	1997	B2
矢萩喜徳郎	ジェームズ・タレル展 夢のなかの光はどこからくるのか?	1997	B1
水谷孝次	メキシコ現代版画と日本 カイロン版画工房コレクションを中心に	1998	B2
今井隆雄	ニュー・ヴィジョン・サイタマ 黒田克正・稲 憲一郎・小山穂太郎	1998	B2
秋山伸	プラスチックの時代 美術とデザイン	2000	B2
森大志郎	45歳以下の建築家45人展	2004	B1
山下雅士	生誕100周年記念 アブリケ作家 宮脇綾子の世界	2004	B1
大溝裕	柳宗悦の民藝と巨匠たち展	2005	B2

デザイン	展覧会名	制作年	サイズ
大溝裕	ロシアの夢 1917-1937	2009	B2
山下雅士	小村雪岱とその時代 ー粋でモダンで繊細でー	2009	B2
佐村憲一	植田正治写真展 写真とボク	2010	B2
松尾由佳	アール・ブリュット・ジャポネ展	2011	B2
山下雅士	彫刻家エル・アナツイのアフリカ	2011	B2
遠藤一成	浮遊するデザイン 倉俣史朗とともに	2013	B2
大溝裕	戦後日本住宅伝説 ー挑発する家・内省する家	2014	B2

《デザイン椅子》

デザイン	作品名	制作年
ワーレン・ プラットナー	プラットナー・ラウンジ・ コレクション/ アーム・チェア1725/ スツール1719	デザイン/製品化： 1966
ハリー・ ベルトイア	ダイヤモンド・ラウンジチェア No.421	デザイン：1952-53/ 製品化：1953頃

■担当後記

◆当館は1982年の開館以来、企画展のポスター・デザインにこだわり、戦後の日本を代表するデザイナーたちと共同でポスターを制作してきた。本展覧会は改修工事による休館中の活動として、埼玉ふれあい拠点運営共同事業体と共催で開催され、過去の企画展ポスターの中から代表作32点を展示した。

◆会場となった春日部市のふれあいキューブ多目的ホールは、通常音楽の公演や各種イベント等が開催される場であり、美術に関する展示は珍しい機会とこのことであった。壁面一面を占める大きなガラス窓からの採光が明るく、開放的な印象を与える。広々としたスペースを生かして、それぞれ強い存在感を放つポスターを、ゆとりを持って展示することができた。1980年代から2014年まで、30年あまりに及ぶポスターが並ぶことで、時代によるレイアウトや図版の使い方、フォント等の違いが見て取れた。

◆額装した同じ形状のポスターが並ぶため、展示が単調にならないよう、中央で壁面が折れ込むレイアウトとして変化を持たせた。中央の空間のアクセントに、ダイヤモンド・ラウンジチェアを配置した。また窓越しに外の眺めを楽しめるよう、プラットナー・ラウンジ・コレクション/アーム・チェアを置いた。

◆会場では、各ポスターの図版と解説を載せたA4のリーフレットを配布し、好評を得た。アンケートからは、グラフィック・デザインの変遷をたどることができた

という意見や、小規模な展示ながら、落ち着いた雰囲気の中で良質な作品を楽しめたという声が寄せられた。今回展示したポスターには、デザイン史上貴重な資料となっているものも含まれるため、今後は収蔵庫の中で保管することとなった。

(五味良子)

■広報記録

<新聞>

- ・『毎日新聞』2014年12月19日
- ・『東京新聞』2015年1月5日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・『あぶろく』vol. 24 2014年12月20日

<テレビ・ラジオ>

- ・FM浦和「さいたまトピックス」2014年12月17日
- ・テレ玉ニュース 2015年1月4日

<ウェブ>

- ・『Artist Database』2014年12月20日
- ・『TriproVoice』2014年12月26日



会場風景

■収集事業

平成13年度以降、厳しい財政状況により年次の作品購入ができない状況が続いているが、平成26年度は下表のように6件28点の寄贈により、当館のコレクションがよりいっそう充実することとなった。また4件6点の作品をご寄託いただいた。寄贈者、寄託者および関係者のみなさまに、心から感謝申し上げたい。

主な寄贈作品として、日本画では本県ゆかりの作家である江森天寿・天淵の作品・資料が新たに収蔵されることになった。油彩画等では、県美術家協会会長・日本芸術院会員、塗師祥一郎から各時期の代表作と呼ぶにふさわしい作品3点の寄贈がなされた。同氏の作品については、県ゆかりの重要な作家ながら小品のみの収蔵であったため、当館にとっては大変意義のある寄贈となった。県内在住の篤志家からは、日本的抽象を代表する作家である難波田龍起の油彩など合計10点が寄贈された。いずれも小品ながら、コレクターの審美眼と愛着が伝わってくる、よいコレクションである。そのほか、県ゆかりの作家の作品として、フランスで活躍する原田宏や、所沢で長年制作活動を行っている出店久夫の作品が収蔵された。やはり県内在住で、現代日本を代表する鍛金の作家・橋本真之の作品の寄贈も大きな意義がある。

寄託作品としては、丸山直文の絵画、彦坂尚嘉の彫刻、寺内萬治郎の作品が新たに加わることとなった。今後、MOMASコレクション等で順次ご紹介し活用していきたい。(敬称略)

■平成26年度収集作品数と収蔵作品総数

平成27年3月31日現在

区 分	平成26年度収集点数			収蔵作品総数
	購 入	寄 贈	保管転換	
日本画	0	5	0	446
油彩画ほか	0	10	0	607
ドローイング	0	4	0	600
版画	0	2	0	1040
写真	0	2	0	204
平面その他	0	0	0	13
彫刻	0	1	0	187
立体その他	0	0	0	10
工芸	0	0	0	49
書	0	0	0	31
資料Ⅰ	0	4	0	134
資料Ⅱ	0	0	0	31
合 計	0	28	0	3,352

■新収蔵作品一覧

1

江森天淵 1857（安政4）－1921（大正10）

EMORI Tenen

茂林佳趣

Scene of Thick Woods

制作年不詳 彩色、絹、軸

Date unknown Color on silk, hanging scroll

129.5×49.0 cm

左上に題名、署名「茂林佳趣 天淵小史」、白文方印

平成26年度小西豊子氏、小西範子氏寄贈

J-442



2

江森天寿 1887（明治20）－1925（大正14）

EMORI Tenju

梅雨の頃

During Rainy Season

明治43-44年頃 彩色、絹、軸

c.1911-1912 Color on silk, handling scroll

139.5×70.0 cm

右中に署名「天寿拝」、朱文方印

平成26年度小西豊子氏、小西範子氏寄贈

J-443



3

江森天寿 1887（明治20）－1925（大正14）

EMORI Tenju

秋趣

Autumn Atmosphere

大正6年 彩色、紙、軸

1917 Color on paper, hanging scroll

168.0×87.3 cm

右下に署名、朱文円印「天寿」

平成26年度小西豊子氏、小西範子氏寄贈

J-444



4

江森天寿 1887（明治20）－1925（大正14）

EMORI Tenju

梅月

May

大正11年 彩色、絹、軸

1922 Color on silk, hanging scroll

123.5×41.0 cm

右下に朱文円印「天寿」、紙箱あり

平成26年度小西豊子氏、小西範子氏寄贈

J-445



5

松林桂月 1876（明治42）－1963（昭和38）

MATSUBAYASHI Keigetsu

深峡弧帆図

Lone Boat in a Deep Valley

明治42-大正14年 墨、絹、軸

1909-1925 Chinese ink on silk, hanging scroll

143.0×41.0 cm

右下に署名「桂月窩」、白文方印「桂月」、朱文方印「篤印」／箱書

表に「香居深峡弧帆図」、裏に「桂月并題」、朱文方印「篤字子敬」

平成26年度松永康氏寄贈

J-446



6

難波田龍起 1905 (明治38) - 1997 (平成9)

NAMBATA Tatsuoki

コンポジション

Composition

昭和41年 油彩、エナメル、蠟、カンヴァスを板に貼付

1966 Oil, enamel, wax on canvas with panel

45.7×53.1cm

右下に署名「Nambata」、額裏蓋に東邦画廊のラベル「難波田龍起 コンポジション 油彩 1966年8月作」

平成26年度柴田博氏寄贈

O-598



7

難波田龍起 1905 (明治38) - 1997 (平成9)

NAMBATA Tatsuoki

形象

Figure

昭和41年 油彩、エナメル、蠟、カンヴァス

1966 Oil, enamel, wax on canvas

61.1×72.9cm

左下に署名「Nambata」、カンヴァス裏の左下にタイトル、年記、署名「形象 一九六六年八月 難波田龍起」

平成26年度柴田博氏寄贈

O-599



8

難波田龍起 1905 (明治38) - 1997 (平成9)

NAMBATA Tatsuoki

明るい街

Bright Town

昭和44年 油彩、カンヴァス

1969 Oil on canvas

24.3×33.4cm

右下に署名「Nambata」、カンヴァス裏の左下にタイトル、年記、署名「明るい街 一九六九年九月 難波田龍起」

平成26年度柴田博氏寄贈

O-600



9

難波田龍起 1905 (明治38) - 1997 (平成9)

NAMBATA Tatsuoki

白夢

Daydream

昭和44年 油彩、エナメル、カンヴァス

1969 Oil, enamel on canvas

61.0×73.0cm

右下に署名「Nambata」、カンヴァス裏の左下にタイトル、年記、署名「白夢 一九六九年十月 難波田龍起」

平成26年度柴田博氏寄贈

O-601



10

難波田龍起 1905 (明治38) - 1997 (平成9)

NAMBATA Tatsuoki

水のある街

Waterside Townscape

昭和44年 油彩、エナメル、カンヴァス

1969 Oil, enamel on canvas

73.0×61.1cm

カンヴァス裏の左下にタイトル、年記、署名「水のある街 一九六九年十一月 難波田龍起」

平成26年度柴田博氏寄贈

O-602



11

難波田龍起 1905（明治38）－1997（平成9）

NAMBATA Tatsuoki

コンポジション

Composition

昭和47年 油彩、カンヴァス

1972 Oil on canvas

18.0×14.3cm

左下に署名「Nambata」、カンヴァス裏にタイトル、年記、署名「コンポジション 一九七二年 難波田龍起」

平成26年度柴田博氏寄贈

O-603



12

塗師祥一郎 1932（昭和7）－

NUSHI Shoichiro

陶土

Potter's Clay

昭和38年 油彩、カンヴァス

1963 Oil on canvas

162.1×130.3 cm 右下に年記、署名「'63.3 Shoichiro Nushi」

平成26年度寄贈

O-604



13

塗師祥一郎 1932（昭和7）－

NUSHI Shoichiro

冬の海辺

Seaside Village in Winter

昭和44年 油彩、カンヴァス

1969 Oil on canvas

162.1×130.3 cm 右下に署名「Shoichiro Nushi」

平成26年度寄贈

O-605

13



14

塗師祥一郎 1932（昭和7）－

NUSHI Shoichiro

白原

Snowfield

平成17年 油彩、カンヴァス

2005 Oil on canvas

194.0×97.0 cm 右下に署名「Shoichiro Nushi」

平成26年度寄贈

O-606



15

原田宏 1942（昭和17）－

HARADA Hiroshi

太鼓ラッパ隊

Batterie

平成24年 油彩、カンヴァス

2012 Oil on canvas

162.0×130.0 cm

カンヴァス裏に年記、題名「Hiroshi Harada 2012. 7月6日、暑い日 (une batterie) 原田宏」

平成26年度寄贈

O-607



16

黒田克正 1945 (昭和20) -

KURODA Katsumasa

交錯する時

Times Crossing

平成10年 アクリル絵具、鉛筆、紙

1998 Acrylic, pencil on paper

56.5×75.5cm

カンヴァス裏にギャラリー東京ユマニテのラベル「黒田克正 交錯する時 アクリル絵具、鉛筆、紙、他 56.5×75.5cm 1998年」

平成26年度松永康氏寄贈

D-597



17

難波田龍起 1905 (明治38) -1997 (平成9)

NAMBATA Tatsuoki

ファンタジー

Fantasy

昭和37年 水彩、紙

1962 Watercolor on paper

24.0×33.3 cm

左下にサイン「Nambata」、本紙裏面にタイトル、年記、署名「ファンタジー 一九六二年五月 No.12 難波田龍起」

平成26年度柴田博氏寄贈

D-598



18

難波田龍起 1905 (明治38) -1997 (平成9)

NAMBATA Tatsuoki

コンポジション

Composition

昭和50年 水彩、色紙

1975 Watercolor on signature board

27.2×24.2 cm

左下に署名「Nambata」、色紙裏面にタイトル、年記、署名「コンポジション 一九七五年二月 難波田龍起」

平成26年度柴田博氏寄贈

D-599



19

難波田史男 1941 (昭和16) -1974 (昭和49)

NAMBATA Fumio

湖の孤独

Solitude on the Lake

昭和45年 水彩、インク、紙

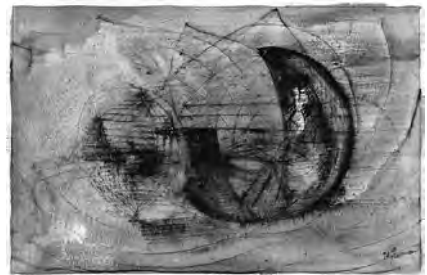
1970 Watercolor, ink on paper

21.1×32.0 cm

右下に年記・署名「70 Fumio」、裏面にタイトル「湖の孤独」

平成26年度柴田博氏寄贈

D-600



20

難波田龍起 1905 (明治38) -1997 (平成9)

NAMBATA Tatsuoki

郊外の家々

Houses in a Suburb

昭和53年 エッチング、紙

1978 Etching on paper

19.3×14.3 cm

右下に署名「Tatsuoki Nambata」、左下にエディション「17/75」

平成26年度柴田博氏寄贈

P-1041



21

ヤン・フォス 1936 (昭和11) —

Jan VOSS

風の便り

Rumor in the Air

平成8年 アクアチント、紙

1996 Aquatint on paper

66.0×100.0 cm 右下余白に署名、年記「VOSS 96」、左下余白にエディション「7/25」

平成26年度松永康康氏寄贈

P-1042



22

出店久夫 1945 (昭和20) —

DEMISE Hisao

私風景'98—DNA

Private Landscape'98—DNA

平成10年 ゼラチン・シルバー・プリント、調色剤、手彩色、木パネル (品ベニヤ)、寒冷紗、ジェッソ

1998 Gelatin silver print, toning agent, hand-coloring, cheesecloth, gesso on wooden panel

160.0×395.0 cm

右下に年記、署名「'98 Hisao Demise」

平成26年度寄贈

PH-203



23

出店久夫 1945 (昭和20) —

DEMISE Hisao

私風景'01—内接宙

Private Landscape'01—Inscribed Space

平成13年 ゼラチン・シルバー・プリント、調色剤、手彩色、木パネル、寒冷紗、ジェッソ

2001 Gelatin silver print, toning agent, hand-coloring, cheesecloth, gesso on wooden panel

246.5×181.0 cm 右下に署名

平成26年度寄贈

PH-204



24

橋本真之 1947 (昭和22) —

HASHIMOTO Masayuki

作品211 発生期の頃

Work 211: At a Nascent Stage

平成3-4年 鍛金、銅

1991-1992 Copper, forging

118.5×45.0×38.0 cm

平成26年度松永康康氏寄贈

S-187



25

江森天淵 1857 (安政4) —1921 (大正10)

EMORI Tenen

江森天淵関連資料 (一式10点)

Reference Works on EMORI Tenen (10 items)

制作年不詳

Date unknown

平成26年度小西豊子氏、小西範子氏寄贈

RI-131



26

江森天寿 1887 (明治20) - 1925 (大正14)

EMORI Tenju

江森天寿関連資料 (一式14点)

Reference Works on EMORI Tenju (14 items)

明治36-大正5年頃

c.1903-1916

平成26年度小西豊子氏、小西範子氏寄贈

RI-132



27

出店久夫 1945 (昭和20) -

DEMISE Hisao

《鏡カラクリ'90-VALNICAR》の原版 (2点)

Original Prints for "Mirror Trick '01-VALNICAR" (2 items)

平成2年 ゼラチン・シルバー・プリント

1990 Gelatin silver print

各49.0×57.5cm

平成26年度寄贈

RI-133



28

出店久夫 1945 (昭和20) -

DEMISE Hisao

《私風景'98-DNA》の原版 (2点)

Original Prints for "Private Landscape '98-DNA" (2 items)

平成10年 ゼラチン・シルバー・プリント

1998 Gelatin silver print

各49.0×60.3cm

平成26年度寄贈

RI-134



■美術資料貸出等一覧

■美術作品の館外貸出

館外貸出点数：19件39点

作者名	作品名	展覧会名	会場	会期（備考）
倉田白羊	六月	日本美術院再興100年－世紀の日本画	東京都美術館	1/25-4/1
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	印象派を超えて－点描の画家たち	愛知県美術館	2/25-4/6
アンドレ・ドラク	浴女	幻想絶佳－アール・デコと古典主義	東京都庭園美術館	1/17-4/7
モーリス・ドニ	トレストリニエルの岩場	幻想絶佳－アール・デコと古典主義	東京都庭園美術館	1/17-4/7
シャルル・デスピオ	ピアンキーニ嬢	幻想絶佳－アール・デコと古典主義	東京都庭園美術館	1/17-4/7
佐藤太清	竹窗細雨	生誕100年 佐藤太清展	茨城県天心記念五浦美術館	3/1-4/13
跡見泰	石川島	光風会と日本の外光派	東京ステーションギャラリー	3/21-5/6
須田尙太	老人像	光風会と日本の外光派	東京ステーションギャラリー	3/21-5/6
寺内萬治郎	裸婦	光風会と日本の外光派	東京ステーションギャラリー	3/21-5/6
田中保	裸婦	ねこ・猫・ネコ	渋谷区立松濤美術館	4/1-5/18
寺井力三郎	寝る子	ねこ・猫・ネコ	渋谷区立松濤美術館	4/1-5/18
瑛九	雲	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
瑛九	青の中の黄色い丸	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
瑛九	風	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
オノサトトシノブ	同心円－赤	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
細江英公	おとこと女#9	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
細江英公	おとこと女#15	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
細江英公	おとこと女#20	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
細江英公	おとこと女#24	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
細江英公	おとこと女#29	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
	資料：「西洋版画展」ポスター	真岡発－瑛九と前衛画家たち	栃木県立美術館	4/8-7/4
森義利	源平海戦	合羽版－森義利の世界	高崎市タワー美術館	4/12-6/29
岩崎勝平	冬温	没後50年－岩崎勝平展	川崎市立美術館	4/26-6/15
岩崎勝平	東京百景の内・坂下御門	没後50年－岩崎勝平展	川崎市立美術館	4/26-6/15
元永定正	聖火	サッカー展、イメージのゆくえ	うらわ美術館	4/26-6/22
跡見泰	石川島	光風会と日本の外光派	松坂屋美術館	6/14-7/6
須田尙太	老人像	光風会と日本の外光派	松坂屋美術館	6/14-7/6
寺内萬治郎	裸婦	光風会と日本の外光派	松坂屋美術館	6/14-7/6
ラファエル・ソト	黒のT	だまし絵Ⅱ	Bunkamura ザ・ミュージアム	8/9-10/5
鏑木清方	慶長風俗	鏑木清方と江戸の風俗	千葉市美術館	8/1-10/19
菱田春草	湖上釣舟	菱田春草展	東京国立近代美術館	9/23-11/3
ラファエル・ソト	黒のT	だまし絵Ⅱ	兵庫県立美術館	10/15-12/28
高松次郎	布の弛み	高松次郎ミステリーズ	東京国立近代美術館	12/2-2015. 3/1
古川吉重	無題	古川吉重1921-2008	福岡県立美術館	2015. 2/7-3/15
瑛九	宇宙	空飛ぶ美術館	三重県立美術館	2015. 3/7-5/6
正木隆	造形01-13	空飛ぶ美術館	三重県立美術館	2015. 3/7-5/6
エティエンヌ＝ジュール・マレ	飛ぶ鳥	空飛ぶ美術館	三重県立美術館	2015. 3/7-5/6
エティエンヌ＝ジュール・マレ	鴨、1秒に10イメージ	空飛ぶ美術館	三重県立美術館	2015. 3/7-5/6
塗師祥一郎	雪の大宮公園	氷川神社と大宮公園	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2015. 3/21-5/10

資料の貸出点数：4件5点

(映像資料)

野村仁 Dec. 1973-Oct. 1974 又は 視覚のブラウン運動 1974年一戦後日本美術の転換点 群馬県立近代美術館 9/13-11/3

(図書資料)

『叛』1号 あしたのジョー、の時代展 練馬区立美術館 7/20-9/21
 『叛』2号 あしたのジョー、の時代展 練馬区立美術館 7/20-9/21
 新聞切抜帖 氷川神社と大宮公園 埼玉県立歴史と民俗の博物館 2015.3/21-5/10

(椅子)

チャールズ&レイ・イームズ プラスチック・サイドチェア Plastic?Plastic!高度経済成長とプラスチック 松戸市立博物館 10/11-11/30

■特別利用

写真原板貸出：18件70点 作品熟覧：1件5点 作品撮影：1件1点 作品模写：0件

■収蔵作品の紹介

作者名	作品名	発行元等	媒体
山村耕花	雀跳瞬間	Minneapolis Institute of Arts	『Seven Masters: 20th Century Japanese Woodblock Prints』 展覧会カタログ
熊谷守一	夏の月	株式会社 ネクスス	テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」番組内VTR
小村雪岱	青柳	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	落葉	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	雪の朝	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	見立寒山拾得	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	美人立姿	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	武者絵	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	こおろぎ	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画(刺青)	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画(お傳と浪之助)	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	「忠臣蔵」挿絵原画 十二月十五日 第51回	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	「忠臣蔵」挿絵原画 十二月十五日 第65回	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	「西郷隆盛」挿絵原画 第11回	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	一本刀土俵入 序幕第一場 取手の宿・安孫子屋の前	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	星祭り	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	湯島夜景	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	雪兔	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	河岸	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	深見草	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	柳に梅図帯	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	雪兔文様着物	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	山本山広告 泉鏡花賛	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	「おせん」 宣伝ポスター	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	小村雪岱肖像写真	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	『大衆文藝評判記』	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	『盲魚』	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	『邦枝完二著作集』(6冊)	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	「オール読物」	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	資料写真(雪岱着物)	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
小村雪岱	「喧嘩齋」 宣伝ポスター	株式会社 東京美術	『小村雪岱名品集』
森田恒友	房州風景	株式会社 創樹	「埼玉りそな銀行TODAY」
高田誠	浦和風景	株式会社 創樹	「埼玉りそな銀行TODAY」
田中保	キュピストA	株式会社 創樹	「埼玉りそな銀行TODAY」

作者名	作品名	発行元等	媒体
ポール・デルヴォー	森	株式会社 生活の友社	「月刊アートコレクターズ」2014年7月号
林俊衛	西洋婦人	東御市梅野記念絵画館	『生誕120周年 没後70周年 林俊衛画集』
林俊衛	画家K氏の肖像	東御市梅野記念絵画館	『生誕120周年 没後70周年 林俊衛画集』
林俊衛	積薬	東御市梅野記念絵画館	『生誕120周年 没後70周年 林俊衛画集』
林俊衛	西洋風景	東御市梅野記念絵画館	『生誕120周年 没後70周年 林俊衛画集』
林俊衛	別所沼風景	東御市梅野記念絵画館	『生誕120周年 没後70周年 林俊衛画集』
森田恒友	フランス風景	株式会社 ネクスス	テレビ東京「開運!なんでも鑑定団」番組内VTR
小村雪岱	青柳	John Wiley & Sons Ltd	「Architectural Design」
小村雪岱	おせん	John Wiley & Sons Ltd	「Architectural Design」
橋本雅邦	浩月怒涛図	Philadelphia Museum of Art	「Ink and Gold: Art of the Kano」展覧会カタログ
奥原晴湖	仙境群鶴	株式会社 クオリアート	『MINERVA X』
パブロ・ピカソ	静物	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
斎藤与里	沼辺の朝	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
寺井力三郎	寝る子	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
瑛九	青の中の黄色い丸	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
須田剋太	作品 1964e	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
小茂田青樹	春の夜	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
スタジオ65	マリリン/ボッカ	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
マッキントッシュ	ヒルハウス 1	開隆堂出版株式会社	平成27年度用中学校美術教科書副読本『美術 表現と鑑賞 埼玉県版』
小茂田青樹	春の夜	株式会社 小学館	『日本美術全集 第18巻 戦争と美術』
須田剋太	老人像	株式会社 小学館	『日本美術全集 第18巻 戦争と美術』
カミーユ・ピサロ	エラニーの牛を追う娘	光村図書出版株式会社	『NYのエグゼクティブは美術館に集う』
倉田白羊	帰化人	千里文化財団	『季刊民族学』
ポール・デルヴォー	森	東京大学出版会	『まなざしのレッスン2 西洋近現代美術』
クロード・モネ	ジヴェルニーの積みわら、夕日	光村図書出版株式会社	『NYのエグゼクティブは美術館に集う』
堀越陽子	太陽の歌	光村図書出版株式会社	『NYのエグゼクティブは美術館に集う』
志水晴児	NEGATIVE BALL	光村図書出版株式会社	『NYのエグゼクティブは美術館に集う』
重村三雄	階段	光村図書出版株式会社	『NYのエグゼクティブは美術館に集う』
橋本真之	果実の中の木もれ陽	光村図書出版株式会社	『NYのエグゼクティブは美術館に集う』
渡邊武夫	老図書館長Tさんの像	埼玉県立浦和図書館	「さいたまけんりつ図書館だより」第106号
小村雪岱	青柳	株式会社 中央公論新社	「中央公論」2015年5月号
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（刺青）	株式会社 中央公論新社	「中央公論」2015年5月号

■作品熟覧

作家名	作品名	内容
奥原晴湖	仙境群鶴	学術論文執筆に係る調査
奥原晴湖	溪頭山水図	学術論文執筆に係る調査
奥原晴湖	山風溪雨図	学術論文執筆に係る調査
奥原晴湖	秋景山水図	学術論文執筆に係る調査

■作品撮影

作家名	作品名	申請者
小村雪岱	「お傳地獄」挿絵原画（お傳と浪の助）	株式会社 東京美術

■教育・普及事業

■美術館講座

■近・現代建築探検ツアー

■開催趣旨

鑑賞の対象を建築領域にまで広げ、建築家と作品をよりよく知ろうとする講座である。

建築鑑賞の面白さは、現地を実際に訪れ、その場所を知り、建物を見て、その機能を確認しながら建物の内部に入って、空間を体感することにある。この講座では、初回到講義で作家や作品の時代背景や鑑賞する上でのヒントを得、建築の見方の基本を学び、2回目には実際に建築を現地に訪ね、作家のコンセプトを中心にその表現や方法を探ることとしている。鑑賞だけにとどまらず、建築をめぐるさまざまな問題にも眼を向けていきたいと考えている。

■特別版（企画展「戦後日本住宅伝説」関連事業）

見学会：講師：磯達雄（建築ジャーナリスト）2014年7月16日（水）塔の家／新宿ホワイトハウス／参加者19名。

■都内版

講義「劇場建築の系譜」／2015年3月7日（土）／講師：米山勇（建築史家）／参加者：24名。

見学会／2014年3月11日（土）／講師：米山勇（建築史家）／見学箇所：①日生劇場②座・高円寺参加者：22名。

■広報記録

- ・「美術館発 アートツアーに出かけよう（建築ツアー）」『日経新聞』2014年10月25日
- ・FM浦和「近現代建築探検ツアー」2014年1月21日

■担当後記

<特別版>

◆従来なら前半に県内、後半に都内という構成なのだが、企画展にあわせて出品作品の見学に変更。企画展事業の一環とした。

◆「戦後日本住宅伝説」展に出品した「スカイハウス」は戦後の日本住宅を考えると、欠かせない作品。展示会場では図面を実寸大に拡大したパネルを製作し、都市空間に住むことへのこだわりを視覚的に再現してみたが、その建築を実際に見たいというのは建築ファンならだれでも思うところ。関係者をお願いしたところ7月の前半、水曜日の午前中なら可能ということでギリギリの16日に設定。平日に設定したにもかかわらず、定員20名のところに95名の応募があったが、中に

は京都からのファンもいた。伝説の住宅にあらためて見学者は感動していた。

◆20人一度に全員がこの狭い空間に入ることは不可能。そこで参加者を3班に分けて見学。約20分ごとになったが、時間が来ると各班とも名残惜しそうに交代していた。

◆「新宿ホワイトハウス」は磯崎新自身が本人も現存しているとは思わなかった最初期の住宅作品。今は喫茶店になっており、ツアーのまとめに使用し、都合がよかった。

<都内版>

◆あまり移動のないところにある建築を訪ねるのが基本であるが、今回はテーマを設定した。戦後住宅展の調査で訪れたことのある伊東豊雄の「座・高円寺」に因み、劇場建築のなかの村野藤吾の畢生の名作、「日生劇場」を訪ねることとした。

◆両劇場ともきわめて協力的で「日生劇場」の小原劇場部課次長、「座・高円寺」の桑谷館長が館内を丁寧に案内してくださった。

◆日生劇場では案内役の米山氏は村野に対する個人的思い入れもあり、熱い解説となったが、そうなるのも領けるような美しい建築空間で、参加者は劇場内に入った瞬間にオーッとという讚嘆の声が聞かれた。

◆「座・高円寺」は松本市の芸術館をスケールダウンしたような作品であるが、個人的にはこちらの方が伊東豊雄の考え方が凝縮されたようなものになっており、楽しいものとなっていた。芸術劇場に習熟した伊東は台中国立芸術院へとそのノウハウを結実させていくのである。（伊豆井秀一）



塔の家



新宿ホワイトハウス

■子どものためのプログラム

■アートフル∞プログラム「MOMASの扉」

0. 「MOMASの扉」とは

2010年4月から新しくスタートした教育普及プログラム。美術館という場所を舞台に、関わる人全て（参加者、美術館スタッフ、ボランティア）が一緒になって美術館での体験を共有することにより、ひとり一人の新しい次元の扉が開き、芸術文化を共に創造する機会が充実することを目的としている。

開催日は毎週土曜日。美術館での“できごと”を楽しむというコンセプトで運営し、平成26年度は8種類の内容を行った。参加者の年齢層は幼児（4才）からお年寄りまで幅広い。

1. MOMASコレクション みる+つくる

MOMASコレクションや美術館の建物などを小グループでまわり、参加者同士の対話を楽しんで作品の鑑賞を行う。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を楽しむプログラムを実施した。対象枠：小・中学生

- ・「バッ ドラネコミャオーみんなで見よう！」4月12日／参加者：20名。
- ・「カクカクころころ90°」6月14日／参加者：23名。
- ・「墨絵でお宝掛け軸をつくろう！」7月12日／参加者：30名。

2. MOMASコレクション 親子クルーズ

MOMASコレクションや美術館の建物などを小グループでまわり、親子で鑑賞をする。その後、鑑賞をもとにした簡単な制作を親子で楽しむプログラムを実施した。

対象枠：小・中学生+親

- ・「アートな水平器をつくろう」4月26日／参加者：28名。
- ・「不思議な生き物親子ストラップ」6月7日／参加者：28名。

3. 企画展物語 みる+つくる

企画展会場で、展示会の魅力や楽しむためのヒントをわかりやすく紹介するプログラム。鑑賞の後に簡単な制作を行うプログラムを実施した。対象枠：小・中学生。

- ・「ピカソになってお皿に顔を描こう！」4月19日／参加者：28名。
- ・「つくろう★ぼくらのヒミツ基地！」7月19日／参加者：20名

4. 企画展物語 親子クルーズ

企画展を親子で楽しむプログラム。作品の魅力を紹介し、親子で鑑賞した後、簡単な制作を行うプログラムを実施した。対象枠：小・中学生+親。

- ・「顔のお皿をプレゼント」5月10日／参加者：27名。

5. み〜つけ！

美術館でのできごとを、体いっぱい楽しむプログラム。美術館や公園などの環境を生かし、発見をテーマに実施した。対象枠：幼児（4才〜6才）とその親

- ・「み〜つけ！ファッションショー」5月17日／参加者：33名。
- ・「半分仮面でおどろう！」6月21日／参加者：30名。

6. 工房

美術館ならではの制作を中心としたプログラム。じっくり制作に取り組んだりみんなで一緒に活動したりして、ワーク・ショップを展開した。対象枠：小学生〜一般。

- ・「かくかくしかくのアートなランプ」5月24日／参加者：25名。
- ・「まるまる穴だらけのランプシェード」7月5日／参加者：22名。

7. アート★ビンゴ

9つのクイズを解きながら、美術館を気軽に楽しむ鑑賞プログラム。参加者は1階ロビーでビンゴ・シートを受け取り、館内外を巡りながらクイズを解く。最後にスタッフと一緒に答えを確認し、正解が多ければスタンプがもらえる。リピーターも多く、子どもたちや家族に人気のプログラムである。対象枠：どなたでも／4月5日、5月3日、5月31日、6月28日、7月26日／参加者：計260名。

8. サマー・アドベンチャー

夏休み限定の特別企画。県民の方が美術館での活動に参加することによって美術の価値を見出す機会を提供する、スペシャル・プログラムである。

- ・「オリジナルくんくんボトルをつくろう」8月2日／講師：井上尚子（美術家）／参加者：33名。
- ・「洗濯バサミで絵を描こう！」8月9日／参加者：94名。
- ・「住みつくてなに？」8月16日／講師：青山恭之（建築家）／参加者：20名。
- ・「座れる段ボールの椅子 大集合！」8月23日／講師：高須賀昌志（デザイナー・埼玉大学教授）／参加者：106名。

- ・「自分だけの小屋をつくってみよう」 8月30日／講師：石上城行（彫刻家・埼玉大学准教授）／参加者：15名。



青山恭之氏のプログラム。「住みつけてなに？」

9. 他館との連携による出張MOMASの扉

改修工事による休館に伴い、他館と連携して出張ワークショップを行った。当館の収蔵作品を紹介し、その後制作を行い楽しんだ。対象枠：どなたでも可。未就学児は親同伴。

- ・「カクカクころころ90°」10月4日 岸町公民館（さいたま市）／参加者35名
- ・「洗濯バサミで絵を描こう！」10月11日 和光市立北原小学校／参加者32名
- ・「かくかくしかくのアートなランプ」10月18日 松山市民活動センター（東松山市）／参加者17名
- ・「み〜つけ！ファッションショー」11月1日 伊奈町総合センター／参加者13名
- ・「洗濯バサミで絵を描こう！」11月14日 県庁／参加者112名
- ・「どろせんワークショップ」11月22日 埼玉大学／講師：小澤基弘（画家・埼玉大学教授）参加者32名
- ・「粘土で作ろう！みんなの街①」12月6日 埼玉大学／参加者17名
- ・「粘土で作ろう！みんなの街②」12月20日 埼玉大学／参加者19名
- ・「昆虫をつくってアートしよう！」1月24日 県立自然の博物館／参加者29名



「粘土で作ろう！みんなの街」

近代美術館の周りにテラコッタで街づくり。

■夏休みの特別プログラム

1. 夏休みMOMASステーション

夏休みに美術館を訪れる子どもたちの美術館体験が豊かなものになるようサポートするコーナーを設置した。相談員は教育普及サポート・スタッフが交代で行い、美術館の案内や資料の配布、美術館見学の宿題の相談に応じた。教育普及研究員が美術館の楽しみ方を紹介するジュニア・ガイドを作成したり、教員によるレポート例の特別掲示版を作成したりして、子どものサポートを充実させた。7月19（土）～8月24日（日）の休館日以外の毎日／エントランス／対応数：計2,792名。

2. 鑑賞ツアー

夏休み期間中に3日間限定で30分のミニ・ツアーを行った。館職員と教育普及サポート・スタッフの有志がファシリテーターとなり、ツアーの運営にあたった。美術に興味のある人と一緒に美術館を巡ることで、美術の楽しみ方を体験的に学ぶことができる機会を提供することができた。／7月25日、8月1日、8月8日の3日間／対応数：計139名。



サポート・スタッフによる鑑賞ツアーの様子。

■広報記録

<新聞>

- ・河原夏季「子どもたち Meet 本物 ピカソをじっくり 戸田・芦原小」『朝日新聞』2014年6月25日

<雑誌、ミニコミ誌等>

- ・「サマー・アドベンチャー “せんたくバサミで絵を描こう！”」『ぴあ遊んで学ぼう！夏'14』2014年5月20日
- ・「妖しい色、激しい警告色「カラフル昆虫記」開催 自然の博物館」『彩の国ニュース』2014年11月25日

<テレビ、ラジオ>

- ・FM浦和「サマー・アドベンチャー」2014年8月6日

・テレビ埼玉「ミュージアムキャラバン 空気のアート制作体験」2014年11月17日

・FM浦和「MOMASの扉・冬の特別プログラム」2014年11月19日

■担当後記

◆「MOMASの扉」の実施、5年目を迎え、各プログラムの内容が参加者に定着してきたと言える。また、美術館で行う利点を活かし、参加者のニーズに合わせた鑑賞と制作が一体となったプログラムを行うことで、多くの参加者から好評を得ることができた。リピーターのみならず、新規申込者も増えた。しかし、定員を超える場合が多く、お断りする方も多かった。定員を増やし、より多くの申込者が参加できるよう改善していきたい。

◆昨年度に続き後半の半期が改修工事による休館のため、他館と連携してワークショップを行った。近隣の小・中学校にチラシを配布したものの、思うように参加者が集まらない地域もあった。ただ、美術館が身近に無い地域でも継続して行っていくことで普及に繋がると考えている。次年度も他館と連携してワークショップ行う機会をつくりたい。 (矢花俊樹)

■ミュージアム・コラボレーション

埼玉大学と埼玉県立近代美術館が共同で子どものための事業を行うもので、主として土曜日の教育普及プログラム「MOMASの扉」を運営している。教員等を目指す学生が積極的に参画することで、学生は現場での実践力を身につけることができる。また美術館にとっては、こうした事業を通じて子どもの目線に立った作品鑑賞を充実させることができるとともに、新たな切り口の鑑賞プログラムを開発できるメリットがある。

■担当後記

◆平成26年度の学生の登録は12名(内1名はインターンシップ)。学生が企画、運営したプログラムは4回である。美術館・大学・学生が三位一体となって、連携を密にとりながらの協働が実現できた1年であった。

◆「ミュージアム・コラボレーション」の授業を継続受講した学生が中心となり、新受講生をうまくリードしながら学生グループ内の運営も順調に進んだ。また、演習を重ねることによって、計画の立て方や運営の仕方にも関心を持ち、主体的に関わりながら実践力を高めた。展示作品の鑑賞と制作が一体となったプログラムを企画し、学生ならではの発想を基にした導入や題材の工夫により、魅力的な内容となった。でき上がった作品のクオリティーも高く、参加者が大いに楽しみ満足することができた。来年度も学生が主となって活動する場面を増やし、実践力を高めることで、「MOMASの扉」がより充実したものとなると考えている。

(矢花俊樹)



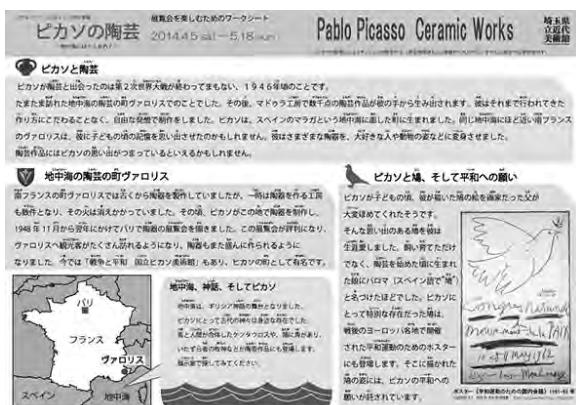
埼玉大学の学生が行った“対話による鑑賞”

■企画展ワークシートの作成

企画展の特徴をわかりやすく紹介するため、主にセルフガイド型のペーパー・アイテムを作成している。会場で無償配布するほか、学校団体や子どものためのプログラムなどでも幅広く活用している。県内全ての小・中学校、また必要に応じて高校、図書館、公民館にも配布する広報資料であり、また学校では、鑑賞学習の指導者側のツールとしても用いられ、来館前の事前学習に大いに役立つこともある。

平成26年度は次の2種を作成した。

- ①「ピカソの陶芸—地中海にはぐくまれて／ピカソに挑戦！どんな顔が似合うかな？」(ピカソの陶芸)／作成：山水明



「ピカソの陶芸」ワークシート表面

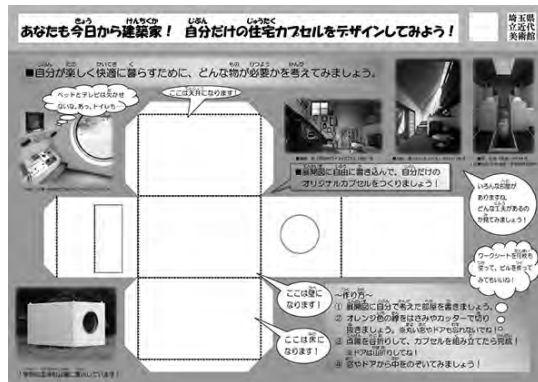


「ピカソの陶芸」ワークシート裏面

- ②「中銀カプセルタワービル 住宅カプセルの秘密／あなたも今日から建築家！自分だけの住宅カプセルをデザインしてみよう！」(戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家)／作成：矢花俊樹



「戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家」ワークシート表面



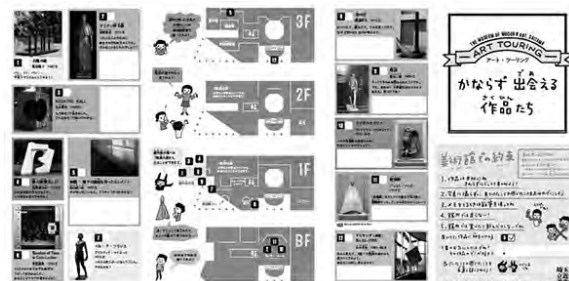
「戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家」ワークシート裏面

■アート・ツーリングの作成

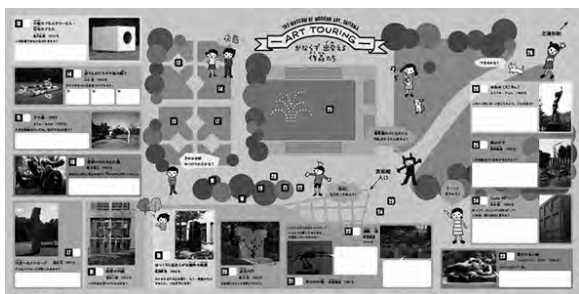
椅子と彫刻のセルフガイド「アート・ツーリング」を主に小中学生の教育普及に活用しているが、椅子の収蔵数が増えたことや、彫刻作品以外の立体作品も掲載し、より鑑賞教育に活用できるワークシートの内容的にするために、リニューアルした。

平成26年度は次の2種をデザイン委託し、作成した。

- ①「アート・ツーリング」 みつけた！ かならず出会える作品たち



「みつけた！ かならず出会える作品たち」ワークシート表面



「みつけた！かならず出会える作品たち」ワークシート裏面

②「アート・ツーリング」 みつけた！ グッドデザインの椅子たち



「みつけた！ グッドデザインの椅子たち」ワークシート表面



「みつけた！ グッドデザインの椅子たち」ワークシート裏面

デザイン委託／松尾由佳（デザイナー）

■学校との連携

■企画展ガイド・ツアー（教員向け鑑賞会）

学校教員を対象に、企画展の鑑賞と解説を通して美術館の利用促進と鑑賞教育への関心を高めてもらうことを目的に、各企画展で1回ずつ実施した。

プログラムは、①学校で美術館を利用するための利用方法などの紹介、②企画展担当学芸員による展覧会解説と鑑賞、③企画展関連情報提供、という流れで行った。

次年度から「対話による鑑賞」を中心に学校現場のニーズに合わせた研修を定期的の実施する方向で改善していく計画である。

- ・「ピカソの陶芸展」／4月25日（金）／参加者：7名。
- ・「戦後住宅伝説展」／8月1日（金）／参加者：7名。



「戦後住宅伝説展」の鑑賞会の様子

■美術館利用研究会

学校における美術館の利用を率先して考える研究会として教員12名を委嘱し、年間12回の研究活動を行った。

委嘱研究員：宮地和加奈教諭（さいたま桜高等学園）、安田敦子教諭（熊谷市立大幡中学校）、浅沼夏菜教諭（新座市立第三中学校）、鈴木裕美教諭（三芳町立三芳小学校）、後藤保紀教諭（東京都小平市立小平第十小学校区工専科）、高柳由美教諭（志木市立宗岡第二小学校）、高田悠希子教諭（和光市立第二中学校）、三木綾香教諭（埼玉県立芸術総合高等学校）、井上愛美教諭（埼玉県立大宮光稜高等学校）、島田温子教諭（白岡町立南中学校）、井上暢之教諭（深谷市立深谷中学校）、宇沼美香教諭（埼玉県立越谷西特別支援学校）。

研究活動：今年度は当館の所蔵作品《二つの花束》／マルク・シャガールの紹介と活用促進を図るため、小学校・中学校における鑑賞授業プログラムの作成を行った。美術館で行う研究を基本として、検証のために深谷市立深谷中学校の1年生の学級において検証授業を行った。発達段階に合わせて授業を構成したので、生徒は作品をじっくり見て、じっくり考える良い授業となった。今後は、

当館のホームページに授業案を掲載し、気軽にプログラムを使った授業ができるようにしたいと考えている。また、当館所蔵のグッドデザインの椅子を用いた公開授業における授業協力も行い、次第に当館のグッドデザインの椅子を活用した授業が増えている。



深谷市立深谷中学校での授業の様子

■担当後記

◆今年度も研究員が各学校でプログラムのシミュレーションをしつつ研究を進めた。その甲斐あって、説得力のある内容にまとめることができた。今後も、継続していきたいと考えている。

◆今年度の研究は継続して次年度も行う予定である。
(山水 明)

■教員美術講座

- ・第1回教員美術講座「座れる段ボールの椅子を作るには2」/5月31日(土)/講師：高須賀昌志氏(埼玉大学教授・デザイナー)/参加者：57名。
- ・第2回教員美術講座「アート紙芝居」/8月12日(火)/講師：辻政博氏(東京都図画工作研究会顧問・帝京大学教育学部専任講師)/26名

■担当後記

◆今年度、小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童生徒を対象に、「第2回 座れる段ボールの椅子グランプリ」を開催した。それに先立ち、当グランプリの審査委員を務める埼玉大学教授 高須賀昌志氏を講師にお招きして、本講座を開催した。グランプリ参加校の生徒を交えて、段ボールという素材の特徴をはじめ、加工方法によって強度が変わることや、素材から発想し、実際に形にしていくプロセスを、段ボールを使った創作体験を通して学ぶ時間となった。

<第1回「座れる段ボールの椅子をつくるには2」>



第1回教員美術講座 講評会の様子

◆参加者の感想(抜粋)

- ・昨年も増して豊富な材料を準備していただいたので、のびのびと作ることができた。(中学校教諭)
- ・日頃課題を实践させる立場だが、逆の立場で夢中で取り組めた。生徒の気持ちがよくわかった。(中学校教諭)
- ・説明がとても丁寧で、椅子が何のためにあるのかなど深いところまで理解することができた。(中学校生徒)

<第2回「アート紙芝居」>

◆美術教育の第一線で活躍されている 辻 政博氏(東京都図画工作研究会顧問・帝京大学教育学部専任講師)を講師に迎え、美術鑑賞教育に活かせるヒントとレシピを紹介してもらい講座を開催した。当館の展示室において対話による鑑賞を行ったあと、参加者が作品から受けたイメージを劇や紙芝居などにして表現した。生徒の立場を実際に体験することでその中にある教育的な効果を実感してもらった内容となった。



第2回教員美術講座活動の様子

(山水 明)

◆参加者の感想(抜粋)

- ・美術館の作品を用いて紙芝居を作ったことで、美術作品が身近に感じられた。形式的に意味を付け加えるのではなく自分たちで考えたことがそのまま意味になるので、それがすごく面白いかった。(小学校教諭)
- ・鑑賞と表現の一体化を含んだワークショップができ、

参考になった。実際に自分でやってみると、なぜこの表現をしたのかということ伝えてきた。子どももそうだと思う。(小学校教諭)

■その他の学校連携事業

学校との連携を図る活動として、以下の対応も行った。

＜学校団体の受け入れ＞

美術作品の鑑賞を目的として来館した学校等の園児・児童・生徒・学生を対象に、対話による鑑賞をしながら展示室や館内を案内した。初めて美術館に来館したり、本物の作品にふれたりする子どももいて、美術への関心を高めることができた。利用団体に行ったアンケートの結果も良好である。今年度は、下半期に改修工事により閉館した。そのため小学校団体の利用が例年に比べ少なくなった。夏休みの中学校部活動による利用は多かった。／学校団体対応数：71校2517人。



中学校団体利用の様子

＜授業協力＞

今年度も、改修工事による休館期間があるため、学校との連携強化と当館広報活動として、より積極的に実施した。依頼を受けた学校に赴き、収蔵作品の複製画や鑑賞キットを使って鑑賞の授業を行った。授業を通して、美術館や作品、作家への興味をもたせるきっかけとなった。／授業協力数：県内小・中学校、高等学校40校。



学校 授業協力の様子

＜複製画等の貸し出し＞

教師が授業で活用できるよう、美術館にある複製画や鑑賞キット、アートカードなどを貸し出した。ピカソ、小茂田青樹、モネ、ピサロとアート・カードを中心に活用されている。毎年、継続して利用する先生が多い。／貸出数：49件。

＜第2回 座れる段ボールの椅子グランプリ＞

学校との連携強化と、創造力と創意工夫する力の育成を目的に、県内小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童、生徒を対象に本事業を開催した。段ボールのみを素材に、大人が座ることができる椅子を3人以上のグループで制作して応募するコンクール形式で実施した。今年度は第2回目ということもあり、参加校、参加グループともに増えている。また、作品の完成度も全体的に上がってきた。

24校、59グループが参加した。



鑑賞会の様子

＜職場体験の受け入れ＞ / 対応数：2校。

■ミュージアム・キャラバン事業

学校連携を深めるとともに、当館収蔵作家を学校に派遣し、美術家としての生き方や考え方をはじめとして、美術の世界について鑑賞や創作体験を通して小中学生に伝えることを目的に本事業を実施した。昨年度に引き続き、当館収蔵作家の高田洋一氏を講師に迎え、氏の作品の鑑賞も交えながら空気を材料にしたアート体験プログラムを提供した。

・10月17日(金) 蕨市立西小学校 6年生/78名

・11月17日(月) さいたま市立日進北小学校6年生/152名



蕨市立西小学校での活動の様子



さいたま市立日進北小学校での活動の様子

◆参加者の感想（抜粋）

（教員）

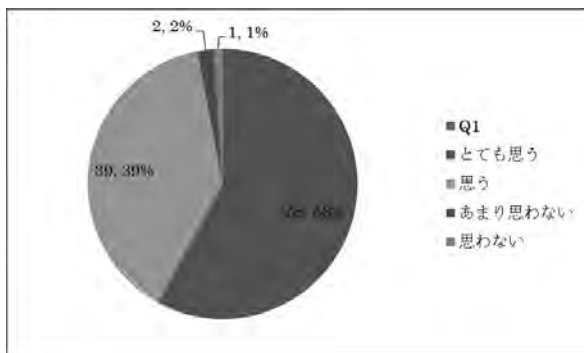
- ・子どもたちはもとより、教師にとっても新しい発見がありました。またお願いしたいと思いました。
- ・パフォーマンスと体験がうまく組み合わせられて子どもにとって良い体験となったと思います。事前の準備から当日の運営まで効果的に行っていただきました。

（児童）

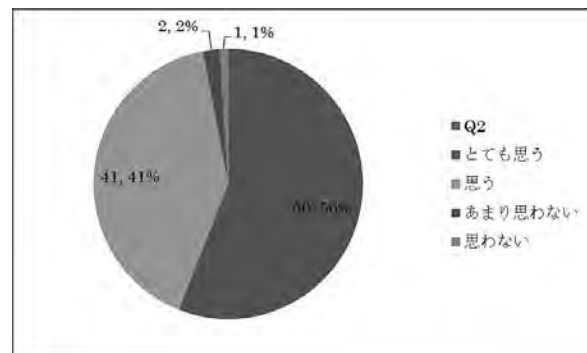
- ・「図工は、自分が楽しいものをつくること」と言われて気が楽になったし、改めて、図工は面白いなと思いました。
- ・図工は好きだけど、そんなに得意ではなかったけど、どんどんアイデアが思い浮かんで、何も考えずに作っていいなと思いました。
- ・私はもともと美術が好きですが、今回、アーティストの方に来ていただいて、さらに美術が好きになりました。本当の芸術の意味を知った気がしました。

◆アンケート集計結果

Q1、今回の体験は美術を楽しむきっかけになりましたか。



Q2、アーティストとアート体験ができる機会があった方が良いと思いますか。



■担当後記

◆今年で2年目を迎えた事業である。高田氏が学校教育に対して深い理解を持っているため、打ち合わせを含め学校現場の先生方と共通理解をとりながら実施できた。

◆高田氏による作品の紹介や、その考え方を聞き、創作活動を体験することで、参加した児童にとって「美術が本来持っている自由な発想や、試行錯誤することの楽しさ」を実感する時間となった。

◆昨年度に引き続き、下半期に改修工事があり休館となるため、その期間を利用して本事業を実施した。県内学校との連携強化と当館の広報活動を兼ねて実施したが、教員や児童からのアンケート結果からその効果が十分にあったことが分かる。次年度以降も継続して実施していく計画である。今後は、さらに遠隔地での実施を目指していきたい。（山水 明）

■担当後記

昨年度に引き続き、改修工事に伴い9月以降の団体利用の受け入れができなかった。学校連携が改修工事以降も継続するようにするため、授業協力をはじめとした休館中も継続可能な事業に力を入れたほか、「座れる段ボールの椅子グランプリ」、「ミュージアム・キャラバン」といった学校との連携強化を図るための事業も実施した。実施校の児童、生徒、教員からは、今後も継続して欲しいといった声や、授業協力で紹介した作品を美術館でぜひ見てみたいといった声も聞かれ、一定の効果があったと感じている。（山水 明）

■博物館実習

「埼玉県博物館等の博物館実習生受入要項」に基づき、下記の12大学15名の実習生を受け入れ、全7日間の日程で実施した(学習院大学、学習院女子大学、埼玉大学、昭和女子大学、女子美術大学、清泉女子大学、大東文化大学、帝京大学、東京造形大学、東北芸術工科大学、東洋大学、日本女子大学)。

学芸員および担当職員による講義中心の合同実習を4日間、担当学芸員のもとテーマに応じた実務を行う個別実習を3日間行った。

■合同実習

講義、実技、講話などを中心に職員、学芸員が講師として指導した。

- ・ 7月22日(火) 開講式、オリエンテーション、館内外施設見学、学芸の仕事、管理の仕事、美術館サポーターと教育普及サポートスタッフ・学校連携について、MOMASの扉・大学連携について、彫刻メンテナンスについて。
- ・ 7月23日(水) 彫刻の取り扱い(洗浄)、図書の取り扱い、油彩画の取り扱い。
- ・ 7月24日(木) 企画展の概要、企画展の実務について、新採用の学芸員から、日本画の取り扱い、版画の取り扱い。
- ・ 7月25日(金) SMFについて、「戦後日本住宅伝説」展見学、これからの美術館について、美術資料の収集と保存について、MOMASコレクションについて、広報と刊行物について。

■個別実習

例年通り、各実習生の研究テーマや関心領域に応じて学芸員が1～2名の実習生を担当し、実務の実習を行った。実習日は担当学芸員と実習生の相談により決定し、展示作業、発送、資料整理、ワークショップ運営、ワークシート作成などに実際に参加してもらった。原則として8月中に3日間の実習を行った。

■美術館ボランティア

■美術館サポーター

美術館サポーター（ガイド・ボランティア）は、毎日14時から30分程度（展示替え後は除く）、常設展示室で解説ガイドを行っている。その活動は美術館を代表するひとつの顔となりつつあり、各方面からの取材や関心も高く、来館者もリピーターが増え、美術館を身近なものにしてくれている。26年度の登録人数：34名（男性7名、女性27名）。

■研修日程

- 4月19日(土) 休館期間に行った美術館、読んだ本、勉強したこと、体験したこと情報交換会
- 5月24日(土) 学芸員が紹介する美術館、本、などなど：前山学芸員
- 6月28日(土) 館外研修：東京都写真美術館「佐藤時啓光―呼吸 そこにいる、そこにいない」
- 7月26日(土) 学芸員と話すシリーズ：五味学芸員
- 8月23日(土) 半期ガイドをして。情報交換会
- 9月27日(土) 館外研修：東京芸術大学 アトリエ見学会講師：深井 隆氏
- 10月25日(土) 館外研修：東京国立近代美術館 菱田春草展
- 11月22日(土) 館外研修：朝倉彫塑館
- 12月13日(土) 館外研修：近況報告 懇親会
- 2月7日(土) 館外研修：川越市立美術館
- 3月29日(土) 年間総括。新常設展示室紹介、第1期作品解説会



月例会研修 館外研修「東京国立近代美術館 菱田春草展」での研修の様子

■担当後記

◆今年度も、美術館サポーターからの要望をもとに研修会を実施した。半期休館ということもあり、館内で研修会が難しい9月以降は、館外研修を中心に実施し、アトリエ見学をはじめとした他館視察と、収蔵作家作品に対する見識を広めるよう努めた。

◆今年度は、深谷市民文化センター・川越市立美術館において、収蔵作品の巡回展を行った。それに伴い、川越市立美術館において美術館サポーターによるガイドを実施した。

広く県民に、当館作品を紹介する機会であるとともにサポーターのガイド活動を紹介する好機ともなった。

◆運営面ではメーリングリストを効果的に活用し、当番の割り振り作業に報告・調整を加え、毎月1回の月例会前にスケジュールを完成させるよう務めていただいた。

(山水 明)

■教育普及サポート・スタッフ

当館の教育普及事業をサポートするボランティア・バンクとして、学生や教員、一般まで幅広く募集している。美術館への関心の高さとともに、バンク登録者にとっては社会貢献への位置づけとなっている。1年更新で、平成26年度の登録人数は98名。

■研修日程

- ・第1回「美術館の概要と子どもの鑑賞活動について」／6月20日(金)、6月22日(日)。
- ・第2回「美術館の目的と収蔵作品、平成25年度の活動内容と運営計画について」／6月27日(金)、6月29日(日)。
- ・ガイドスタッフ特別研修「ガイドスタッフの役割と対話型鑑賞について」／7月4日(金)、7月6日(日)。

■担当後記

◆5年前からスタートさせた夏休みの鑑賞ガイドツアーは、昨年度同様、早めの広報を行うことで中学校の美術部を中心に多くの参加者を募ることができた。鑑賞ガイドツアーのファシリテーターを希望するサポート・スタッフも12名に増え、研修を行ったことで充実したガイドを行うことができた。来年度も継続し、内容を深めていきたい。

◆昨年度より若干スタッフが減ったものの、経験豊富な継続スタッフと意欲のある新規スタッフがバランスよく登録した。埼玉大学や東京家政大学、川口短期大学の年度当初のガイダンスで広報を行うことで、大学生

スタッフの数も増やせた。各大学との連携も深めていきたい。(矢花俊樹)



サポート・スタッフの研修

■ MOMAS 彫刻ボランティア

埼玉県立近代美術館（MOMAS）彫刻ボランティアは、発足から11年を経過した。春から秋にかけて北浦和公園内に設置された当館所蔵の彫刻作品の洗浄・ワックスかけを行い、冬期には研修会を開催して、彫刻という美術ジャンルを通じて芸術に関するさまざまな啓発・発信活動を自立的に行う人材の育成を目指している。

今年度も例年どおりに野外彫刻の洗浄を中心に活動した。昨年度に引き続き、大規模改修工事が年度後半に予定されていたので、恒例の親子対象の洗浄ワークショップ「彫刻あらいぐま参上！」を、開館中の5月に繰り上げて開催した。またさいたま市立善前小学校の「土曜チャレンジスクール」事業に協力して、ワークショップも行った。登録者数15名。

■活動概要

- ・ 5月11日（日）／ワークショップ「彫刻あらいぐま、今年も5月に参上！！！」参加人数：17名
- ・ 8月24日（日）／ワークショップ『土曜チャレンジスクール「善前っ子ひろば」@MOMAS』参加小学生：15名
- ・ 12月6日（日）／特別研修会「武蔵野美術大学彫刻科ブロンズ鋳込み作業の見学」／講師：黒川弘毅（彫刻家・武蔵野美術大学彫刻科教授）
- ・ 3月15日（日）／特別研修会「新宿都庁周辺のパブリック・アート見学」／案内：田邊稔（彫刻ボランティア）

■担当後記

- ◆親子参加のワークショップ「彫刻あらいぐま、今年も5月に参上！！！」を開催した。今回の参加者は親子6組の計17人。毎年楽しみにして参加してくれている親子もあり、大変ありがたく感じている。一方で、ワークショップで提供できる内容がポテロ、橋本真之作品の洗浄にどうしても偏りがちであり、洗浄経験者には新味が乏しいところが、現在運営側の悩みの種となっている。
- ◆屋外での洗浄作業が酷暑で困難であるため、例年8月は洗浄を行わずに研修会などを実施していたが、今年度は善前小学校からの協力打診があり、夏休み中の子供向けにワークショップを開催した。気温の上がる午後をさけて午前中の2時間で、説明・3か所の洗浄・まとめを行うという早回しのプログラムによる実施だったが、参加した親子や「土曜チャレンジスクール」の運営ボランティアのみならずには満足をいただけたようだった。
- ◆12月の研修会では、武蔵野美術大学彫刻科で教鞭をとる彫刻家・黒川弘毅氏のご厚意で、学科のブロンズ鋳

込み作業、および学内の彫刻科の見学を行った。いつも洗浄しているボテロなどのブロンズ作品が、どのようなプロセスで鑄造されるのかを目の当たりにすることができ、大変興味深い内容の研修会となった。黒川氏には屋外彫刻作品の状態確認や、メンテナンス方法についてのレクチャーなどで普段から大変お世話になっており、今回もまた数年来の課題であった鑄造の現場の見学まで実現させていただき、感謝の言葉が見つからないほどである。貴重な機会を作っていただいたご厚意に改めて心から感謝申し上げます。

- ◆ 3月の研修会では、東京都庁周辺のパブリック・アートを見て回った。休日であるため、都庁ビル内の作品を見ることはかなわなかったが、屋外の作品を見学することができた。都庁敷地内の作品は作品数も人通りも多いにもかかわらず、メンテナンスが行き届いているように感じられた。ただしひどく傷つけられた作品（名前や言葉を彫られてしまった金属作品）などもあり、パブリック・アートを鑑賞する側の「モラル」について改めて考えざるをえなかった。都庁には関根伸夫氏の作品、新宿アイランド周辺に散在する現代イタリア彫刻群の中に同国で活躍する長澤英俊氏の作品があるなど、第一線で活躍する本県ゆかりの作家の仕事を見ることができて有意義な研修となった。（渋谷 拓）



特別研修会「武蔵野美術大学彫刻科 ブロンズ鑄込み作業の見学」。溶融した金属の熱と光は大迫力であった。

■ 広聴・広報・刊行物

■ 広聴

1. アンケート調査

企画展、MOMASコレクションともに、毎回会場出口でアンケート調査を実施し、来場者の声を聴いた。

- ・企画展調査：「ピカソの陶芸―地中海にはぐくまれて」4月25日～5月18日の22日間。回答数：275／「戦後日本住宅伝説―挑発する家・内省する家」8月2日から8月20日の16日間。回答数：289。
- ・MOMASコレクション調査：「I」5月13日から6月6日の18日間。回答数：352／「II」8月5日から8月17日の12日間。回答数：322。
- ・「美術館にひとこえを！」と名づけたアンケート用紙を1階ロビーに常備し、来館者の声を聴いた。質問や要望の内容によっては回答をさしあげている。また、美術館講座やMOMASの扉、ミュージアム・コンサートなどでもアンケートを実施した。

2. その他

- ・当館への問い合わせ等はインターネットでも受け付けており、随時回答をさしあげている。
- ・近隣町内会や商店会の代表者の方たちと定期的に催しの情報交換をし、美術館に対する要望をうかがったり広報協力をお願いしたりする機会としている。

■ 広報

1. 印刷物の配布

- ・企画展毎に、それぞれのイメージに即したデザインによるポスター、ちらし、ワークシート等を作成した。MOMASコレクションでは昨年に引き続き、イメージを統一したB1・B2ポスターを会期ごとに作成し、北浦和公園や館内各所に掲出した。こうしたポスター類や道案内は、JR東日本大宮支社のご協力を得て、最寄りのJR北浦和駅構内にも設置している。その他、美術館講座や学校向けの利用案内、ファミリー鑑賞会などは手づくりのちらしを作成した。
- ・以上の印刷物や美術館広報誌『ソカロ』、『ミュージアム・カレンダー』を、関連機関、協力ポイント、県内の情報拠点やすべての小、中、高、特別支援学校、全国美術館等に配布した。また、新聞、雑誌、テレビ等各種の媒体を活用し、広報に努めた。

2. ホームページ

独自サーバから、よりセキュリティ体制が整備されている彩の国県立学校間ネットワークシステムにサーバを移転したのに伴い、8月22日から公式ホームページURLを変更した。

新URL：<http://www.pref.spec.ed.jp/momas/>

情報項目：お知らせ（ニュース、ソカロ、プレスリリース）、利用案内（美術館概要、利用案内／交通案内、フロアガイド、一般展示室／講堂）、展覧会（企画展、MOMASコレクション、年間スケジュール、一般展示室）、イベント（企画展関連イベント、MOMASコレクション関連イベント、MOMASの扉・カレンダー、イベント・カレンダー）、教育普及事業（MOMASの扉、学校と美術館、彫刻あらいぐま、近現代建築探検ツアー）、もっと楽しもう（収蔵品紹介、今日座れる椅子、図書室、北浦和公園・野外彫刻、お得な情報、ファミス、ミュージアムショップ、レストラン・ペペロネ）、リンク、サイトマップ、English、今日の美術館、過去の展覧会図録の販売 など

3. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

- ・2011年7月よりツイッターを開始し、美術館の情報を1日1回程度ツイートしている。また、3月23日から29日の期間で開催されたツイッター上のイベント「ミュージアムウィーク」に参加し、美術館の認知度の向上を図った。フォロワー数は7,000人を超え、順調に伸びている。

URL：https://twitter.com/momas_kouhou

ツイート：1,259、フォロワー：7,014、フォロワー：7,361（3月末日現在）。

- ・2014年1月にYouTubeのアカウントを取得し、展覧会情報や対談イベント、学芸員のギャラリートークの様子などを発信している。

URL：<https://www.youtube.com/user/momas.jp>

- ・2014年7月にフェイスブックページを開設し、展覧会や各種イベント、ワークショップの様子、北浦和公園の情報など、幅広い情報発信を行っている。

URL：<https://www.facebook.com/momaspr>

いいね！：429（3月末日現在）。

4. その他

- ・県展開催期間限定で、MOMASコレクション観覧料を半額にする割引サービスを実施した。
- ・与野本町ショッピングセンターのデジタルサイネージに、企画展やMOMASコレクション、座れる椅子の情報を

提供した。

- ・翌年度4月のリニューアルオープンに向けて、美術館の特徴や代表的な収蔵作品、フロアマップなどを掲載した美術館案内リーフレットを更新した。

■担当後記

◆いずれの事業のアンケートでも、内容や雰囲気、職員の対応について95パーセント以上の方が「たいへん良かった」「良かった」と答えてくださり、満足度の高い数字が得られた。屋外展示室のメンテナンス不足など耳の痛い意見もあり、今後の維持管理を見直す機会にもつながった。(大越久子)

◆昨年度と同様に、9月から約7か月間休館するというところで、まずは開館しているうちになるべく多く露出できるように様々な情報発信に心がけた。また、休館中は出張展示などを中心に広報するとともに、他の美術館や関係者と連携した広報などを試みた。(落合範崇)

■広報記録

<埼玉県立近代美術館>

- ・「7か月ぶり 県立近代美術館 展示再開」『テレ玉ニュース』2014年4月2日放送
- ・「デイリーニュース(再オープン)」『JCN関東』2014年4月2日放送
- ・「近代美術館がリニューアル」『産経新聞』2014年4月3日
- ・「7カ月ぶり再開 県立近代美術館第1期リニューアル」『朝日新聞』2014年4月4日
- ・「埼玉県立近代美術館リニューアルオープン 4月2日」『新美術新聞』2014年4月11日
- ・「みんなで楽しめる 県立近代美術館へ出かけよう」『テレ玉 彩の国ニュースほっと』2014年4月19日放送
- ・「県立近代美術館長建嶋哲さんに聞く 多様な価値観を育む美術館」『朝日新聞』2014年4月29日
- ・「県立近代美術館 ファミリー鑑賞会を開催」『テレ玉ニュース』2014年4月30日放送
- ・「赤ちゃん連れも歓迎 家族鑑賞会を開催」『埼玉新聞』2014年5月9日
- ・「ユニークな企画展やイベントも 埼玉県立近代美術館」『ぼど東川口・東浦和』2014年5月30日発行
- ・「モネ、ピカソ、シャガール・・・巨匠の作品を堪能 埼玉県立近代美術館」『ぶらぶら美術館・博物館プレミアムアートブック2014-2015』2014年6月16日発行
- ・「北浦和公園から常盤緑道まで」『市報さいたま8月号』2014年8月号

- ・「デイリーニュース(休館)」『J:COM』2014年8月29日放送
- ・「県立近代美術館 全面改修で休館」『読売新聞』2014年8月30日
- ・「来月から長期休館 県立近代美術館」『産経新聞』2014年8月30日
- ・「県立近代美術館 改修工事で休館 あすから」『埼玉新聞』2014年9月1日
- ・「改修のため県立近代美術館全面休館」『テレ玉ニュース』2014年9月1日放送
- ・「県立近代美術館 改修で全面休館 来年4月まで」『日経新聞』2014年9月5日
- ・「印象派の世界に浸れる美術館(第10位)」『日経新聞プラス1』2014年11月22日
- ・「開館以来の大規模改修工事を終え埼玉県立近代美術館が活動再開」『春びあ』2015年2月12日
- ・「印象派の収蔵品や県内美術家の作品を展示する美術館」『まっふる浦和レッズ』2015年2月23日
- ・「県立近代美術館 海外巨匠の作品も展示」『埼玉新聞』2015年3月4日
- ・「県立近代美術館 改装開館へ 保管環境改善、名作も喜ぶ」『日経新聞』2015年3月6日
- ・「桜だより 北浦和公園」『ショッパーさいたま・浦和』2015年3月12日
- ・「リニューアル 埼玉県立近代美術館」『埼玉Walker 2015春・GW』2015年3月24日
- ・「県立近代美術館 4月リニューアルオープンへ」『テレ玉ニュース』2015年3月25日放送

■刊行物

平成25年度版年報、平成26年度版要覧、平成26年度版ミュージアム・カレンダー、館広報紙『ソカロ』を刊行した。年報、要覧はホームページでも閲覧できる。

■ソカロ

館広報紙『ソカロ』(A3版2面、カラー印刷)を、2か月毎(年3回、各15,000部。長期休館中は休刊)に編集・発行・配布した。

■2014年6-7月号(#69 5月31日発行)

- ・建築家は考える 企画展「戦後日本住宅伝説―挑発する家・内省する家」(伊豆井秀一)
- ・MOMASコレクションIIから 読むように見ること―荒川修作の絵画(大浦周)

- ・平成25年度 新収蔵作品のご紹介 (渋谷拓)
- ・ふたたび、《位相—大地》をめぐって (前編) (梅津元)
- ・ミュージアム・ショップからのおすすめ商品「リーフメモ」(宮前いづみ)
- ・MUSEUM NEWS 6-7



■2015年4-5月号 (#71 3月31日発行)

- ・リニューアルオープン—新たなる飛躍に向けて (建畠哲)
- ・「個」と「個」が出会うきっかけに リニューアルオープン記念展: private, private—わたしをひらくコレクション (吉岡知子)
- ・塗師祥一郎さんインタビュー—未来に遺したい埼玉の風景— (埼玉画廊・竹内春香/中村誠)
- ・大規模改修工事が完了しました! (鈴木亨)
- ・ミュージアム・ショップから記念キャンペーンのお知らせ (宮前いづみ)
- ・MUSEUM NEWS 4-5



■2014年8-9月号 (#70 7月31日発行)

- ・機能主義と官能性 企画展「戦後日本住宅伝説—挑発する家・内省する家」(建畠哲)
- ・SMF第2ステージに あなたとどこでもアート/小さな家プロジェクト始動 (中村誠)
- ・ふたたび、《位相—大地》をめぐって (後編: 万博編) (梅津元)
- ・どうぞよろしく! (五味良子)
- ・ミュージアム・ショップからのおすすめ商品「ku・ru・ru kuro-neko/o-hana」(浜田幸代)
- ・MUSEUM NEWS 8-9



■図書資料の収集と公開

美術館活動を進める上で、必要な基礎的及び専門的資料を収集し、併せてこれを一般に公開することにより、県民が美術に親しみ、理解と鑑賞を深める機会を提供している。

■蔵書冊数一覧

・一般書

	分類	平成25年度まで	平成26年度	計
購入	A 美術総記	2,406	21	2,427
	B 日本美術	2,532	75	2,607
	C 西洋美術	3,095	20	3,115
	D 東洋 その他の美術	183	0	183
	E 図録	847	14	861
	F 埼玉資料	237	3	240
	G 関係諸学	773	2	775
	小計	10,074	135	10,209
受贈 (一般図書・他館図録)	29,561	592	30,153	
合計	39,635	727	40,362	

・美術雑誌（バックナンバーを除く）

購入 25タイトル（うち洋雑誌4タイトル）

受贈 11タイトル

計 36タイトル

開室日数 128日

利用者数 1,806人

レファレンス受付件数 89件

■寄贈資料の受入

金澤毅氏より「ジャパン・アート・フェスティバル」関連資料をご寄贈いただいた。また平成25年度に小村欣也氏らより受贈した資料を順次受入した。

■椅子の美術館

約60種類所蔵している内外のグッド・デザインの椅子やアートな椅子を、入館者に自由に座って楽しんでもらった。これらの椅子は、企画展やMOMASコレクションの展示替えに合わせて定期的に入れ替え、常時20～30脚程度を館内各所に配置しており、ホームページの「今日座れる椅子」で紹介している。

■ハイビジョン・コーナー

1階エントランス・ホールの休憩コーナーでは、65インチの大画面により、19世紀以降の優れた美術作品等を、高精細な映像と音声で紹介した。また、随時、企画展、収蔵品、イス等の紹介映像を上映した。

■トピックス

■トピックス[1]

第2回 座れる段ボールの椅子グランプリ

学校との連携強化と、創造力と創意工夫する力の育成を目的に、県内小・中学校、高等学校、特別支援学校の児童、生徒を対象に本事業を開催した。段ボールのみを素材に、大人が座ることができる椅子を3人以上のグループで制作して応募するコンクール形式で実施し、24校、59グループ、316人が参加した。

8月8日(金) 当館講堂において建畠哲館長、埼玉大学教授・高須賀昌志氏、中村主席学芸主幹、大越学芸主幹が審査を行い、以下の入賞作品と入選作品を決定した。

① 総合グランプリ

狭山緑陽美術部 《メビウスの温もり》
(県立狭山緑陽高等学校)



② 総合準グランプリ

チーム デンジャラス 《我らが地球》
(県立特別支援学校 さいたま桜高等学園)



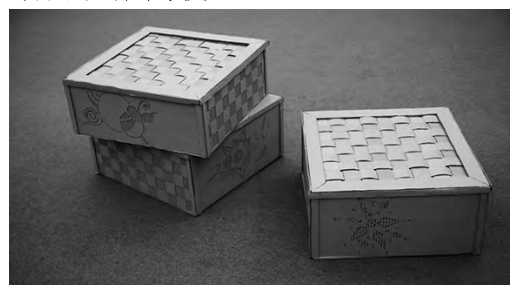
③ 高等学校グランプリ

越谷西美術部 《組み立て式チェア「くつろぎ」》
(県立越谷西高等学校)



④ 中学校グランプリ

RYM'S 《月蓮花》
(小川町立東中学校)



⑤ 特別支援学校グランプリ

ワンダーランド 《いやしの木(癒しの木)》
(県立特別支援学校 さいたま桜高等学園)



⑥ 高等学校準グランプリ

チームクラフト 《Rippling Chair》
(県立芸術総合高等学校)



⑦ 中学校準グランプリ

6人の小さなお菓子屋さん《四季のフルーツタルト》

(川口市立北中学校)



⑧ 特別支援学校準グランプリ

ふなっしー《Che-A-Chan (チェーアーちゃん)》

(県立狭山特別支援学校)



■広報記録

<新聞>

・「狭山緑陽高美術部がグランプリ」『産経新聞』2014年8月22日

<ラジオ>

・FM浦和「座れる段ボールの椅子グランプリ」2014年8月20日

■担当後記

◆今年度も改修工事に伴い9月以降の団体利用の受け入れができなかった。昨年度より、学校連携が改修工事で以降も継続するよう、「座れる段ボールの椅子グランプリ」事業の実施により連携強化を図った。教員美術講座でも「座れる段ボールの椅子を作るには」を実施し、多くの参加者から分かりやすく、取り組みやすいと好評を得た。参加校の児童、生徒、教員からは、来年も是非、出品したいといった声や、子ども達の絆が深まる取り組みである。といった評価があった。美術館に親しみを持ってもらい、関心を高める事業として次年度以降も継続する予定である。(矢花俊樹)

8月23日(土)～8月31日(日)の期間、受賞作品、入選作品を館内に展示し、来館者に紹介するほか、8月23日(土)に受賞式を行うとともに作者によるプレゼンテーションを中心とした鑑賞会を行い、広くアピールした。



8月23日(土) サマー・アドベンチャー
“座れる段ボールの椅子大集合！”鑑賞会風景

■トピックス[2]

大規模改修工事（第2期）の報告

昭和57年11月に開館した埼玉県立近代美術館は建築後31年を経て、施設・設備の老朽化や生活様式の変化に伴い平成25年度より2か年間かけて大規模改修工事を実施しました。このたび、平成26年9月1日から平成27年4月10日の期間に全面休館して大規模改修工事（第2期）を実施しました。

第2期工事では、主に企画展示室や一般展示室の内装改修、展示室や収蔵庫の空調機器更新、外壁タイルの磨き直し、エレベーターの更新を行いました。

工事にあたりもっとも苦労した点は、外壁タイル改修です。美しさが求められる美術館の外観がタイルの貼り替えによってツギハギだらけの美術館にならないように施工箇所の選定、改修方法、特注タイルの色など何度も何度も再検討、タイルの焼き直しを繰り返して完成に至りました。経年劣化した既存のタイルと新しく作ったタイルはどうしても完全に色を一致させることができませんが、差が少しでも目立たないように慎重に施工しました。

そのほか、平成26年度においては美術館本体の大規模改修工事に併せて、美術館の立地する北浦和公園の環境改善工事も行いました。美術館と同様に北浦和公園も開園後40年あまりが経過して、樹木の老木化、密集化が進んでおり倒木や落枝による事故発生のおそれがあったことから、危険性のある樹木を伐採するとともに密集化している樹木は一定程度間引きしました。また、全国でも珍しい「公園に立地する美術館」を大々的にアピールできるように美術館と調和のとれた美しい公園に改善するため見通しのよい芝生広場を造りました。

さらに、公園の目玉になっている音楽噴水も腐食等による故障や破損のため60%程度の噴水演出しかできなかった設備機器類を更新し、100%の演出を可能にし、あらたに曲目を4曲増やしました。

■担当後記

今回の一連の改修工事では、埼玉県立近代美術館をご利用くださるみなさまがより一層楽しく快適に美術鑑賞ができるようにするにはどうしたらいいのかを常に考えながら工事を進めました。みなさまが「埼玉県立近代美術館に行こう！」「埼玉県立近代美術館にまた来たい♪」と感じていただけたならばうれしい限りです。

（鈴木 亨）

■広報記録

- ・木村健二「県立近代美術館改修工事で休館」『毎日新聞』2013年8月31日
- ・砂生敏一「県立近代美術館改修工事で休館」『埼玉新聞』2013年8月31日
- ・「県立近代美術館が長期休館」『産経新聞』2013年9月2日
- ・「テレ玉ニュース」『テレビ埼玉』2014年4月2日
- ・砂生敏一「リニューアルの県立近代美術館」『埼玉新聞』2014年4月3日
- ・「近代美術館がリニューアル」『産経新聞』2014年4月3日
- ・「埼玉県立近代美術館リニューアルオープン」『新美術新聞』2014年4月11日号



美術館正面（工事中）



美術館正面（完成間近）

■トピックス[3]

心揺さぶるアート事業

本事業は「文化庁平成26年度戦略的芸術文化創造推進事業」における「障害者の優れた芸術作品の展示の促進への取組」に応募し、採択された。事業内容は、優れた芸術作品としての障害者アートの全国調査を行うことであり、その成果をもとに展覧会を開催することをめざしている。

1 実行委員会、研究会

「心揺さぶるアート事業実行委員会（会長：建昌哲、事務局：埼玉県立近代美術館）」がこの事業の実施主体となり、国内における障害者の優れた美術作品に係る調査研究を行った。あわせて、次年度の展覧会開催に向けた会場調査も行った。

この分野の研究者や幅広いジャンルの専門家が集まる実行委員会では、研究会を開催し、障害者アートやアール・ブリュットの実情、展覧会の可能性や手法について討議した。

2 調査

全国を9地域に分け、各地域の調査研究員13名と事務局の2名によって調査を行った。障害者の芸術活動全般ではなく、優れた活動の調査を目的としたため、網羅的な調査ではなく、個々の調査研究員が個人的に興味をおぼえたアーティストを調査することを主眼とした。そのため、地域を限定することなく、他の地域の調査も奨励した。

目標とする作家の調査数は、全体で100～200と設定した。最終的には165、調査範囲としては、北海道から沖縄まで広がっている。



工房集(川口市)外観

3 アーカイブ

各調査員が作成した調査票は事務局で保管し、全国の学芸員、大学教員などが、展覧会や研究などの目的で閲覧することを可能とするが、一般公開は行わない。あわせて作成したデータベースによって検索も可能であり、有益なアーカイブとなると思われる。

■事業日程

●心揺さぶるアート事業実行委員会

第1回/平成26年8月22日(金)/近代美術館会議室

第2回/平成27年3月20日(金)/近代美術館会議室

●研究会

第1回「アール・ブリュット、障害者アートの現状と展覧会の実施に向けて」/平成26年8月22日(金)/近代美術館会議室

第2回「日本のアール・ブリュット、障害者アートの現状、調査をふまえて」/平成27年3月20日(金)/近代美術館会議室

●調査研究員会議・開催予定館会議

第1回 平成26年10月21日(火)/埼玉県浦和合同庁舎会議室

第2回 平成27年2月10日(火)/埼玉県浦和合同庁舎会議室

●報告書 A4/本文p.32/デザイン：吉田桂子/発行日：平成27年3月20日

(前山裕司)



表紙作品：佐々木省伍(工房集)

■トピックス [4]

あなたと どこでも アート/小さな家プロジェクト

平成26年度 文化庁 地域と共働する美術館・歴史博物館創造活動支援事業

■事業名：あなたと どこでも アート/小さな家プロジェクト

■主催：あなたと どこでも アート実行委員会

■事業期間：2014年4月1日～ 2015年3月31日

文化庁のモデル事業・支援事業として開催してきたこの事業も、通算で6年目となった。事業名や枠組みは少しずつ変わってきたが、各回とも、入間市博物館、うらわ美術館、川口市立アートギャラリー、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館という県内の公立ミュージアム5館がゆるやかに連携して実行委員会をつくり、文化庁の支援を得て実施してきた。

この事業は、各ミュージアム館内での展示やワークショップ、シンポジウムなどにとどまらず、館庭や公園、街路や商店街など、暮らしに身近な場所でさまざまなアートプログラムを展開し、ミュージアムと地域を結ぶ役割を果たしてきた。「あなたと どこでも アート 実行委員会」という名称もアウトリーチプログラムとしての本事業の性格を端的に示すものだ。

「衣・食・住」など暮らしに身近な視点でアートを捉え直そうという着想から、今年度は「住む」に焦点を当て、「小さな家プロジェクト」と題して埼玉県内各地で20を超えるさまざまな事業を展開した。*1

企画展「戦後日本住宅伝説」と時期をあわせて開催した「旅する小さな家」コンペには全国から200点を超える応募があり、公開審査は立ち見の大盛況となり、水谷隼人さんと山本恭代さんの《二つの場所で起こること》が最優秀作品に選定された。受賞者チームの献身的な努力と、審査員のアドバイス、各方面のご協力、予算や時間の制約をクリアし、11月9日別所沼公園ヒアシンズハウス前でのお披露目にこぎつけた。あいにく雨模様の朝だったが、昼近くには小止みとなり、シンポジウムや創作ダンス公演をお楽しみいただいた。NHKテレビの昼のニュースで紹介され、午後には多くの方が来場し「旅する小さな家」の不思議空間を体験した。*2

美術、建築、音楽、ダンスなどジャンルを超えて「小さな家」を自由に解釈して展開する多彩なアートプログラムを、連携ミュージアムを中心に県内各地で開催し、さまざまな世代の方にお楽しみいただいた。

「アート日和」と題した複合的なアートプログラムは、

新たなアートの場や楽しみ方の提案であり、そこから生まれる次の協働に期待するものだった。

また次年度以降のテーマとなる「衣」や「食」についても、アート散歩「糸のみちー染・織りサーチプログラム」が羽生、越生、川越、川口で開催、アート寺子屋「食と現代アートの融合がもたらすコト」が埼玉大学で開催されるなど、今後の展開を準備した。*3

あわせてインターネット上にアートの表現者も仲介者も愛好家も隔てなく交流できるプラットフォームをつくらうと「SMFアート長屋」も始動した。*4

この事業の企画・運営を担っているのはSMF (Saitama Muse Forum) の方々だ。埼玉県立近代美術館のミッションに共鳴し、美術、音楽、舞踊、建築、文学など、さまざまな分野で活動する方々が集い、「身近な場所でアートを享受し、支援し、再創造するプラットフォームをめざします」を旗印に、各ミュージアムのスタッフとともにこの事業を支えている。

これまでの事業を通じてたくさんのお出会いと交流が生まれ、その周辺でさまざまな協働がはじまっている。ミュージアムをキーステーションとしながらミュージアムに限定されない活動や、さまざまなジャンルを超えた協働がSMFを母胎として生まれている。それらを機動的に繋ぎどのように組織化して、美術館と地域連携の新たなモデルを構築するかが今後の課題と言えよう。

ミュージアムと地域の協働のモデルとなるような開かれたプラットフォームの形成に向けて、引き続きあたたかいご理解、ご支援をお願いしたい。(中村 誠)

*1 事業の詳細は、記録集『小さな家プロジェクト』(A4判24P)及びホームページ<http://www.artplatform.jp>参照。

*2 「旅する小さな家」の動画はYOU TUBEでご覧いただけます。「旅する小さな家 完成版」で検索してください。

*3 アート寺子屋については、SMFホームページにアーカイブを開設する予定です。今年度実施した3本の寺子屋の内容詳細をネット上でご覧いただけるようになります。

*4 <http://artnagaya.jp> からアクセスしてください

■事業の概要

1 「SMFアート長屋」の立ち上げ

インターネット上にアートのプラットフォームとなる集合住宅「アート長屋」を構築しようという試み。表現者やクリエイターのみならずコーディネーターや愛好家、支援者が隔てなく交流する場とし、リアルな空間との照応も含めて、新たなアートのあり方をとともに考え、さまざまな企みが生起するプラットフォームをめざす。

- ① キックオフイベント「アート寺子屋① いまからあなたもアーティスト／アートプラットフォームへようこそ」6/22（埼玉県立近代美術館）[参加48名]
- ② SMFアート長屋の構築：7月～基本設計、12月試作版、3月～一般公開（制作：キャベッジネット）
- ③ アートのまつり 1/12（宮代町 進修館）[参加46名]

2 「小さな家プロジェクト」

生きるためのミニマルな空間、存在のメタファーであり、隠れ家であり、秘密基地でもある「小さな家」を、建築のみならず、美術や文学、音楽やダンス、哲学や社会学など、様々な観点からアプローチして、各々の自由な想像力・創造力を紡ぎ出すことで、各々の意識の変容を促した。

埼玉県内にあるきわめて特徴的な小さな家、「ヒアシンスハウス」（立原道造）、「カップマルタン」の休暇小屋（ル・コルビジエ）、「中銀カプセル」（黒川紀章）などの周知と多面的な活用を図るとともに、埼玉県立近代美術館の企画展「戦後日本住宅伝説―挑発する家・内省する家」（7/5～8/31）との連携プログラムも実施した。

- ① アート散歩「小さい家をめぐる旅」5/31（川口市、さいたま市、行田市 計5か所）[参加31名]
- ② アート寺子屋「小さい空間の、大きなひろがり」7/12（埼玉県立近代美術館）[参加53名]
- ③ 「小さな家」の解説パネルの作成と展示 随時（連携美術館等）[作成、7か所に配布済]
- ④ 「家を聴く一音で写真集をつくろう」MOMASサウンドスケープ+サウンドモニタージュ・ワークショップ（以下WS）（埼玉県立近代美術館）7/19・20[2日間参加 計94名]
- ⑤ 「美術の模擬授業 親子でつくろう！びじゅつのじかん」（さいたま市民活動サポートセンター）7/26[午前・午後2回 参加 計60名]
- ⑥ 「小さいお家をつくろう」WS 7/29、7/31、8/2（東野高等学校、入間市博物館）[参加 計90名]
- ⑦ 「住みつけてなに？―名作住宅に寄生する試み」WS 8/16（埼玉県立近代美術館）[参加20名]
- ⑧ 「自分だけの小屋をつくってみよう」WS 8/30

（埼玉県立近代美術館）[参加 16名] 11/23（行田）

- ⑨ アート日和@北浦和9/20（北浦和西口銀座商店街）
「きたうらワンFamilyを探せ！」応募作品（54点）展示・人気投票できたうらワンFamily選定（10月29日お披露目、表彰式、入賞作品展示）
「うちの家族のものまねダンシングショー」WS [参加7名]
「世界小屋会議」土器づくりWS、縄文茶会、詩の朗読「自分だけの小屋」テラコッタ作品展示
- ⑩ アート日和@行田11/23（行田市 牧禎舎）[参加80名]
「自分だけの小屋をつくってみよう」WS
「うちの家族のものまねダンシングショー」WS
「世界小屋会議」土器づくりWS、縄文茶会、詩の朗読とチェロのセッション、太陽光給湯器と足湯パフォーマンス
- ⑪ 「多世代交流ワークショップ ハートハウスをつくろう！」9/6（うらわ美術館）[参加2回計43名]



3 「旅する小さな家」プロジェクト

可動式の「小さな家」（パビリオン）を一般公募し、最優秀作品を実際に制作した。完成作は11月9日、別所沼公園での「アート日和 旅する小さな家がやってきた！」でお披露目し創作ダンス公演や記念シンポジウム等を開催した。（5月～公募、7/9～12埼玉県立近代美術館で応募作品展[全国から201点の応募、作品展4日間399名来場]、7/13 公開審査、[参加163名]、最優秀作品を設計・制作し、11/9別所沼公園ヒアシンスハウス前でお披露目、現在さいたま市内の倉庫に保管中。H27年に次の旅先への移動を予定）



4 「糸のみちー染・織」リサーチプログラムほか

今年度の「住」に続き次年度以降に計画する「衣」、
「食」について、リサーチを兼ねたプレプログラムを実施した。

- ① 組立式茶室・方丈庵で楽しむ双子織と創作ダンスの出会い（入間市博物館）10/4 [参加70名]
- ② 川口染織業の記憶をたどるアート散歩「糸のみち」① 染のみち - 藍染の工房を訪ねる 10/12 [参加24名]
- ③ 川口染織業の記憶をたどるアート散歩「糸のみち」② 織のみち - 双子織のルーツを訪ねる 11/2 [参加26名]
- ④ 藍染工場を訪ねて：羽生アート散歩（中島紺屋ー小島染織ー野川染織）9/6 [参加21名]
- ⑤ 裏網の里を訪ねて：越生アート散歩（昔、市の立った街道、蔵、保存された町屋）10/5 [参加26名]
- ⑥ 糸のみち：川越アート散歩（染織品展示と川越関連ス

ポットの街歩き）12/6 [参加31名]、展示「糸のみち 染めのみち 紺屋のあさって」展（川越市美ほか市内3会場）12/3～7 [来場者200名]

- ⑦ シンポジウム「食と現代アートの融合がもたらすコト」+「記憶の海苔巻WS」（埼玉大学）12/13 [参加32名]

その他、ニュース紙「SMF PRESS」18号～21号を発行。ホームページも新しいっそうの充実を図った。

■広報・報道記事

- ・佐藤達哉「小さな家をテーマに事業 県立近代美術館など 各地でアート活動」埼玉新聞 2014年6月30日
 - ・「小さな家をめぐる旅」2014年7月14日～20日/21日～27日/28日～8月3日 J: COMチャンネル埼玉「ギュギュっとさいたま」（3週に分け毎日3回放送）
 - ・中村誠「SMF第2ステージに あなたとどこでもアート/小さな家プロジェクト始動」埼玉県立近代美術館ニュース ソカロ2014年8・9月号（70号）
 - ・「モデルハウスづくり」入間エリア新聞2014年8月10日（207号）
 - ・「アート日和@北浦和」FM浦和2014年9月17日
 - ・「アート日和@北浦和」10月6日～12日 J: COMチャンネル埼玉「ギュギュっとさいたま」（毎日3回放送）
 - ・「土器づくりに挑戦（アート日和@北浦和）」読売新聞 2014年10月25日
 - ・「立原道造の夢つなぐ〈創建は奇跡だった〉」埼玉新聞2014年10月28日
 - ・「立原道造が構想 小さな家公開」11月9日NHKテレビ「ひるまえほっと」
 - ・岸田将幸「建築・詩作…地道に顕彰 早世の天才、立原道造生誕100年」日本経済新聞2014年11月18日夕刊
 - ・「アート日和@行田 11月23日牧禎舎」viva! amigo（群馬東部よみうり新聞社）2014年11月21日
 - ・吉岡響「コレオグラファーの目Vo.: 13『旅する小さな家』」季刊DANCEART no. 41（2015年2月1日）
 - ・青山恭之「埼玉「うらわ建築塾」②/SMFの活動 県内5つのミュージアムが連携、アートがつながる」『建築ジャーナル』2015年2月号p.31
- #### ■委員等名簿
- ・実行委員会 委員長：建島哲（埼玉県立近代美術館館長）
 - ・実行委員：青木穂（ジェイコムさいたま さいたま南局局長）、石塚正英（東京電機大学理工学部教授・情報システムデザイン学系長）、稲葉康久（うらわ美術館館長）、今宮照久（テレビ埼玉ミュージック社長）、上

- 野正（川越市立美術館 館長）、鶴谷真治（NHKさいたま放送局放送部長）、黒澤一雄（入間市博物館ALIT館長）、小池要子（埼玉県県民生活部文化振興課長）、佐藤達哉（埼玉新聞社文化くらし部部長）、佐藤裕之（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課長）、高橋幸次（日本大学藝術学部教授）、本田貴侶（埼玉大学教育学部名誉教授）、三浦清史（Saitama Muse Forum 代表、建築家）、山下浩文（川口市立アートギャラリーATLIA 館長）
- ・運営委員：青山恭之（建築家／うらわ建築塾 代表）、石上城行（埼玉大学教育学部 美術教育講座 准教授）、大越久子（埼玉県立近代美術館 学芸主幹）、奥野由利（CAF.N事務局／画家、造形教室主宰）、小野寺茜（川口市立アートギャラリーATLIA 美術専門スタッフ）、北原立木（ヒアシンスハウスの会代表／文芸誌『帆帆』主宰）、工藤宏（入間市博物館ALIT 学芸員）、柴山拓郎（作曲家／東京電機大学理工学部 准教授）、高橋博夫（俳人／『第3次同時代』、『梓』同人）、田島均（うらわ美術館 教育普及）、谷平絵美子（川越市立美術館 主幹）、藤井香（埼玉県舞踊協会 理事／彩のくに創作舞踊団 主宰）、山尾聖子（杉野服飾大学 フランス語講師）、渡辺恭伸（須田剋太研究会 理事）
 - ・協力委員：浅見俊哉（アーティスト／KAPL代表）、大澤加寿彦（ミュージシャン）、川崎久美（アートコーディネーター）、木村昭司（デザイナー／デザイン工房きら代表）、草野律子（建築家／アルテクラブ事務局）、小宮幸子（埼玉県立近代美術館フレンド広報委員）、齋藤はるか（アートサポーター／会社員）、佐野哲史（建築家／ヒアシンスハウスの会事務局）、菅原浩子（アートサポーター）、長沢晋（美術家／CAF.N会員）、中村元（写真家）、中村隆（デザイナー／有限会社アームズ代表取締役）、野本翔平（SEED代表／パフォーマンス・アーティスト）、柳原敬（会社員／KAPL会員）
 - ・事務局（埼玉県立近代美術館内）：事務局長 依田英樹（埼玉県立近代美術館副館長）、事務局員：中村誠（同 主席学芸主幹）、佐藤敏光（同 管理担当部長）、小野圭弘（同 総務担当課長）、佐藤嘉章（同 総務担当主任）、山田恵（同 総務担当主事）、五味良子（同 学芸員）

■連携・協力機関・団体、協力者

- ・主要連携機関
入間市博物館ALIT、うらわ美術館、川口市立アートギャラリーATLIA、川越市立美術館、埼玉県立近代美術館、SMF（Saitama Muse Forum）
- ・協力機関・団体
株式会社アジュール、アルテクラブ、入間市華道連盟、

うらわ建築塾、盈進学園東野高等学校、江戸袋氷川神社、越生市教育委員会、越生岡野家住宅、越生金子家住宅、「親子でつくろう！びじゅつのじかん」実行委員会、川口信用金庫北浦和支店、河鍋暁斎記念美術館、株式会社キャベッジ・ネット、ギャラリーなんとうり、NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク、北浦和西口銀座商店街振興組合、小島染織工業株式会社、埼玉県舞踊協会「コレオグラファーの目」実行委員会、さいたま市市民活動サポートセンター、さいたま市立浦和くらしの博物館、埼玉大学教育学部美術教育講座石上研究室、サイボー株式会社、三番町ギャラリー、SEED、CAF.N、竹のアート実行委員会、ダンスユニット「転々」、塚越稲荷神社（機神社）、ティアック株式会社（TASCAM）、株式会社東京スタデオ、東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系作曲・音楽文化研究室、野川染色工業株式会社、野田双子織研究会（入間市博物館ボランティア会）、はたごっこ、ヒアシンスハウスの会、牧禎舎、光村印刷株式会社、ものづくり大学、蕨市立歴史民俗資料館

・協力者

愛智伸江、荒牧澄太、五十嵐純、石川桃子、伊藤慶孝、上村有紀、うだまさし、生形三郎、江積志織、小田久美子、小野寺優元、小原恵利子、海保文江、笠松泰洋、榎川真理子、加藤忠正、河鍋楠美、カワムラアツノリ、木村文吾、小池ちかこ、駒木定生、小山綾子、桜井陽、佐藤直哉、嶋崎都志子、社会芸術／ユニット・ウルス（吉田富久一、長谷川千賀子、吉川信雄、大内公公、関口将夫、須田千香良、八木隆行、加藤アキラ）、鈴木道夫、高木文絵、高橋純一、竹本清香、多田直子、田中昭夫、種田元晴、津村泰範、手島互、東京電機大学理工学部情報システムデザイン学系作曲・音楽文化研究室（内田真太郎、大高準、大塚祐斗、大野翔太、小川宗太郎、小友渉、小磯晋、杉浦和真、田上恵、松木智弘、茂木龍朗、杉浦永憲、高橋佳紘、保谷一輝）、中里和人、中澤宏美、長野恒、中村好文、西耕三郎、西大三、根岸由希、長谷川豪、原田紀子、東伊都美、平澤瑠、平田五郎、藤井彩加、藤原成暁、増田拓史、松永優、松元日奈子、水谷隼人、三ツ木紀英、明神和子、村田峰紀、毛利義孝、本橋裕基、八代克彦、山口愛、山崎千恵、山田祐司、山本恭代、吉田金造

■埼玉県立近代美術館フレンド

埼玉県立近代美術館フレンドは、会員が美術館の情報を直接受け取ることで美術館活動に積極的に参加し、また会員相互の交流を深め、美術館活動を支援することを目的としている。略称：ファミス(fam.s=friends of art museum, saitama)。

■会員数

728件(人)(平成27年3月31日現在)。

内訳：一般会員380人、シルバー会員137人、学生会10人、家族会員138家族(347人)、賛助会員(個人)22人、賛助会員(法人)20団体、特別賛助会員21団体。

■活動内容

1. 企画委員会

○ファミス美術館見学会

「北海道の大自然と融合するアートを巡る旅」／2014年10月15日(水)～10月17日(金)／見学地：モエレ沼公園、アルテピアッツァ美唄、炭鉱メモリアル森林公園、拓真館、新星館、神田日勝記念美術館、十勝千年の森、中札内美術村／参加者：22名(うち会員20名)。

2. 広報委員会

○『ファミス通信』第32号の発行(5月)。

3. ミュージアム・ショップ委員会

○サマーセール開催／8月1日(金)～8月31日(日)。

4. 事務局

①『平成25年度フレンド年報』の発行(7月)。

■担当後記

◆今年度は9月1日から3月31日まで美術館が改修工事の為、休館をしていました。その関係でファミスの活動も例年より少ない活動にとどまりましたが、美術館見学会や会報誌の発行等により美術館活動に貢献することができました。(事務局・野口恵子)

■埼玉県立近代美術館フレンド役員名簿

平成27年3月31日現在

氏名	現職等	備考
清水 武司	秩父地域利用者 写真家	会長
内田 和子	秩父地域利用者	副会長
増野 武夫	県北地域利用者	顧問
石川 信子	県南地域利用者	ミュージアム・ショップ 運営委員長
石原 猛男	県西地域利用者 松田産業(株) 監査役	
小林 真	秩父地域利用者 デザイナー (株)コア 代表	広報委員
大久保敏三	県西地域利用者 (株)丸広百貨店 代表取締役社長	
太田せつ子	県東地域利用者 第一生命保険(株) 教育部顧問	
滝沢 布沙	県北地域利用者 染色家	
荒井 康博	県南地域利用者 (株)テレビ埼玉 常務取締役	
丸山 晃	県西地域利用者 埼玉新聞社 相談役	
水野 晶子	県南地域利用者	広報委員 ミュージアム・ショップ 運営委員
金川 京子	県南地域利用者	広報委員長
小口 良三	県南地域利用者	監事
田沼 利将	県南地域利用者 (公財)長島記念財団 常務理事	監事

■貸館事業

当館地階には県内の美術団体や美術家の作品発表の場として、一般展示室1～4が設けられている。この一般展示室が、美術館の目的や運営方針にふさわしい利用に供されるよう利用申込みについて審査するため、埼玉県立近代美術館利用審査会が設置されている。また、講演会や集会などの会場として講堂を貸し出している。平成26年度の一般展示室の利用状況は次表のとおりで、団体展、グループ展、個展などの形態で、日本画、洋画、彫塑、現代美術、書、写真などさまざまな分野の作品が展示された。

一般展示室

- ・利用単位：1週間（月曜日の午後1時→翌週月曜日正午）。
連続の場合は最長3週間。
- ・使用料（1週間につき）：一般展示室

1—	234,360円
2—	90,720円
3—	52,920円
4—	30,240円

講堂

- ・利用単位：1時間
- ・使用料：1時間あたり2,160円

■一般展示室利用状況

No.	展覧会名	開催期間 H24年度		開催 日数 (日)	利用室	分 野	展示 点数 (点)	観覧 者数 (人)	一日平均 観覧者数 (人)
		自	至						
1	第42回主体育術武蔵野作家展	4月2日	4月6日	5	1	水彩、油彩、ドローイング	75	1,454	290
2	第8回ラレット展	4月2日	4月6日	5	2・3	日本画、水彩ほか	33	1,007	201
3	第4回純銀粘土作品展	4月2日	4月6日	5	4	工芸	204	1,303	260
4	U展	4月8日	4月13日	6	1	油彩	94	1,212	202
5	浦和写真クラブ作品展「自然と風土」	4月8日	4月13日	6	2	写真	71	1,271	211
6	第2回私の自然展	4月8日	4月13日	6	3	写真	40	935	155
7	第19回溪水会展	4月8日	4月13日	6	4	日本画、水彩、油彩ほか	56	824	137
8	第30回さいたま園秀100選展	4月15日	4月20日	6	1	書	87	1,741	290
9	第5回埼玉植物画の会作品展	4月15日	4月20日	6	2	水彩	94	1,772	295
10	自然写真の会「彩」写真展	4月15日	4月20日	6	3	写真	41	1,001	166
11	彩美展	4月15日	4月20日	6	4	水彩、油彩、工芸	40	1,263	210
12	第38回埼玉女流工芸展	4月24日	4月27日	4	1	工芸	177	2,223	555
13	第19回彩の国さいたまきりえ展	4月22日	4月27日	6	2	きりえ	81	1,562	260
14	第10回埼玉県ネーチャーフォト支部写真展	4月22日	4月27日	6	3	写真	78	1,297	216
15	第18回埼玉二科展	4月29日	5月4日	6	1~3	油彩、彫刻、デザイン	183	1,424	237
16	西尾路子展	4月29日	5月4日	6	4	現代美術、インスタレーション	10	850	141
17	第64回埼玉県美術展覧会（県展）	5月27日	6月18日	20	1~4	日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真	1,675	26,222	1,311
18	第32回埼玉県高等学校写真連盟写真展	6月25日	6月30日	5	1	写真	1,001	1,500	300
19	第23回工芸新樹会公募展	6月25日	6月30日	5	2	工芸	50	577	115
20	岸雅翠・古稀記念展	6月25日	6月30日	5	3	書	104	278	55
21	第5回椿会 創作人形展	6月25日	6月30日	5	4	工芸	120	1,042	208
22	第13回埼玉独立展	7月1日	7月6日	6	1	水彩、油彩、ドローイング	60	820	136
23	第8回埼玉モダンアート展	7月1日	7月6日	6	2・3	油彩、版画、彫刻	35	832	138
24	第5回彩友会がたニカルアート展	7月1日	7月6日	6	4	水彩	68	842	140
25	第52回新構造埼玉展	7月8日	7月13日	6	1	水彩、油彩、ドローイングほか	124	717	119
26	第29回アート現学展	7月8日	7月13日	6	2	油彩、アクリル、コラージュ	37	485	80
27	第8回フォト・トルトゥーガ展	7月8日	7月13日	6	3・4	写真	159	1,154	192
28	第41回埼玉二紀展	7月15日	7月20日	6	1~4	油彩、彫刻	115	885	147
29	Heart Art in SAITAMA 2014	7月22日	7月27日	6	1	日本画、水彩、油彩ほか	100	886	147
30	親子三代展	7月22日	7月27日	6	2	写真、アートフラワー、折り紙	150	938	156
31	第27回白の会洋画展	7月22日	7月27日	6	3	油彩、パステル	28	901	150
32	16th BANSEI EXHIBITION	7月22日	7月27日	6	4	インスタレーション	60	584	97
33	第27回墨芳展	7月29日	8月3日	6	1・3	書	146	903	150
34	第21回基の会展	7月29日	8月3日	6	2	油彩、アクリル	20	710	118
35	第3回大野哲夫手作り絵画展	7月29日	8月3日	6	4	水彩、油彩、ドローイング	37	800	133
36	第31回埼玉県写真サロン	8月5日	8月10日	6	1	写真	507	1,238	206
37	第24回旺玄会埼玉支部展	8月5日	8月10日	6	2・3	水彩、油彩、アクリルほか	106	828	138
38	橡の会第5回展	8月5日	8月10日	6	4	油彩、アクリル	32	672	112
39	第48回埼玉平和美術展	8月12日	8月17日	6	1~4	絵画、彫刻、工芸ほか	326	2,591	431
40	清水和良写真展「ワールドカップの記録」	8月19日	8月24日	6	1	写真	217	1,335	222
41	第34回太平洋埼玉展	8月19日	8月24日	6	2・3	水彩、油彩、版画	75	1,073	178
42	第5回自写自賛写真展（小中四平写真展）	8月19日	8月24日	6	4	写真	57	918	153
43	第17回西遊会美術展	8月26日	8月31日	6	2	絵画、彫刻、工芸ほか	60	815	135
44	第58回埼玉書道展	8月28日	8月31日	4	1・3・4	書	742	1,511	377

■平成26年度入館者数一覧

平成27年3月31日現在

	入館者数	展 示 事 業							
		MOMAS コレクション	企 画 展 示						
			ピカソの陶芸 —地中海にはぐくまれて	戦後日本住宅伝説 —挑発する家・内省 する家	企画展計	コレクション展 in 深谷	ポスター・ デザイン展	たまもの in 川越	
開催期間	4/2(水) ～ 8/31(日)	4/2(水) ～ 8/31(日)	4/5(土) ～ 5/18(日)	7/5(土) ～ 8/31(日)		10/7(火) ～ 10/26(日)	12/23(火) ～ 1/8(木)	1/24(土) ～ 3/15(日)	
日 (日) 数	128	124	39	51	90	20	11	44	
観 覧 者 数 利 用 者 数 (人)	125,476	24,675	9,352	19,322	28,674	3,376	1,440	7,930	
1日当たり平均 (人)	980	198	239	378	318	168	130	180	
有 料	一般個人	入館料 無 料	11,646	5,126	9,664	14,790	観覧料 無 料	観覧料 無 料	5,231
	一般団体		1,215	420	534	954			
	大高個人		1,221	219	1,589	1,808			
	大高団体		48	53	135	188			
	(人) 合 計		14,130	5,818	11,922	17,740			
無 料 (人)	-	10,545	3,534	7,400	10,934	3,376	1,440	2,699	

	普 及 事 業					貸館事業	
	企画展 関連	MOMAS コレクション 関連	教育・普及 関連	SMF事業 関連	資料閲覧室	一 般 展示室	埼玉県 美術展覧会
開催期間	4/12(土) ほか	4/13(日) ほか	4/5(土) ほか	4/1(火) ～ 3/31(火)	4/2(水) ～ 8/31(日)	4/2(水) ～ 8/31(日)	5/27(火) ～ 6/18(水)
日 (日) 数	10	8	38	-	128	88	20
観 覧 者 数 利 用 者 数 (人)	958	246	1,310	8,363	1,806	46,974	26,232
1日当たり平均 (人)	95	30	34	-	14	533	1,311
有 料	一般個人	-	-	-	-	-	-
	一般団体						
	大高個人						
	大高団体						
	(人) 合 計						
無 料 (人)	-	-	-	-	-	-	-

月別入館者数													
月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
(人) 入館者数	23,306	22,707	26,544	20,445	32,474	-	-	-	-	-	-	-	125,476

■名簿

■埼玉県立近代美術館協議会委員

平成27年3月31日現在

選出区分	氏名	現職
学校教育関係者	坂本 勤美	埼玉県市町村教育委員会連合会会長 秩父市教育委員会委員長
	矢嶋 廣明	埼玉県美術教育連盟連盟長 熊谷市立星宮小学校長
社会教育関係者	遠山 公一	(公財)遠山記念館理事長 慶應義塾大学文学研究科委員
	塗師 祥一郎	埼玉県美術家協会会長 洋画家
家庭教育関係者	志村 洋子	埼玉県家庭教育振興協議会理事 埼玉大学教育学部非常勤講師
学識経験者	井原 實	(株)与野フードセンター代表取締役社長
	岩瀬 千潮	タウン誌編集者 (一社)「アコレおおみや」編集室代表
	恩地 元子	東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科 非常勤講師
	國島 徳正	さいたま市公共施設マネジメント会議委員
	佐滝 剛弘	NHKさいたま放送局副局長 日本イコモス委員
	神保 ふみえ	染色画家
	野口 真理	春日部市景観絵画コンクール審査員 陶芸家

■埼玉県立近代美術館資料選考評価委員会委員

平成27年3月31日現在

氏名	現職	任期
青木 茂	明治美術学会会長	25.5.1～27.4.30
酒井 忠康	世田谷美術館長	25.5.1～27.4.30
真保 亨	筑波大学名誉教授	25.5.1～27.4.30
山梨 俊夫	国立国際美術館長	25.5.1～27.4.30
金子 賢治	茨城県陶芸美術館長	25.5.1～27.4.30

■埼玉県立近代美術館利用審査会委員

平成27年3月31日現在

氏名	現職	任期
飯野 一朗	彫金作家 東京芸術大学教授	27.1.15～29.1.14
栗崎 浩一路	書家 熊谷市美術家協会顧問	27.1.15～29.1.14
小澤 基弘	洋画家 埼玉大学教育学部教授	27.1.15～29.1.14
齋藤 研	洋画家 独立美術協会会員	27.1.15～29.1.14
内藤 五瑠	日本画家 日本美術院特待	27.1.15～29.1.14
増田 明弘	写真家 全日本写真連盟埼玉県本部顧問	27.1.15～29.1.14
佐藤 裕之	県教育局 生涯学習文化財課長	27.1.15～29.1.14

■埼玉県立近代美術館職員

平成27年3月31日現在

担当	職名	氏名
総務・管理担当 総務担当	館長(非常勤)	建 畠 哲
	副館長	依 田 英 樹
	担当部長	佐 藤 敏 光
	担当課長	小 野 圭 弘
	主任	佐 藤 嘉 章
	主事	山 田 恵
	担当課長	鈴 木 亨
	主任	田 中 浩一郎
	主任	結 城 孝 誠
	主席学芸主幹	中 村 誠
企画展・教育・広報、 常設展・収蔵品担当	学芸主幹	大 越 久 子
	主任学芸員	平 野 到
	学芸員	五 味 良 子
企画展・教育・広報担当	学芸員	吉 岡 知 子
	主任専門員兼学芸員	伊豆井 秀 一
	担当課長	山 水 明
	担当課長	矢 花 俊 樹
教育・広報担当	主任	落 合 範 崇
	主任専門員兼学芸員	前 山 裕 司
	主任学芸員	梅 津 元
	主任学芸員	渋 谷 拓
	学芸員	大 浦 周
常設展・収蔵品担当	嘱託(非常勤)	鏑 木 あづさ

埼玉県立近代美術館年報〔平成26年度〕

発行：埼玉県立近代美術館

〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1

電話：048-824-0111(代)

平成28年3月